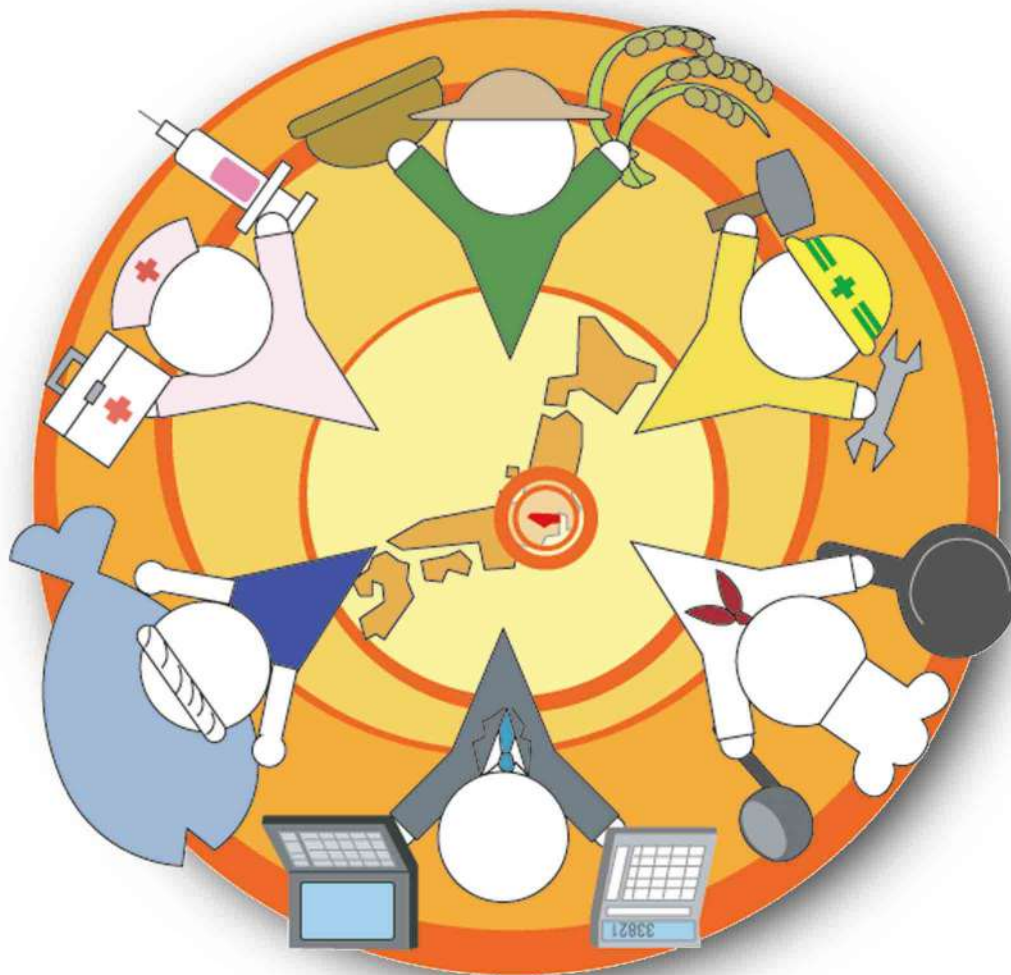


東京の産業教育

特集 主体的・対話的で深い学びを目指した
産業教育の推進—各校・各学科の取組—



令和4年度 第60号
東京都産業教育振興会

東京の産業教育 第 60 号 目次

巻頭のことば 「主体的・対話的で深い学びに向けて」
東京都立江東商業高等学校長 岡 本 裕 之・・・ 1

特集 主体的・対話的で深い学びを目指した産業教育の推進—各校・各学科の取組—

- 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた社会の人材を活用した専門高校の取組
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 宗 川 良 子・・・ 2
- 2 スクールミッション『夢を創造する農業・家庭のプロフェッショナル』を目指して
東京都立農業高等学校長 一 ノ 瀬 淳・・・ 4
- 3 ICT利活用や観点別・到達度評価に基づく指導の工夫と評価の一体化
東京都立府中工業高等学校長 鈴 木 誠・・・ 6
- 4 主体的で対話的で深い学びを目指した産業教育の推進—第三商業高校ビジネス科の教育活動—
東京都立第三商業高等学校副校長 加 藤 由希子・・・ 8
- 5 学び続けるスペシャリストの育成を目指した主体的・対話的で深い学びの実践
東京都立忍岡高等学校副校長 安 藤 さよ子・・・ 10
- 6 主体的・対話的で深い学びを目指した産業教育の推進
東京都立つばさ総合高等学校長 片 桐 あかね・・・ 12
- 7 コロナ禍における主体的・対話的で深い学び
大森学園高等学校教頭 石 川 和 弘・・・ 14
- 8 主体的・対話的で深い学びを目指した取組
中央学院大学中央高等学校長 大 橋 治 久・・・ 16
- 9 健康で豊かな食生活を実践しようとする生徒の育成—問題を見極め課題を設定し解決する学習活動を通して—
練馬区立中村中学校主幹教諭 渡 邊 あづさ・・・ 18
- 10 グローバルリーダーの育成を通し、主体的・対話的で深い学びを目指す桜修館中等教育学校の取組
東京都立桜修館中等教育学校長 石 崎 規 生・・・ 20
- 11 主体的・対話的で深い学びの美容教育を求めて
ハリウッド美容専門学校副校長 岡 崎 俊 彦・・・ 22
- 12 都立産業技術高専荒川キャンパスにおける取組
東京都立産業技術高等専門学校荒川キャンパス教務主事 中 野 正 勝・・・ 24

東京の産業界

- 1 2030 年代に向けて 力強く成長し続ける都市・東京へ
東京商工会議所常務理事 小 林 治 彦・・・ 26
- 2 学校からの法律相談で心がけていること
涼和総合法律事務所弁護士 飯 田 豊 浩・・・ 28

情報スクエア

- 1 文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業【地域魅力化型】」指定校の取組（第2年次）「八丈やろごんプロジェクト」～八丈島を支える人材の育成～

	東京都立八丈高等学校長 佐藤 俊一	30
2	文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」事業特例校の取組（2年次）	
	東京都立五日市高等学校長 久保田 聡	32
3	第21回全国中学生創造ものづくり教育フェア	
	全日本中学校技術・家庭科研究会フェア事務局長	
	世田谷区立玉川中学校長 奥 平 雄二	34
4	第19回創造ものづくりフェア in TOKYO	
	東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長	
	大田区立大森第八中学校長 保 谷 満	36
5	第32回全国産業教育フェア青森大会 さんフェア青森2022	事務局 38
6	第64回全国産業教育振興大会（青森大会）	事務局 39
7	専門高校生海外派遣研修アラブ首長国連邦（UAE）工業コース（ドバイ）に参加して	
	東京都立府中工業高等学校長 鈴木 誠	41

報 告

1	令和4年度 総会・講演会報告	43
2	令和4年度 講演会・講演要旨 「令和の日本型学校教育の構築」	
	上智大学総合人間科学部教育学科教授 中央教育審議会教育課程部会委員 奈 須 正 裕 氏	44
3	令和4年度 東京都産業教育振興会教育功労者表彰	59
4	令和4年度 東京都産業教育振興会後援事業	60
5	令和4年度 産学懇談会（第1回）	62
6	令和4年度 産学懇談会（第2回）	64
7	令和4年度 産学懇談会（第3回）	66
8	令和4年度 第32回東京都産業教育振興会作文コンクール	
(1)	入選者一覧	68
(2)	最優秀作文	70
(3)	応募校一覧	74
(4)	応募校数・応募者数・入選者数の推移	75
(5)	作文のテーマ別応募者数一覧	76

本会の概要

1	令和4年度 事業経過報告（令和5年2月20日現在）	77
2	令和3年度 決算	80
3	令和4年度 予算	81
4	令和4年度 東京都産業教育振興会役員	82
5	令和4年度 東京都産業教育振興会各委員会委員	83
6	東京都産業教育振興会会則	84
7	令和4年度 会員名簿	86
8	入会案内・編集後記	112
	広告目次	113

巻頭のことば

主体的・対話的で深い学びに向けて

東京都産業教育振興会副会長

東京都立江東商業高等学校長 岡 本 裕 之



東京都産業教育振興会の皆様におかれましては、日頃から専門高校の教育活動にご支援・ご協力を賜り感謝申し上げます。3年あまり続くコロナ禍により、学校においては感染防止策でオンライン授業やハイブリッド授業などが新たな日常に向けて実施されています。また、本会においては人流抑制などで会議等がオンライン形式で実施されていましたが、今年度は『産学懇談会』が3回にわたり専門高校や専門学校を会場に実施され、授業見学や施設・設備見学や情報交換がなされ、産業界からの熱い思いを受け取ることができました。

コロナ対応がまだ続く状況ですが、高等学校においては今年度から年次進行で、新教育課程が実施されています。紐解けば平成28(2016)年、中央教育審議会から答申で学習指導要領等改訂の方向性が示され、これを受けて平成30(2019)年に告示された高等学校学習指導要領では、「知識及び技能」(何を理解しているのか)、「思考力、判断力、表現力等」(理解していること、できることをどう使うのか)、「学びに向かう力、人間性等」(どのように社会、世界と関わり、よりよい人生をおくるか)をバランスよく育成することが示されています。高等学校における教育が小・中学校に比べて知識伝達型の授業になっていることが指摘されています。卒業がゴールではなく、引き続き将来の社会生活に必要な力を付けることが重要であり、「主体的・対話的で深い学び」による授業改善が求められています。これらを実現することで、生徒はこれからの時代に求められる資質・能力を身に付けて、生涯学習として確立できるようになります。「主体的な学び」では学習と自己のキャリア形成を関連付け、「対話的な学び」では他者との協働の中で自己の考えを広げ深め、「深い学び」では学びの過程で習得や活用、探究の中で見方や考え方を働かせて問題解決を図ることにより、授業改善に結び付くと考えます。

新学習指導要領の着実な実施においては、探究に向けた学習が中心となり専門高校として高い専門性と意欲をもって学ぶ仕組みが重要であり、「課題研究」は総合的な探究の時間の代替科目となっています。また、今年度から1年生で導入された一人1台端末については、4月入学時から各種設定や操作方法の説明を受け、普通教室での授業や様々な活動の中で活用され、生徒の前向きな取り組みに効果が表れています。専門高校では入試倍率の状況とともに基礎学力低下が危惧されており、学習習慣がない中で学び合う力を付けることは難しい現状もあります。新たな教育活動を実現するため、引き続き専門高校で学ぶ生徒に向けて皆様のご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。

特集 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた —各校・各学科の取組—



主体的・対話的で深い学びの実現に向けた 社会の人材を活用した専門高校の取組

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 宗川 良子

1 はじめに

令和4年4月から年次進行で実施している高等学校学習指導要領においては、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進について、「生徒一人一人に社会で求められる資質・能力を育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出していくことが、これまで以上に重要となっている」と示されています。

そのため、各学校においては、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、学校全体として、生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育内容や時間の配分、必要な人的・物的体制の確保、教育課程の実施状況に基づく改善などを通して、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントに努めることが求められています。

また、産業教育においては、地域や産業界等との連携が重要であり、学校と産業界等が情報交換を行うとともに、外部講師の活用等による取組も期待されています。

そこで、本稿では、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、都立専門高校における社会の人材を活用した取組や都教育委員会による各学校への支援について紹介します。

2 社会の人材を活用した学校の取組

【農業系高校の取組】

【ケースA】

- ・食品企業からの打診を受け、地域の特産品を加えた「カップ焼きそば」の新商品を共同開発した。

ケースAは、地域の魅力を伝えることのできる食材について、地域の方への調査や話し合いを踏まえて生徒が意見を出し合い、原価等も考慮し、商品を開発した事例です。商品開発の過程では、食材の味や形状にとどまらず、パッケージの検討など、商品ができるまでの工程を各学年で分担・協力して議論することで、各自が考えを深めことができました。また、地域の食材を使用した商品開発に取り組むことにより、地域の魅力を再認識するとともに、地域の新たな課題を解決する意欲の向上にもつながっています。

【工業系高校の取組】

【ケースB】

- ・「課題研究」で、「東京都高校生コマ大戦」に向けて、外部の専門家の指導を受けながら、コマの設計、回し方、試作品の製作について学んだ。

ケースBは、自ら課題を設定し、主体的かつ協

働的に取り組む学習活動である「課題研究」において、外部人材を活用し、課題解決に取り組んだ事例です。「コマ製作」をテーマに研究している生徒が研究を進める上で、専門家とともに、コマのバランス等の基礎知識を踏まえてコマの設計や試作品を製作することにより、試行錯誤しながら創造的な活動の楽しさを実感し、学び続けていく力を育成することができました。

【家庭系高校の取組】

【ケースC】

- ・企業が実施している「高校生おせち」企画に参加し、調理の専門家や地域の生産者とともに、1年間をかけてプロジェクトに取り組み、商品を完成させ、全国で販売した。

ケースCは、専門家や生産者の助言を受けながら、クラスやグループで対話や試作を繰り返し、地域の食材を取り入れた商品を完成させた事例です。おせち料理を作るだけでなく、専門家や地域の生産者からの助言を受けながら、地域の食材や食文化についても調査・研究し、消費者のニーズを把握しながら商品を改善することで、授業での学びを更に深め、生徒の主体性を引き出すことができました。

3 都教育委員会による支援

産業教育において、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、地域や産業界等と連携した学習活動の充実が欠かせません。

都教育委員会は、令和4年度から、都立商業高校を対象とした「商業教育コンソーシアム東京」の取組を一層充実させるとともに、全ての都立専門高校への普及・展開を図っています。具体的には、探究的な学習やアントレプレナーシップ教育等の充実に向け、「社会の人材を活用した教育を実現するための授業支援研究指定校」を指定し、実際のビジネス活動を体験する機会を設けるなど

の取組を推進しています。

この事業において、指定校は、専門家等による講演や演習、市場調査やフィールドワーク等を行い、実際の販売を目指して、これまで製作・開発してきた製品や商品の価値を高める学習を行いました。生徒は、専門家等から講評により、新しい気づきを得ることができ、課題に立ち向かい解決する力や自分自身の可能性を高めることにつながりました。

また、社会の変化と期待に応える人材の育成を目指すとともに、生徒の能力の伸長と進路実現を図るため、専門高校が推進する系統的・継続的なキャリア教育を支援する「専門高校における民間OB等活用事業指定校」を指定しています。具体的には、民間企業の社員やOB等を活用し、授業だけでなく、昼休みや放課後等において生徒との交流を通じて、生徒に社会とのつながりを強く感じさせています。

この事業において、指定校は、実習をはじめとする授業や進路指導等、生徒への指導にとどまらず、教員の授業力の向上を目指した教員研修や実習資料の編さんの場面で指導を受けています。民間企業の社員やOB等の指導により、生徒が将来の進路に関して、より具体的に深く考えることや資格の取得、また、教員の意識改革や新しいカリキュラムの検討等にもつながりました。

4 今後の取組

専門高校においては、専門的な知識・技術の定着を図るとともに、社会や産業における新たな課題の解決に向けて、多くの人と協力して学び続けたり、広い視野でよりよい社会の構築に取り組むことも必要です。

今後も、各学校は、地域や産業界等と連携を強化して、実践的・体験的な学習の更なる充実に向けて取り組んでいきます。



スクールミッション『夢を創造する農業・家庭のプロフェッショナル』を目指して

東京都立農業高等学校長 一ノ瀬 淳

1 はじめに

この4月より、平成30年3月に告示された新学習指導要領が年次進行で実施され、学校では、主体的・対話的で深い学びの授業への転換や観点別評価の導入、一人一台端末の導入など、これまでにない大きな変化が起こっている。また、新型コロナウイルス感染症により学校経営も大きく変容してきた。第7波もようやくピークを過ぎ、週ごとの感染者数は減少傾向にあるが、学校は、時差登校、登校時の検温、毎日の健康観察などの感染対策を継続している。文化祭や体育祭、修学旅行、部活合宿などの学校行事は、コロナ以前の実施形態ではないが、ガイドラインに基づき各学校が工夫をした中でようやく実施できるようになってきた。

今後、アフターコロナ、ビヨンドコロナを見据えた学校経営が求められている。

2 学校の概要

本校は明治42年、東京府北多摩郡立農業学校として創立、大正12年に東京府に移管され、東京府立府中農蚕学校と改称された。昭和23年、東京都立新制農業高等学校として農業と家庭の各科を設置、昭和25年、東京都立農業高等学校となり、現在は農業科として都市園芸科、緑地計画科、食品科学科の3学科、家庭科として服飾科、食物科の2学科を設置する専門高校である。

食物科は、厚生労働大臣指定の調理師養成施設として国家資格「調理師免許」を取得できる学科であり、服飾科は都立高校唯一の学科である。

本校は開校当時から常に社会の変化に対応した

先進的な取り組みを行い、農業及び家庭に関する専門教育を積極的に推進してきた。

今年度より、三つの柱からなるスクールミッションを「①人とのつながりを大切にし、地域社会に貢献できる生徒、②創造力を働かせ、意欲的に衣食住に係る提案をすることができる生徒、③専門的な知識や技術を生かし、プロフェッショナルとして活躍できる生徒を育成する」と定めた。また、『夢を創造する農業・家庭のプロフェッショナル』を未来の生徒像とし、専門教科、普通教科の学び、特別活動をとおして学校全体としてスクールミッションの実現に取り組んでいる。

3 主体的・対話的で深い学びを目指して

(1) 教育課程推進部を中心とした組織的な取組

令和3年度より、新学習指導要領の導入に向けて、教育課程推進部という新分掌を3年間の期間限定で立ち上げた。メンバーは、普通科主幹教諭1名、農業科・家庭科主任教諭各1名である。昨年度は、教育課程決定、グランドデザインの策定、観点別評価に向けた準備・研修、「人間と社会」のテキスト作成を行った。今年度は、主体的・対話的で深い学びを目指して、以下のことに取り組んでいる。

- ①授業力の向上・授業改善を目的とした研修会の実施（月1回）
- ②授業評価アンケートの実施（年間2回）
- ③教員による相互授業観察の運営と実施
- ④新教育課程実施における教育活動の充実
- ⑤教育活動に関連した外部への情報発信の推進

（２）教科間連携と地域連携による学びの充実

新学習指導要領では、教科横断的な視点に立った資質・能力の育成が求められている。今年度より教科間・学科間の連携を取り入れた授業実践を始めている。教育課程推進部が中心となり、教科の代表者とプロジェクトチームを作り、深い学びにつながるような共通のテーマや教材を用いた授業研究を進めている。

具体的には、①服飾科ファッションショーと都市園芸科草花デザイン装飾との教科間連携、②食物科と園芸科学科が連携した生ごみの堆肥化と野菜栽培、③藍をとおした理科、服飾科、都市園芸科の教科間連携などがある。

また、新型コロナウイルス感染症によって制限をされていた催し物などの参加による地域連携・貢献の取組も今年度は再開され、生徒の学習の発表の場となっている。

４ 特色のある教育活動の取組

（１）けやきプロジェクト

農業科の学習指導要領の改訂で、全ての科目でプロジェクト学習の実践が必須となった。緑地計画科では、天然記念物の馬場大門ケヤキ並木を用いたプロジェクトを題材として扱っている。

都市化や温暖化の影響で、樹勢が落ちているケヤキを更新するために、府中市と協力して活動に取り組んでいる。地域の課題解決を図るために、種子を拾い、苗木を育成・更新する。そして、近隣の小中学校とケヤキ並木をとおした交流や地域貢献活動をしている。まさに、開かれた教育課程であり、協働的な学びの好例となっている。



写真１ 小学生への説明

（２）高大連携の取組

令和３年度より、農業科が東京農工大学と連携した取組が始まった。生徒は、高校段階から大学レベルの研究に触れることにより、専門教科の学習意欲が非常に高まり、深い学びへとつながっている。進路についても、生徒の目的意識が明確になり、大学進学へ意欲も高まってきている。また、今年度は、「課題研究」の授業で、大学院生から研究方法や進め方について指導を受ける試みも始まった。

表１ 令和３年度の連携講座・実験

学 科	講義・実験内容
都市園芸科	・ 稲の生育調査 ・ 遺伝子組換えに関する講義
緑地計画科	・ 都市の緑と生物多様性保全 講義
食品科学科	・ 「麴（こうじ）菌と酵素」に関する講義

５ 今後の課題

多くの生徒は、専門教科や専門分野に興味や関心を持って入学してくる。前向きに学校生活を送り、授業にもしっかりと取り組んでいる。

昨年度の卒業生が専門関連分野へ進路選択した割合は、農業学科が約 60%、家庭学科が約 85%であった。学科によっては、専門性を生かした就職先や進学先が少ないところもあるが、この割合をさらに高めていくことが本校の課題である。

そのためには、「キャリア形成と結びつけた主体的な学び」、「生徒同士や地域連携をとおした対話的・協働的な学習」、「プロジェクト学習・教科間連携による深い学び」を目指した授業実践の推進が重要となってくる。

専門科目での一人一台端末の活用、専門教科における ICT 活用、地域社会や地域産業との連携などクリアすべき課題もある。

スクールミッション達成を目指し、農業関連産業、服飾・調理関連産業の担い手の育成と産業分野の発展に繋げていくことが本校のゴールである。



ICT利活用や観点別・到達度評価に基づく指導の工夫と評価の一体化

東京都立府中工業高等学校長 鈴木 誠

1 はじめに

令和4年4月、改訂された高等学校学習指導要領に基づき、「生きる力」の理念を実現するため、一層の具体化に向けた教育活動が始動した。

東京都教育委員会は、Society5.0の到来や社会のDX（デジタルトランスフォーメーション）化に対応できるよう、令和4年度に入学する生徒から1人1台端末の購入を助成し、ICTを利活用できる授業を展開するなどして、より深い学びに向けた学習環境を整備するとともに、各教科・科目等において観点別評価を実施し、生徒の学習状況の到達度について、一層きめの細やかな評価を行うこととした。

こうした中、現在、本校が取り組んでいる主体的・対話的で深い学びを目指した授業の工夫や観点別評価、新たな指導方法の導入について報告を行う。

2 学校の概要

本校は、東京都多摩地域の中心、かつて武蔵国の国府があった府中市に位置し、今年度創立60周年を迎えた。機械科、工業技術科、情報技術科及び電気科の4学科を設置し、電気科のみ2学級の計5学級編成、1学年定員は175名である。

令和4年度、東京都教育委員会から、IT人材を育成するため企業・業界団体や専門学校等と連携し、実践的な専門科目の授業の展開や職業人としての勤労観などを育むことを目的に教育活動を行う、「Tokyo P－TECH（トウキョウピーテック）事業」の指定を受け、情報技術の利活用を通して一層の指導の充実を目指している。

また、地域のものづくり産業を担う人材を早期から発掘し、興味・関心を高めることができるよ

う、府中市教育委員会の協力を得て、同市内近隣の小・中学生に来校してもらい、本校の旋盤やレーザー加工機等の実習装置など多くの産業教育施設や、課題研究等で生徒が制作した自動車やミニ電車等の体験など、専門高校の特色を紹介している。

さらに、府中市及びむさし府中商工会議所と連携し、中小企業等の優れた技術や製品を広くPRし、同市民や子供の関心を高めることを目的に開催する府中市工業技術展の参加やお手伝い、2学年全員が参加するインターンシップを通して、地域産業の担い手となるよう取り組んでいる。

3 主体的・対話的で深い学びを目指して

困難な問題の解決や、解決策が一つに定まらない、又は答えのありそうにない課題が直面する次代を生き抜く人間を育成するため、一人一人の判断や考えを互いに尊重した上で、意見を出し合い、まとめ、よりよい解決を目指していくことは重要であり、集団活動において生徒が語り合う言語活動が教育上有益であることは、言うまでもない。

しかしながら、我々は期せずして新型コロナウイルス感染症への対応という課題に直面し、様々な議論を経て、「新たな生活様式」というフェーズに進化することとなった。その結果、我々の社会生活は、テレワークやオンライン会議、ネットショッピングや電子決済など、社会の働き方改革と相まって、デジタル化やDX化が、急速に普及し始めている。

（1）学校全体の取組

学校生活においても臨時休校から分散登校、オンライン学習を経て、生きる力に必要な資質・能力を育む生徒の学びを継続するため、現在は、感

染状況に応じて対面・非対面型の両方に対応可能なハイブリッド型学習環境を、座学・実習を問わずすべての授業で実施できるよう整備している。

また、各教科・科目等においても、感染症対策を十分講じた上で、生徒の主体的・対話的で深い学びを实践できるよう、意図的・計画的な指導計画を作成し、授業展開の工夫を行うこととしている。さらに、授業のねらいを明確にして、単元又は本時の学習到達度の目標について、3観点に基づき段階的に表した、「ループリック」を事前に示すなどして、授業改善を図っている。

なお、授業の終わりの場面では、本時の振り返りができるよう、学習内容の理解度や到達度、授業を受けた感想等を、個人端末（タブレット）に入力して送信させるなどして、教育環境のDX化を図りながら、授業改善に活用している。

（２）学科・教科の取組

こうしたループリック表に基づく授業の実践は、教育課程委員会を中心に報告され、よりよい授業改善へとつながっていく。各教科主任からは、生徒の評価を行う上での観点別評価の改善に向けて、各教科の取組状況を同一フォーマットにまとめるとともに、指導と評価の一体化に取り組み、よりよい授業を目指し不断の努力を重ねている。

主体的で対話的な深い学びについては、専門科目・普通科目を問わず、学校全体で取り組んでおり、いくつか事例を報告する。

地理歴史科では、地理で学習する等高線や地形について、タブレットを用いて、インターネットで調べさせるとともに、立体的な3D画像等を、生徒一人一人が関心に応じて自由に操作し、理解することができるため、同一の教材を使って述べる感想とは異なり、生徒自身の言葉で互いに発表し合うことで、他者の意見や発表内容に対するコメント等から自分が気付かなかったことを発見できるなど、学習内容の深い学びにつながった。

外国語（英語）科では、世界を旅するツアーコンダクターになったと仮定し、班別学習で調べた国や地域について、簡単なプレゼンテーション用

スライドに画像や動画、テキストを入力し、英語で紹介し合う学習活動を行っている。班別学習での対話や、質問時間を設けるなどして、コミュニケーション能力の育成を図るなどして、英語に関する4技能の観点について評価するとともに、授業改善に役立てることができた。

電気科では、座学・実習を問わず、前述したループリックに基づき、授業を展開するため、例えば、実習では、どんなことを何のためにするのかという授業のねらいについて、授業者及び生徒の共通理解を図るとともに、生徒が授業に見通しをもつことで、どこまでできればよいのか、どこまでできているのかなど、主体的に参加する態度の育成にも効果的であることが分かった。

4 今後の課題

本校だけでなく、都立工業高校は現在、東京都教育委員会の御支援を得て、新しい時代に対応した工業高校にアップデートし、最先端の科学技術等を授業に導入できるよう、産業教育機器、新型実習機械等の設置や更新、新たな連携企業開拓、教員の企業派遣研修や他県先進校視察研修など、各校の努力だけでは為しえない学校改革に取り組んでいる。

教科工業では、工業情報数理が新たに設置された。単にプログラミング学習を技能として習得するだけでなく、獲得している知識を活用しながら、なぜなのか、どうしたらよいのかなど、論理的な思考を通して考えさせる、「問題解決型学習（PBL）」への授業改善が求められている。

本校では、文部科学省の教科研修に参加した教員を中心に、金沢工業大学、拓殖大学、千葉工業大学、秋田大学、日本工学院八王子専門学校及び関係の教育有識者を構成員とする教育手法の開発協議を開始し、先行的な実践を開始している。

知識基盤社会に生きる生徒が、我が国の産業の担い手となり、社会の一員として貢献できるよう、授業改善を重ね、新しい教育活動を展開していく。



主体的で対話的で深い学びを目指した産業教育の推進 —第三商業高校ビジネス科の教育活動—

東京都立第三商業高等学校副校長 加藤 由希子

1 はじめに

新学習指導要領の商業の目標は商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指している。本校では全学年が授業で取り組んでおり、実践事例を紹介する。

2 学校の概要

生徒一人ひとりが光り輝く学校「SUN 商」～資格、部活、地域とのパートナーシップで人間力を高める三商～をスローガンとしている。

1 目指す学校像

- (1) 生徒一人ひとりの人権を尊重しながら、基本的生活習慣を確立し、個性の伸長に努め、豊かな人間性の育成と健康の増進を図る。
- (2) 基礎学力を身に付けさせ、生徒一人ひとりの能力や適性を引き出すとともに、主体的に判断し行動できる資質や能力の育成を図る。
- (3) 日本の経済社会を担う人材を育成するため、ビジネスに関する基本的な知識と技術を習得させるとともに、専門性の深化を図る。
- (4) 地域貢献活動や地域連携活動により、健全育成を図るとともに、魅力ある商業高校として、地域に愛され、深く信頼される学校として教育活動の充実を図る。

2 学校の教育目標

- (1) 互いの人格を尊重し合うとともに基本的生活習慣を身に付け、自他の個性の伸長に努めることができる豊かな人間性をもつ生徒を育成する。

(2) 日本の経済社会を担う経済人としてビジネスに関する優れた知識や技能を修得し、これからの国際社会で活躍する国際人として自ら行動できる教養と見識をもつ生徒を育成する。

(3) 地域産業の発展並びに文化の向上に貢献し、規範意識と良識ある都民としての自覚と責任をもつ生徒を育成する。

(4) 優れた伝統を継承し、社会の変化に即応しながら誠実な態度をもって常に積極的に前進する志と意欲をもつ生徒を育成する。

3 主体的・対話的で深い学びを目指して

(1) 学校全体の取組

本校では全学年において様々な団体との取り組みを推進している。1 学年は商業教育コンソーシアム東京の連携として一般企業と、2 学年は「ビジネスアイデア」の授業で、地元のプロスポーツクラブ（東京ユナイテッドバスケットボールクラブ）と、3 学年は「課題研究」の授業で、公認会計士や一般企業と連携し取り組んでいる。

(2) 特色ある教育活動の取組

3 学年の事例として、公認会計士の齋藤氏と連携し「テーマ：企業の経営分析の実践、現場体験とプレゼンテーションを通して、経営戦略と計画・決算書の読み方・経営課題・SDGs への取り組みを学ぶ」を展開している。夏休み前に 2 時間をつかって経営分析の基礎的手法を理解し、生徒グループ単位で研究したい企業を選ぶ。夏休み中に生徒グループで企業研究を行い、2 学期、3 学期に研究結果をプレゼンテーションする。



9月8日 公認会計士斎藤氏との連携授業

この授業では様々な業界における企業の経営に精通している、監査法人のパートナー（共同経営者）・公認会計士の方から、企業の決算書の情報や経営計画の情報、SDGsへの取り組みを事例として解説しながら経営分析の基礎的手法を学び、その上で、生徒グループ単位で研究したい企業を選んでもらい、夏休み中に自分たちが選んだ企業やその競合企業の決算書の分析、経営戦略の理解、経営課題の検討、さらにはその企業の事業所での現場体験をグループで実施し、プレゼンテーション資料としてとりまとめていく。2・3学期に各グループから研究成果をプレゼンテーションをして、クラス内の質疑応答を通じてさらに学びを深めている。

また、2学年の「ビジネスアイディア」の授業では、テーマを「(株)TUBCが〇〇〇さんに会社を知ってもらうための江東区でのイベント」として各クラスでグループを編成し、グループ討議でどのような理由でそのテーマに決まったのか、そして各グループがイベントのアイディアとして、以下の点を踏まえて各グループがパワーポイントを作成し、アイディアを出し合い、発表する。

- ①ネーミング⇒どんなイベント名にすると多くの人に興味を持ってもらえるのか。
- ②会社の魅力⇒イベントに盛り込んだ「会社の魅力」は何か。
- ③ターゲット⇒誰に向けたイベントなのか。(イ

ベント主催者と参加者両方の気持ちを考える)そのターゲットの嗜好や趣味を考える。

- ④イベントをする場所⇒有明アリーナ、豊洲らばーと、木場公園等どこでイベントを実施したら効果的か。
- ⑤イベントの概要⇒詳細の内容
- ⑥他のイベントとの違い⇒実際に実施されたイベントとの比較
- ⑦イベントに係る費用の収支計画⇒費用と収入の試算
- ⑧宣伝方法（プロモーション）⇒どんな宣伝や広告の仕方をすればイベントに参加してもらえるか。



9月14日東京ユナイテッドバスケットボールクラブ連携授業

4 今後の課題

研究発表を実施したら、終了させるのではなく、継続してその後もその企業を追跡していく。経営分析の重要なポイントといえよう。決算書を読み、有価証券報告書や企業が公表する説明資料を通じて企業の経営を読み解き、その企業の経営の特徴や抱えている課題を議論できる力を養うことで、新聞やニュース等で耳にする企業経営のキーワードを理解できるようにするとともに、生徒が自分なりの意見をもって議論できるようにしたい。ビジネスの諸活動の現状や変化などの在り方について理解できるようにしていく。今後も継続し、本校の生徒全員を成長させたい。



学び続けるスペシャリストの育成を目指した 主体的・対話的で深い学びの実践

東京都立忍岡高等学校副校長 安藤 さよ子

1 はじめに

平成11年の学習指導要領改訂より専門教育としての家庭科については、生活産業の各分野で必要とされる資質や能力の育成が重視されてきた。さらに今回の改訂では、これまでの教育に加え、グローバル化の進展、情報技術の進歩、産業構造・就業構造の変化に対応するために、自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度の育成が求められている。本校でもコロナ禍における感染症対策を取りつつ、実際に社会問題を解決する体験の機会を構築するため、地域・企業との連携の在り方を模索しているところである。

2 学校の概要

本校は、創立111年目となる歴史と伝統ある都立高校である。全日制単位制高等学校に改編されて17年目となり、普通科4クラス、家庭科に関する専門学の生活科学科2クラスを設置している。教育目標である「たくましく生きる力を身に付けた国際社会に有為な人材を育成する」を実現するために、開設当初より茶道、華道、日本舞踊、おこと、和太鼓などの「日本の伝統・文化」やモダンバレエ、演劇・朗読を学ぶ「文化総合」、韓国語、フランス語などの「外国語」の自由選択科目を設定している。

生活科学科では「将来のスペシャリストとして必要な資質や能力を育てる」ことを目標に掲げ、家庭に関する専門科目を豊富に揃えており、総合的に学ぶことも、専門分野を深めることもできるカリキュラムを展開している。充実した設備、施設・機器を使い、少人数制授業によるきめ細やか

な指導で幅広い知識と確かな技術を身に付けけるとともに、協働的な学びの場を設定している。

2020年3月にフランスのポール・ボワレ校（服飾・演劇分野で芸術と技術を開発するための職業訓練を行う公立学校）と姉妹校協定を結び、作品交流、オンライン交流を行ってきた。今年度7月には「とうきょう総文2022」開会式でファッションショーを共催し、初の対面交流が実現した。

3 主体的・対話的で深い学びを目指して

(1) 学校全体の取組

本校の生活科学科では、1年次に基礎となる家庭科の専門科目を幅広く学び、2年次からは3年次の課題研究を除き、生徒自身の興味・関心や将来の職業選択につながる領域の科目を選択できるカリキュラムを編成している。（図1、2）

1年次	家庭総合 (4)	生活産業基礎 (2)	生活産業情報 (2)	造形基礎 ファッション (2)	フードデザイン (2)	
2年次	選択科目 家庭科専門科目 10					
3年次	課題研究 (3)	選択科目 家庭科専門科目 (1)～(6)				

図1 令和4年度入学生専門科目

食文化	食品衛生	食品	栄養	栄養調理演習	調理	製菓
ファッションデザイン	ファッションデザイン演習	ファッション造形	ファッション造形演習	カラーコーディネート	服飾手芸	保育基礎
保育表現	保育実践	保育実践演習	住生活デザイン	インテリアデザイン	生活と福祉	生活教養

図2 家庭科専門科目

生徒は1年次で学んだ基礎となる知識・技能を用いて、自らが選択した領域において校内外の人間関係を構築しながら学びを進めていく。また、生活産業各分野で必要とされるであろうICT活用スキルの習得を1人1台端末の導入によって実現するために、今年度は栄養価計算ソフトの利用、実習におけるポートフォリオ作成、発表資料の共有、文書作成など、学科全体の様々な授業において端末の活用方法を模索しているところである。

(2) 特色ある教育活動の取組

○資格取得を目指した授業内容

専門性の基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、目標をもって授業に取り組ませるため、資格取得を授業内容に取り入れている。「ファッション造形基礎」「フードデザイン」を必修科目とし、被服製作家庭科技術検定3級、食物調理家庭科技術検定3級を受検する。「生活産業情報」では文書デザイン検定の全員受験、全員合格を目指し指導を行っている。2年次からは1級取得に対応するための選択科目を用意し、高度な技術習得を可能にする学習環境を整えている。また、教員からのアプローチだけでなく、3年次生から1年次生に自身の体験を伝える場を授業や行事で設けている。3年次生には学びの振り返り、1年次生には学習目標を持つ機会となり、縦の関係が生活科学科全体の学びを深めている。

○スペシャリストによる専門性の高い授業内容

服飾系の科目では、デザイナー、パタンナーなどを狙うための専門的な知識・技術を身に付けるため、CADを使ったパターンメイキングやイラストレーターを用いたテキスタイルデザインの学習を取り入れている。CADの指導にあたっては、特別専門講師による授業を展開している。この他にも保育系科目のリトミック、介護・福祉系の介護福祉士、住居系の1級建築士、調理系では現場で活躍するシェフを講師として招いている。高い専門性に触れることで、生徒は自身の課題を見出し、自ら繰り返し技術習得に取り組む姿勢を見せている。

○地域との連携・社会の人材活用

今年度、生活科学科2年次生は学校設定科目「人間と社会」の授業において、食と被服の分野に分かれ、SDGsに関する課題解決学習を進めている。食分野は都内ホテルの取組みを学び、食産業とサステナビリティをテーマにSDGsに貢献するメニューを生み出す課題に取り組んでいる。被服分野はオンラインハンドメイドマーケットCreemaの取組みを学び、近隣の福祉工房からお譲り頂いた織物の端材の活用し、「より良く、より楽しく、周囲にも配慮した」製作に取り組んでいる。作品は東京ビッグサイトで開催されるハンドメイドインジャパンフェス2023冬で販売する予定である。生徒は地域で活躍する方の話を聞き、情熱に触れ、将来への思いが高まるようである。両分野ともにチームで課題に取り組んでおり、学習の過程で経験する新たな気づきや疑問を他者と共有している。それにより自己の内省が生まれ、学びが深まることに協働学習の効果があるかと考えている。



図3 端材を接着芯で1枚の布に仕立てる

4 今後の課題

本校生活科学科には、生活産業界のスペシャリストになる夢を持った生徒が入学してくる。次代の生活産業を担う人材に必要であろう課題解決力と異世代及び異文化コミュニケーションの力を育成するために、生活産業の現場に触れる機会確保と国際交流の継続が今後の課題である。



主体的・対話的で深い学びを目指した産業教育の推進

東京都立つばさ総合高等学校長 片桐 あかね

1 はじめに

令和 4 年 3 月から順次施行となっている学習指導要領を踏まえた、本校における主体的・対話的で深い学びを目指した授業等での取組を紹介します。

2 つばさ総合高等学校の概要

本校は、平成 14 年（2002 年）の開校以来、総合学科の理念を踏まえ、生徒が自分自身を捉え、社会を知り、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくための「キャリア教育」に力を入れています。

そして、「美術・デザイン」「科学・技術」「国際・コミュニケーション」「スポーツ・健康」「生活・福祉」の 5 系列に分類される多様な選択科目と必修科目の組み合わせから、興味・関心、自らが希望する進路希望をもとに「自分だけの時間割」を作成し、希望する進路実現を果たせるよう教育活動を進めています。

さらに、全天候型 400 メートルトラックや完備されたゼミ室など、都立高校の中でも有数の設備を備えております。また、平成 16 年（2004 年）に、都立高校として初めて、国際的な環境規格である ISO14001 の認証を取得しました。豊かな地球環境を守り、自然と共生していくために、環境教育と環境保全活動を通じて、これからの社会が必要とする人材育成を目指しています。その成果の一端として、平成 19 年度には環境大臣賞、平成 21 年度、25 年度には文部科学大臣賞を受賞するなど、各方面から高い評価を受けています。

3 主体的・対話的で深い学びを目指して

（1）学校全体の取組

これからの社会に必要とされる総合的な学力を「つばさスキル」と銘打ち、全ての授業、行事等を通して、生徒に身に付けさせています。「つばさスキル」は、「主体性＝主体的に物事に取り組む力」、「批判的思考力＝物事の善し悪しを判断する力」、「創造力＝新しい価値観を生み出す力」、「コミュニケーションスキル」、「傾聴力」、「表現力」で構成しており、教育活動別重点育成項目一覧を作成し、全教職員で共有し、全校体制での実践と生徒への定着を目標に、教育活動を推進しております。

＜つばさスキル～課題解決能力～＞

つばさスキル
主体性
批判的思考力
創造力
コミュニケーションスキル
傾聴力
表現力

（2）特色ある教育活動の取組

全ての教育活動において、「つばさスキル」を踏まえた取組を実施していますが、今回はいくつかの事例を紹介します。

【現代の国語（1 年次）】における「主体性」「批判的思考力」「表現力」を身に付けさせる工夫

・評論文の読解において、取り上げられている二

つのテーマについて、生徒が自らの言葉、図などの表現法を用いてまとめることで、身近な内容と関連付けて対比させることができるような課題提示

- ・対比させるべき内容を、生徒が把握した上で筆者の主張を読み解くための発問提示
- ・自分なりに読み解いた筆者の主張を踏まえ、再度、評論文を読み、自分が何を感じとることができたのかを抽象化していくための時間設定

これらの工夫を通して、生徒は主体的に評論文を読み解き、その内容について、自らの言葉で自らの考えを表現していくことができました。



【体育(3年次必修)】における「主体性」「コミュニケーションスキル」「表現力」を身に付けさせる工夫

- ・グループ学習を取り入れ、生徒自らが練習計画を作成し、お互いにアドバイスをしながら練習している。
- ・練習中に教員が各グループの練習を確認し、的確なアドバイスを入れる。
- ・グループでの対戦前、各グループで作成した練習計画の目標を再確認し、ゲームの際に意識できるよう教員が指示
- ・ゲーム後に振り返り時間を設定し、練習内容とゲーム内容の関連付けをし、次回の練習計画に反映させる活動

これらの活動を通して、競技をする中で、ポジションを考えたり、練習の際の身体の使い方を工夫したりするなど、主体的に取り組む生徒の姿を

見ることができました。

【素描(3年次選択)】における「主体性」「批判的思考力」「傾聴力」「創造力」「表現力」を身に付けさせる工夫

- ・テーマを設定し、個々人がデッサンした作品について、品評会を実施
- ・生徒だけでなく、教員も対等に作品についての意見を交わす
- ・お互いの作品を鑑賞しながら、作品の良い点と改善点を伝え合う学習

今まで学んできた技法などを根拠に、お互いの作品に真摯に向き合い、改善点を率直に交換することで、次回の作品制作へつなげようとする場面が多数見られました。

さらに、同様の活動を継続していることから、お互いの成長についても意識し、認め合う様子を見ることができました。

【学校見学会・学校説明会】における「コミュニケーションスキル」を身に付けさせる工夫

- ・校内見学ツアーコンダクターとして、生徒が参加者に校内の主要個所を回りながら説明していく活動
- ・校内見学会での自分たちの言葉による部活動紹介

これらの活動では、生徒たちは校内のツアーコースを巡りながら、自らの言葉で学校紹介をしていきます。強制参加ではないため、参加したい生徒が自らの学校の魅力を中学生に伝えている様子は何よりの広報活動と考えます。

4 今後の課題

現在、本校は20周年を迎え、総合学科におけるキャリア教育の在り方について、再検討しているところです。今一度、教育活動別重点育成項目一覧等を見直し、3年間を通した系統的なキャリア教育を充実させるべく、知識を基に課題をどう解決していくかを考えさせる取組を実践していきたいと考えています。



コロナ禍における主体的・対話的で深い学び

大森学園高等学校教頭 石川 和弘

1 はじめに

2019年末、中国武漢市から報告された原因不明の肺炎は、新たなコロナウイルスが原因であることが判明し、その後世界各地に拡大しました。2020年1月30日、WHOは「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」とし、3月11日には「パンデミック」の宣言をしました。同年2月27日に安倍首相は全国小中学校に一斉休校の要請を行い、本校も2月29日より自宅学習期間としました。学びを止めないための工夫が必要となり、本校では、5月よりオンライン授業を開始しました。登校再開後も、3密を回避しながら、様々な取り組みを行い、主体的・対話的で深い学びを追求していきました。今回は、その中で特に大きな成果をあげた事例について紹介したいと思います。

2 学校の概要

本校は昭和14年、大森地区の機械工場の協力を得て、大森機械工業徒弟学校として創立されました。昭和17年、大森工業学校を開校し、昭和23年、大森工業高等学校に校名を変更しました。工業高校のときは、機械科、電気科、情報技術科、総合技術科の4学科編成でした。そして、平成17年より普通科を設置し、校名を大森学園高等学校に改めました。現在は普通科（共学）4コース（特選・選抜・総進・英語）、工業科（男子のみ）3コース（機械技術、電気技術、情報技術）の編成になっています。

3 主体的・対話的で深い学び

(1) 学校全体の取組

教師が板書をし、説明をして、それを生徒がノートに写すという授業からの脱却がテーマの中、以下の取組を行いました。

① 環境の整備

タブレットを用いた授業を展開するために、生徒全員に入学時iPadを購入させ、全教室にプロジェクターとスクリーンを設置しました。授業が円滑に進むように、全員共通の授業用アプリを使用します。

② 授業内容

各教科様々な工夫をしておりますが、共通して取り組んでいるのは、グループ学習、ディベート、プレゼンテーションです。具体的にいくつか事例を紹介します。

〈事例1〉今までは各自問題を解かせ、答え合わせをしていたが、グループで問題を解き、模範解答を作り、発表をする形式に変えました。

〈事例2〉授業の單元ごとに、その内容についての意見文を書かせ、その内容について皆で議論をするようにしました。

〈事例3〉AppleとFBIの個人情報に関する争い、BLM（人種差別抗議運動）、ネットスラング、フードロスなど、現在話題性のある題材について問題提起をし、議論させました。

〈事例4〉教科書の内容にとらわれない、今話題となっている事象についての実験を行い、検証する。

〈事例5〉それぞれ異なる情報を持ち、お互いの情報を共有していく、インフォメーションギャップアクティビティを授業に取り入れました。

(2) 特色ある教育活動の取組

～壊れたおもちゃを修理するおもちゃの病院～

① 毎月の開院

開院日には、多くの子供たちが保護者の方々と一緒に大切なおもちゃを持って来校されます。まずは「カルテ」と称する受付用紙の記入から始まります。受付担当の生徒が、故障の症状などを伺い、カルテに記入していきます。その後いよいよ修理活動です。子供たちは故障しているおもちゃが修理されることを非常に興味深く観察しています。本校での修理の基本は、「子供の前で会話をしながら修理する」ことです。上級生になると活動そのものにも余裕ができるため、子供たちに簡単な工具を触らせながら一緒に活動に参加してもらうこともあります。修理に時間を要したり、予想以上の修理依頼が舞い込んだりした時は、「入院」という形で預かることもあります。最近では3Dプリンタで修理部品も製作できるまでレベルアップしています。

② 「ありがとう」

無事に修理を終えて、おもちゃに再会できた時、子供たちはとても喜んでくれます。「ありがとう」簡単なことばではありますが、気持ちがかもったことばです。子供たちからの笑顔と、この「ことば」は、修理技術をさらに磨きたい、多くのおもちゃを修理してあげたいという生徒の意欲を喚起する何よりのエネルギー源になっています。

③ 新型コロナウイルスによる影響

感染症の影響により、修理活動を自粛せざるを得ない時期が続きました。その中学生からの「ボランティア活動として何かできることはないか」との声により、感染対策を講じながら、限られた時間で活動を行うことになりました。検討の結果「登校時の生徒を検温する装置」を製作することになり、設計段階から取り組んで見事に完成をしました。従来は、教員が正門で1人ずつ検温していましたが、この装置を使用し、手をかざすだけで簡単に検温できるようになりました。現在では、学校説明会などのイベントでも常に利用され、活躍してくれています。



登校時の生徒を検温する装置

4 今後の課題

(1) 主体的な学びについて

大切なことは、初期の動機付けだと思います。好奇心がくすぐられる、もっと深く知りたいなど、生徒たちの興味が湧くような学習内容を考えていかなければなりません。そのためには我々教員が、既存の教授方法や内容からの脱却を心がけていかなければならないと思います。

(2) 対話的な学びについて

対話的な学びとは、わからない問題を皆で考えて問題を解くといったような単なる共同作業ではないと思います。対話を通して、自分自身の考え方を振り返り、他の生徒の意見を参考に新しくとらえ直すことにより、より深い学びや知識の構成につなげていくことが大切です。形式的な活動にならないように注意しなければなりません。

(3) 深い学びについて

主体的・対話的な学びを通して深い学びにつなげます。正解のある問いだけではなく、正解の無い、または正解を出すことが困難な問いに対しても、自分なりの考えや、答えを想像する力が求められています。「○×はつかないけど意味のある問い」にアプローチし続けることが必要になると思います。



主体的・対話的で深い学びを目指した取組

中央学院大学中央高等学校長 大橋 治久

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症の影響により社会が大きく変化し、これからの社会では自主性や社会性などの「生きる力」を高めることが大切であると感じています。そのため一人ひとりの「興味・関心・能力」を見極めて自らの可能性を引き出す努力を助け、集団生活を通して友達とかかわりながら豊かな人間性を育て、実践活動を通して自主性や自治的な問題解決の能力を育てるため、教職員一同が全力でサポートしています。

2 学校の概要

本校は明治33（1900）年日本橋簡易商業夜学校として開校し、明治35（1902）年に中央商業学校となり、商業教育を中心に教育活動を行ってきました。そして、平成10（1998）年には、現在の中央学院大学中央高等学校に校名を変更いたしました。新たな教育環境充実のため、発祥の地である中央区新川から平成13（2001）年に江東区亀戸に移転し、令和2（2020）年度に120周年を迎えました。



創立以来、建学の精神『誠実に謙虚に生きよ 温かい心で人に接し 奉仕と感謝の心を忘れるな』の下、倫理観を持った誠実な人間の育成を指導理念として、人格教育を実施している。

120年の歴史によって培われた夜学校、通信制過程などの多種多様な人材育成の知見は、本校の組織運営及び教育現場の大きな財産となっている。

3 学校全体の取り組み

学習支援システム Classi の導入により、一人ひとりがタブレットを活用した効率的できめ細やかな指導をおこなっている。また、全ての教室に電子黒板を設置し、情報処理室にはPC端末を100台以上設置している。商業科は、資格取得と実技の習得を目指し、普通科は、希望する進路に向かう学力を身につけ、生徒の学ぶ意欲を受け止めて、目の行き届いた教育を目指して組織運営を行っている。

教師と生徒同士が積極的にコミュニケーションをとりながら進めるアクティブラーニング型授業や、自分が取り組んだ課題の記録や習熟レベルをデータで確認しながらの自学自習、教師と生徒、生徒同士のコミュニケーションをとりやすくするチャットツールなど、時代に合わせた新しいIT技術を取り入れて、生徒一人ひとりがこれからの社会に必要とされるための学習意欲、思考力、判断力などの向上につながる教育に取り組んでいる。

世界的に拡大し、まだ終息の見えない新型コロナウイルス感染症。With コロナ時代のニュースタンドードを取り入れた様々な改革は、教育の場にも広がっている。

本校では、休校開始から解除までに様々な対策を行い、教育に必要な学習効率と指導力、コミュ

ニケーションなどが低下しないように、普段の授業で使用していた Classi と並行して郵送での課題配布や Zoom によるホームルームの開催、オンライン授業の開始などのさまざまなコミュニケーション方法を模索し活用した。

先の見えない在宅学習中は、仲間や教員との顔合わせることができない不安やストレスを軽減するために、スクールカウンセラーによる電話での相談受け付けや、スクールカウンセラー通信を発行するなどして、生徒のメンタルケアにも努めた。

・商業科の取り組み

実社会で活かせる商業科目を中心としたカリキュラムで、学力とビジネスに必要な技術の両方を身につける。1年次のビジネス基礎ではインターンシップで就業体験を行い、3年次までにそれぞれのペースに合わせて、情報処理や簿記実務などの各種資格取得を目指す。将来の就業を具体的にイメージしやすい指導内容になっている。

・普通科の取り組み

それぞれの学力レベルに合わせた習熟度別授業や夏期講座などで確かな基礎学力を身につけ、放課後は、「漢字検定」「英語検定」の特別講習を実施して、教員と生徒の距離が近い小規模校ならではの特性を活かし、一人ひとりの個性に寄り添う丁寧な指導を行なっている。



・総合的な探究の時間

今年度から新指導要領導となり、1年生普通科は「総合的な探究の時間」を本格的に取り組むことになり、研究授業を行いました。現在までの取り組みでいかなる成長があったか、「主体的・対話的で深い学び」「生きる力を育む教育」を目的

として、実在する企業へのインターンを教室で体験し、働くことの意義や経済活動について学ぶ。フィールドワークやアンケート調査は新型コロナウイルスの影響で実施できない部分もあった。しかし、企業から出される課題（ミッション）に取り組み、生徒たちのグループ作業や限られた時間内で発表・質疑応答の探究活動を実施した。教員からの指示だけでなく、仲間と協同的に作業することで傾聴力を更に高め、様々な意見や考えに対し倫理的に整理して、自分の課題を認識したうえで、共感的理解・無条件の肯定的関心に導いた。

4 今後の課題

教材によるが、担当する教員の教科の特性が出やすい。現在、本校1年生では働くことについての理解を深め、仮想的なインターンシップにより、各企業から出されたテーマを解決するという内容を取り組んでいるが、担当教科によりそれぞれのアプローチとなり、クラスによって若干の違いが出る。例えば同じコラムを読んでも、社会科の教員は歴史的な企業のなりたちについて触れることができるが、他の担当教科では、コラムを読むことしかできない。しかし、教員はファシリテータに徹するため、大きく方向性が変わってしまうということではない。この問題点については、教員間でコミュニケーションをはかり、共通認識を持つようにして、なるべく同様のサポートができるように努力している。週1時間ではあるが、探究の授業をするための準備に時間がかかる。教科指導については今まで蓄積されたもので捕えるものもある。しかし、探究においては、自分の知らないことがある場合、それについて調べ、生徒へ適切なアドバイスができるように準備しなければならない。授業を行う教員の共通認識が必要となる。現在は担任が探究の担当をしているが、担任と生徒とのコミュニケーションは増えるが、このような授業形式が苦手な教員にとっては、苦痛と感じる可能性があるため、事前の研修に時間をかけることで、実施教員の不安や疑問を解消すべきだと考える。



健康で豊かな食生活を実践しようとする生徒の育成 —問題を見極め課題を設定し解決する学習活動を通して—

練馬区立中村中学校主幹教諭 渡邊あづさ

1 はじめに

よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、食生活の問題を見極め、問題を解決するための解決策を構想して、健康で豊かなよりよい食生活を実践しようとする生徒の育成を目指し、研究主題を設定した。

持続可能な社会に向けて、食生活の問題を見極め、課題を設定し解決する学習活動を繰り返すことで、健康で豊かなよりよい食生活を実践しようとする生徒が育つであろう。

2 研究の内容

(1) 指導計画の工夫

① 3年間を見通した指導計画

学年	A 家族・家庭生活	B 衣食住の生活	B 衣食住の生活
第1学年	(1)ガイダンス 家族・家庭生活の基本的な機能 ①	(1)食事の役割 (2)中学生に必要な栄養を満たす食事 ②	(4)衣服の選択と手入れ (5)布を用いた製作 ③
第2学年	(2)中学生に必要な栄養を満たす食事 (3)日常食の調理と地域の食文化 ④	(2)幼児の生活と家族 (3)家族・家庭や地域とのかわり ⑤	(6)住居の機能と安全な住まい方 ⑥
第3学年	C 消費生活・環境 (1)金銭の管理と購入 (2)消費者の権利と責任 ⑦	B 衣食住の生活 (7) 3.5	A 家族・家庭生活 (3)家族・家庭や地域とのかわり ⑧

食生活の学習を、第1学年と第2学年に各15時間、合計30時間で設定した。

② ストーリー性をもった題材の設定

第1、2学年の各15時間を2つの題材で構成し、2学年間で4つの題材を設定した。第3学年では、生活の課題と実践を設定してこれからの食生活についてのまとめとした。

この4つの題材は、献立作成や調理の知識や技能を段階的に習得できるように位置付け、食生活において育成すべき資質・能力をバランスよく育成できるように設定した。また、課題設定、献立作成、調理実践、評価・改善の学習過程を4回繰り返すことを通して、生徒が家庭

生活や社会生活の中での課題を、身に付けた資質・能力を活用して主体的に解決できるようにした。さらに、食生活を家族や地域の視点から見つめ、次題材A 家族・家庭や地域との関わりにつながるようにした。

B 食生活における3学年間を見通した題材配列		第1学年		第2学年		第3学年
フェーズ		第1フェーズ	第2フェーズ	第3フェーズ	第4フェーズ	
題材		健康に よい食事	中学生の 1日の食事	健康で豊 かな食生活	地域の 食文化	これからの 食生活
時間		8	7	7	8	3
指導項目	(1) 食事の役割 中学生の栄養	A(7)(1) イ		A(7)	A(7)	
	(2) 中学生に必要な 栄養素食事		A(7)(1) イ	A(7)(1)		
	(3) 日常食の調理 地域の食文化	A(7)生鮮 (1)用具安全 (2)煮す焼く	A(7)生鮮 (1)食品衛生 (2)焼く煮す	A(7)生鮮 (1)安全衛生 (2)煮る焼く 調理仕方	A(7)加工 (1)安全衛生 (2)だし 食品選択	
	(7) 生活の 課題と実践					A
	その他	C(2)A		A(3)A(1)	C(2)A	
献立作成		1食分	1日分	1日分	1食分	1食or1日
実習題材		野菜の 加熱調理	肉の 加熱調理	魚の 加熱調理	だし 煮物汁物	課題に応 じた題材

③ 問題解決的な学習過程

各題材においては、資料の提示や既習内容との関連を考えることを通して「見方・考え方」を働かせながら、生活の課題発見、解決方法の検討と計画、課題解決に向けた実践活動、実践活動の評価・改善の一連の問題解決的な学習を展開するように設定した。

(2) 見方・考え方を働かせ質の高い学びを実現するための指導の工夫

① 問題を見極めるための工夫

学年	第1学年		第2学年	
フェーズ	第1フェーズ	第2フェーズ	第3フェーズ	第4フェーズ
題材	健康によい食事	1日の食事	健康で豊かな食生活	地域の食文化
見極める 問題	生活習慣病の増加	誤った知識や過 度の身体活動による 無理な食事制限	孤食・偏食・過 食・食生活、脂肪分 の過剰摂取	和食離れ、様々な 食品、食料自給率、 フードマイレージ
問題点	健康に関する問題		食生活に関する問題	
	栄養バランスの取 れた食事ができな い問題	中学生に必要な栄 養を満たしてい ない問題	食習慣が確立でき ていない問題	食生活が及ぼす和 食文化への影響に 関わる問題
学習課題	健康によい食習慣 にするためにはど うすればよいのか	中学生に必要な栄 養を満たすための 1日の献立はどの ように工夫すれば よいのか	家族が楽しく豊かな 食生活を送るため には、どのような調 理が必要なのか	和食をもちと食生 活にとり入れるた めにはどうすれば よいのか

各題材の第1時においては、ガイダンスで示した食生活に関わる問題を取り上げ、生徒がそ

の問題を見極め、課題を設定するために以下のような手だてを行った。

㊦ 複数の資料を比較して問題を見極め、課題を設定する。

㊧ 既習の学習と関連付けて問題を見極め、課題を設定する。

㊨ 自己の生活や社会と関連付けて、課題を設定する。

② 課題を設定し解決するための学習活動の工夫

ア 課題設定のための工夫

各題材の第1時においては、食のガイダンスで示した食生活に関わる問題である生活習慣病や個食・孤食、地球規模の問題等を取り上げ、「生活の営みに係る見方・考え方」の視点から自己や家族の食生活を見つめさせることで課題を設定できるようにした。

イ 課題を解決するための工夫

各題材で育成すべき資質・能力を明確にして、課題解決を通して主体的・対話的で深い学びの中で資質・能力を育成することができるよう学習活動の充実を図った。

㊦ 解決策を検討するためのICTの活用

リモートで、生産者の声や都内で生産される食材を見たり聞いたりするなどして解決方法を検討できるようにした。また調べたことを端末上で瞬時に解決方法を共有し、よりよい解決方法を検討できるようにした。



㊧ 振り返りの設問の工夫

一単位時間の振り返りとともに、題材の最終時における題材の振り返りを大切にした。一単位時間の振り返りは、本時の目標を達成したかどうかを評価するとともに、どのような見方・考え方を働かせたのかが分かるような設問を工夫した。題材全体を通した振り返りでは、課題の解決をまとめるだけでなく、自分の学びを振り返りながら、更によりよい食生活に改善するための方策を思考できるように工夫した。

3 研究の成果

(1) 指導計画の工夫

全30時間を4つの題材で構成し、食生活の問

題を見極め、課題を設定し解決する学習活動を繰り返すことで、健康で豊かな食生活に関する基礎的な知識及び技能の習得につながり、自分の生活でつかってみたいという主体的に学習に取り組む意欲の醸成につながった。また、献立作成、食品選択、調理と1回よりも2回、3回と、できることを更新していく姿が見られた。社会の変化に対応しながら課題を解決する力を育むことにつながった。

持続可能な社会の構築に向けて、導入時に食糧自給率やフードマイレージ、地産地消等の地球規模の問題から生活を見つめさせることで自分の生活との密接な関わりに気づき、生活を改善するための「我が家の和食レシピ集」作成や家庭での調理等の実践活動につながった。

(2) 見方・考え方を働かせ質の高い深い学びを実現するための指導の工夫

各題材においては、統計や新聞等による資料と比較したり、自己の生活と関連づけたりして食生活の問題を見極め、学習課題を設定したことによって、生徒が食生活の問題を自分のこととして捉えることができた。課題を「設定させる」のではなく、生徒が課題を「設定する」といった主体的な学びにつなげることができた。また、課題解決のために、ICTを活用した対話的な学びによって、生活経験による意見交換だけではなく、知りたいことを主体的に調べて解決する姿が見られた。更に、振り返りの設問を工夫したことにより、生徒がどのような見方や考え方で生活を工夫しようとしているか見取ることができた。これにより、生徒がどのように食生活を改善しようとしているか評価することができた。

4 今後の課題

(1) 3年間の年間指導計画を作成する上では、各教科とのつながりを確認したり、食に関わる問題では、社会科や保健体育、総合的な学習の時間の学習内容との関連を図ったりなどカリキュラム・マネジメントの視点からの工夫を検討する。

(2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、よりよい食生活を実践しようとする態度を醸成するために、より適切な指導場面や評価方法について一層の研鑽が必要である。



グローバルリーダーの育成を通し、主体的・対話的で深い学びを目指す桜修館中等教育学校の取組—

東京都立桜修館中等教育学校長 石崎 規生

1 はじめに

東京都立桜修館中等教育学校における教育の特色は、スクールミッションにて謳われている「国際社会を担う人材を育成する」という文言に集約されていると言っても過言ではありません。世界を舞台に活躍できる人材の育成を目指す本校では、生徒に世界という刺激を常に意識させながら、生徒自身に主体的・対話的で深い学びへの挑戦をさせていきます。本校では、国際理解教育・探究学習・理数教育を軸とした教育活動が展開されておりますが、その中でも、国際理解教育に最も重きを置いています。

2 桜修館中等教育学校の概要

本校が所在する今日の目黒区八雲の地には、様々な国の大使館があります。本校が立地する地には、昔から豊かな国際色が香っています。



このような環境の中、本校の生徒達はじっくりと、腰を据えて6年間の一貫教育校生活を過ごします。そして、知らず知らずのうちに、学術的で、かつ国際社会を担うにふさわしい教養を学んでいきます。

3 主体的・対話的で深い学びを目指して

(1) 学校全体の取組



桜修館では、進路指導部内に国際理解教育推進班を設置し、国際理解教育・国際交流を組織的に推進しています。上記写真では、進路部主催のトルコ大使による講演が校内にて行われた様子を示しています。

この他、生徒が主体的・対話的で深い学びを目指していく仕組みとして、都の次世代リーダー育成道場への参加をはじめ、Pre-Empowerment(1年生)、留学生と英語漬けの時間を過ごす国内英語合宿(2・3年生希望者対象)、日本文化に触れる関西研修旅行(3年生)、シンガポールを訪

れる海外修学旅行（5年生）、リーダーシップ育成アメリカ研修（4・5年生希望者対象）などを用意しています。これら教育機会においては、生徒自らが主体的に異文化への理解を深めると同時に、試行錯誤・自らへの問いかけを繰り返し、また周囲とのコミュニケーション能力を高める貴重な機会としています。

新型コロナの影響で、一次中断していた渡航プログラムも今年から徐々に再開しており、今年度夏季休業中には、34名の生徒がオーストラリアでの語学研修に参加しております。

加えて4・5年生では週2時間、自由選択科目として英語以外の言語を学ぶ外国語講座を開講しています。生徒はフランス語・ドイツ語・スペイン語・ハンガリー語・中国語から選択して学べます。

（2）特色ある教育活動の取組

【学校間交流】

東京都国際交流リーディング校の指定を契機とした国際社会への関心を一層高める中、米国のルイスアンドクラーク大学、オーストラリアのヒルクレスト高等学校、ガンボジアの地元大学生との交流事業を継続し、この他、11月にはインドネシアの学校を招いて積極的な国際理解教育、国際交流を推進しました。



【オリンピック・パラリンピック教育】

本校が実践している様々な体験や活動を、オリ

ンピック・パラリンピックに関連付けて展開するよう工夫しています。昨年度、東京パラリンピック観戦事業を利用して、136名もの生徒が車椅子ラグビーの会場に招かれました。参加した生徒達は、一生に一度あるかないかという国際的イベントを実際に経験する中で、特に「ボランティアマインドの育成」「障害者理解の推進」も含めて考える、主体的・対話的で深い学びを実践しました。また、東京オリンピック・パラリンピックのレガシーを次代に伝えるべく、本校代表の生徒4名が次回五輪開催国であるフランス、パリに東京都代表として訪れる予定です。

【その他の事業】

子ども政策先進国での学びを経験する為、本校生徒8名が東京都の代表として、フィンランドヘルシンキを訪れる予定です。また、イギリスの名門大学へと奨学生を派遣する「Tazaki 財団英国留学奨学生」にも、合格生徒を輩出しております。



4 今後の課題

新型コロナ感染症や急激な為替の変動と物価高の影響下で、国際理解教育を継続するための工夫を続け、学習機会を確保していきたいと考えます。



主体的・対話的で深い学びの美容教育を求めて

学校法人 メイ・ウシヤマ学園

ハリウッド美容専門学校副校長 岡崎 俊彦

1 はじめに

美容の教科書には冒頭に「顧客との間に強固なコンセンサスを構築すること」が明記されている。美容という職業に、お客様の容姿を美しくする資質と能力が求められることは当然だが、一方で多様なバックグラウンドを持った様々な年齢層、社会的地位、さらにはさまざまな人種や民族を顧客としてお迎えする必然からも逃れることはできない。

まさに美容師教育は「主体的」「対話的」「深い学び」の延長線上において成立するものであるといえる。

2 学校の概要

本校の歴史は、1925年、ハリウッド映画界で俳優として活躍していた牛山清人（ハリー・ウシヤマ）が、関東大震災による帝都東京崩壊の報に触れ、美容による祖国復興を志して帰国し、メイ・ウシヤマとともに化粧品会社、サロン、美容学校を開くことに幕を開ける。

さらに、1950年には現在の西麻布に移転、2003年には六本木ヒルズにハリウッドビューティプラザ（地上12階・地下2階）校舎をオープンさせた。



六本木の地は日本の流行の源流であり、美容師教育において絶好の環境であるといえよう。



本校はファッションとヘア、メイク、ネイル、エステなどの「トータルビューティ」を究めた美の天使を育成することをめざしており、真のビューティフルライフは、精神美・健康美・容姿美・服飾美、生活美、環境美へと内面美から外面美へと昇華することで実現するものと指導している。

3 主体的・対話的で深い学びを目指して

（1）学校全体の取組

～日本で唯一の4年制美容高等専門課程～

まず、本校の特色を顕示している「高度専門科」は4年制である。入学後、2年間の専門課程修了後、美容師国家資格を取得した上で、さらに高い水準を求めて4年計画で履修する学生が多い。また、他校の2年制専門課程を卒業してから3年次に編入学することももちろん可能である。いずれも、4年次修了後には高度専門士となり「4年制大学卒業相当」かつ「大学院入学資格」の学歴として、希望分野の企業に就職することもできる。同様に、ビューティプラザ内の同じ階に開設されている本学姉妹校の大学院に進学する卒業生も少なくない。こうした環境の中で、自ら主体的に深い学びを追求していくことが可能となっていく。

高等専門課程では、4年制大学の卒業論文に相当する卒業要件として「卒業レポート」を課している。また、次段階の大学院修士課程修了には「修士論文」が必須であり、自ずから深い思索が体得されていく。なお、高等専門課程も大学院も授業形態は少人数編成によるゼミ形式を取っており、対話的な教育環境も十分に整備されている。

また、チューター制度も本校の大きな特色の一つである。1、2年生の授業に、既に美容師免許を持った高度専門科の学生がチューターとして参画することにより、1学級約40名の学生に対して4、5名の指導者、助手が存在することになり、極めて密度の濃い授業が展開できている。

さらに、チューター役の学生は、将来の幹部候補生として「短絡的に答えを教え込むのではなく、共に考え方を模索する」ことが常に求められており、教室は共同学習の色合いが強くなっている。

（2）特色ある教育活動の取組

・eラーニングの有機活用

今や全国の通信科生の理容美容教育を力強く支えているのが「リビッツステーション」のeラーニングシステムである。本校では、eラーニングシステムの創成期から積極的に開発に携わり、長年にわたり広く活用されている。普段の授業はもとより、予復習にも大きな力となっている。

・オンラインシステムの活用

eラーニング同様に、本校でも、直近2年半に及ぶコロナ禍において機能したのが、Zoomやクラスルームなどのシステムである。「美容」はその性質上、特に実習の占めるウェイトが大きい分野であり、美容実習の時間は削減しないよう最大限に配慮しつつ、オンラインで代替できる学科については、コンテンツの工夫により、Zoom等でもリアル授業以上の成果を出せるよう、教員間の研修や相互指導を絶やさず研究と修養に励んだ。

・戦略的インターンシップの実践

前述の高度専門課程と併せ、本校では自校のサロンを保有し、年間を通じて実際のサロンと全く同様の環境で、実践的な学修を積ませている。

また、多くの有名サロンとの連携により、1、2年生のインターンシップと、高度専門課程3、4年生の実務授業は、ほぼ年間を通して、自校サロンの顧客への施術と、教室での授業という有機的な活動の反復により、常に実践的な教育活動が可能となっている。

4 今後の課題

美容を取り巻く環境は日々急速に変化し、いっそう「主体的」「対話的」で「深い学び」が求められている。

一方で、美容国家試験の学科問題は記述式ではなく、55問の択一問題である。これは、全国一斉実施の国家試験という性格上やむをえないことではあるが、受験対策としてドリル的学習を強いる面もあり、必ずしも創造的とはいえない部分も残るのではないかとと思われる。

また、コロナ禍からの回復も急務である。本校の特色の一つは国際性、すなわち常に10か国以上の国々から留学生を受け入れ、日本人学生とともにグローバルな環境を構築するという点にあった。だが、新型コロナウイルスの蔓延により、日本人学生の比率が高まっている。

さらに、美容師教育を取り巻く課題としては、留学生の卒業後の進路の問題がある。本年10月1日より、東京都の戦略特区で、国外からの留学生も卒業後の一定の期間は継続して就労できることとなり、多くのマスコミの注目も集めた。報道の焦点は、これまで多数の留学生を受け入れながら、実務教育の成果というべき技能を生かせる環境を提供できなかった日本社会の閉鎖性に集中した。これは、美容業界に限った課題とはいえない。



都立産業技術高専荒川キャンパスにおける取組

東京都立産業技術高等専門学校
荒川キャンパス 教務主事 中野 正勝

1 はじめに

高等専門学校は、中学卒業後の若い年齢から5年間一貫の実践的技術者教育を行い、産業の生産現場における中堅的な役割を果たすことのできる技術者の育成を目指している。東京都立産業技術高等専門学校（以下、都立産技高専）の荒川キャンパスでは、これまでの専門教育に加えて、技術者としての能力を育成するエンジニアリングデザイン教育を全般に亘って実施している。また、技術の潮流に合わせた最先端技術を学ぶ技術者育成プログラムを展開しており、高専の学生ばかりでなく、社会人を対象としたリカレント教育にも力を入れている。本稿では、都立産技高専荒川キャンパスで行われているエンジニアリングデザイン教育の他、航空技術者育成プログラム、未来工学教育プログラム、医工連携共同研究プログラム、医工連携ビジネスプログラムについて紹介する。

2 学校の概要

都立産技高専は、首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストを育成する公立高専として、2006年に都立工業高専（現：品川キャンパス）と都立航空工業高専（現：荒川キャンパス）が統合・再編されて開校した。

1年生から5年生が学ぶ本科は、2年進級時にコースを選択する形となっており、荒川キャンパスには、情報通信工学コース、ロボット工学コース、航空宇宙工学コース、医療福祉工学コースの4つのコースがある。また、高専5年間の教育を終えた後、さらに2年間の高度な専門知識及び技術を学ぶことのできる専攻科がある。専攻科は高専本

科とカリキュラムが連続しており、高専卒業生にとって学びやすい環境である。また1学年32人の少人数教育によって、総合的実践的技術者の育成を目指している。

2016年度には、産業界からの要望が高い2つの技術者育成プログラムをスタートさせた。一つは品川キャンパスの電子情報工学コース内に開設した情報セキュリティ技術者育成プログラム、もう一つは荒川キャンパスの航空宇宙工学コース内に開設した航空技術者育成プログラムであり、それぞれのプログラム修了生は日本を代表する情報セキュリティ及び航空産業の企業に就職し、活躍が期待されている。更に、2021年度から Society5.0 時代に向け、人工知能やIoT等を積極的に活用した新たなものづくりを牽引する教育を展開するために、品川キャンパスにAIスマート工学コースと情報システム工学コースを設置するとともに荒川キャンパスではAIを医療機器開発に展開するコース横断型の医工連携教育・研究プロジェクトを開始した。

3 主体的・対話的で深い学びを目指して

（1）学校全体の取組

主体的・対話的で深い学びを目指し、荒川キャンパスで近年力を入れて取り組んでいる教育的手法がエンジニアリングデザインである。国際的な工業専門教育についての認証評価協定であるワシントン協定では、「エンジニアリングデザインとは、数学、基礎科学、エンジニアリング・サイエンスおよび人文社会科学等の学習成果を集約し、経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造

可能性、持続可能性などの現実的な条件の範囲内で、ニーズに合ったシステム、エレメント、方法を開発する創造的で、たびたび反復的で、オープンエンドなプロセスである。」とされており、大別して次の3つの能力の育成を目指すアクティブラーニングの一つである。

○デザイン力：種々の技術や情報を利用して、社会の要求を解決できる能力

○プロジェクト遂行力：与えられた制約下において計画的に仕事を進めてまとめる能力

○チーム力：チームで仕事をするための能力

都立産技高専荒川キャンパスでは、上述の4コースの全てにおいてエンジニアリングデザインの授業が行われている。これらに加えて、副専攻プログラムとして技術潮流に合わせた最先端技術を学ぶ次の技術者育成プログラムを荒川キャンパスとして展開している。

【未来工学教育プログラム】(2021年度から)

オブジェクト指向型プログラミングを基本に、データサイエンスや機械学習を学ぶとともに、デザイン思考のプロジェクト科目を通して柔軟な発想力と実践力を身に付ける。



IOT デバイスの体験



生活習慣計測の成果発表

【医工連携共同研究プログラム】(2021年度から)

本校専攻科において、東京都立大学健康福祉学部と共同で、パラメディカルや医師との連携による問題解決を図る。医工両者が多様な視点から共同で行うことにより、シナジーを発揮した開発が期待できる。

【医工連携ビジネスプログラム】(2021年度から)

医用機器分野の技術をさらに深めたい技術者や、新たな分野に挑戦したい技術者等を対象として、実習演習を重視した基礎から学べるリカレント講

座を開講している。主体的かつ対話的に学ぶことのできる場を本校の学生だけでなく、社会に対して提供する取り組みである。受講者間の対話が異業種交流として有益との意見があり、講座の内容にも反映させている。

(2) 学科・教科の取組

エンジニアリングデザイン教育を学校として推進している一方で、授業の内容自体はそれぞれのコースの学生が興味を持つようにコース独自のテーマに基づいて実施されている。授業も企業での実務経験のある教員を交えて編成されている。

これとは別に、コース主体となっており行われているものが、航空技術者育成プログラム(2016年度から)である。航空宇宙工学コースの学生の中から希望者を選抜して実施しているもので、2021年度からは、航空産業企業6社と連携した「航空産業人財育成プログラム」が立ち上がった。



航空技術者育成プログラムの様子

4 今後の課題

高専は、産業界からの強い要請であった、科学・技術の更なる進歩に対応できる技術者養成に応えるために設置された。都立産技高専は首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成という使命を持っている。

ものづくりの現場において、技術の陳腐化は避けられず、常に学び続ける必要がある。IOT、AI、ビッグデータ等の技術革新が進む現代において実践的技術者として働き続けるには、主体的かつ対話的に学び続けていく姿勢とそのための意識付けをいかにして行っていくかに課題がある。

東京の産業界

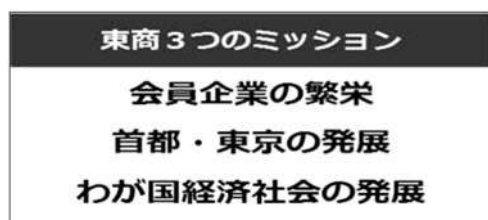


2030年代に向けて 力強く成長し続ける都市・東京へ

東京商工会議所 常務理事 小林 治彦

1 団体概要

明治維新後の激動の時代、1878年に東京商工会議所は不平等条約の改正に向け実業界の輿論を代表する機関として、「民の繁栄が、国の繁栄につながる」と考えた渋沢栄一翁らを中心に創設されました。初代会頭を務めた渋沢翁は「私益と公益の両立」を重視し481社もの会社を設立するとともに、600を超える社会事業にも携わっていききました。初代会頭・渋沢翁の理念は、東商の3つのミッション「会員企業の繁栄」「首都・東京の発展」「わが国経済社会の発展」として現代の私たちにも引き継がれています。



コロナ禍においては甚大な影響を受けた中小企業向けに、融資相談や事業再構築、新分野進出などの経営支援に取り組んだほか、企業の声を集め、実態に即した支援につなげるべく政府・東京都へ要望してきました。さらに感染拡大期には、単独で職域接種を実施できない中小企業向けに、東京都や東京都医師会と連携し、東商自身が医療機関となり約7万回のワクチン接種を実施するなど、中小企業支援に全力で取り組みました。渋沢翁の言葉に「逆境に処しては断じて行え。決して惑うてはならない」がありますが、こうした考えを常に軸として活動しています。

2 2030年代 東京はいかに成長していくのか

東商では2022年6月に報告書「30年代に向け

て力強く成長し続ける都市・東京へ」を公表しました。本報告書を取りまとめた「東京の将来を考える懇談会」は、東京の人口が25年にピークを迎え減少する中、東京五輪後の東京の方向性を検討することを目的に設置されました。

日本経済は20年以上の長期にわたり、物価、賃金、生産性がほぼ横ばいで潜在成長率が0%台という状況に陥っています。一人当たりGDPは00年にはルクセンブルクに次ぐ2位でしたが、21年には28位と大きく低迷し、同時に国際競争力も大幅に下がっています。日本経済全体が落ち込む中であっても、東京は都市総合力ランキング（森記念財団都市戦略研究所調べ）で08年の4位から21年には3位と順位を上げ、首都としてわが国経済をけん引する役割を果たす一方、GDP成長率では、対象となった48都市中41位と低迷しています。加えて、コロナ禍の影響や資源・エネルギー価格の高騰、急速な円安などにより企業物価指数が上昇しても価格転嫁が進まず、高まる不確実性とコスト増に企業は直面しています。

東京の将来を考えるにあたって重視したのは、“力強く成長し続ける都市に変革していく”でした。東京の成長の中核は“企業の成長”であり、98.8%を占める中小企業の成長を高めていくことが重要との認識に立ち、報告書では企業の成長、都市・東京のあるべき姿についてまとめました。

企業の成長では実態を把握することから始めました。「コロナ禍により多くの企業が影響を受けている。こうした困難に直面した際に、経営理念が企業行動に影響を与えるのではないかと仮説を立てました。調査では、事業環境が大きく変化する中、企業は「変化への対応」「察知・課題の

把握」「スピード感」を重視し、「販路開拓」「人材育成」「新分野進出」など未来の成長に向けた取り組みにも注力していることが明らかになりました。経営理念を明文化している企業としていない企業を比較すると、“明文化している”企業は、「変化への対応」「スピード感」「挑戦する風土」といった面だけでなく、「新分野進出」「人材育成」など未来への取り組みも15～20ポイント以上、上回っており、企業の行動や取り組みに経営理念が重要な影響を与えていることがわかりました。

また、企業は30年代に向けた成長要素として、売上増など財務指標だけでなく、「顧客満足度」「従業員満足度」「イノベーション」といった非財務的指標も含めて考えており、成長に向けて注力する取り組みでは「人材育成・採用」「販路開拓強化」「新分野進出」が上位となりました。さらに中小企業の成長意向に関しては、「中小企業に留まりたい」が5割近くおり、その理由として「環境変化に対応しやすい」「経営理念に適している」「経営スピードが速い」が上位となりました。

今後も不確実性が高まり、事業環境の大きな変化が予想されることから、事業継続を通じて社会に貢献していくために、“ぶれない経営の軸”が必要となりました。組織体制では①多様な人材が活躍②状況変化に応じ試行錯誤③失敗を恐れず挑戦する風土を醸成④顧客や変化の最前線にある現場の創造性等を活用することが重要になります。人材面では、①組織と個人の目標が合致し社会貢献を実感するとともに“自分の仕事に誇りを持てる”人材②状況変化や顧客ニーズを察知できる人材③仕事のデジタル化を考え外部の知見を活用できる人材を育成することが求められます。

このような取り組みを実行する企業が増えれば、社内で“イノベーションが創出”され、その結果“顧客や従業員満足度が向上”し、“付加価値の高い商品やサービスが提供”され、企業が持続的に成長を続けることにつながります。

都市の面でも企業の声を同調査で把握しました。立地する地域に企業が期待することでは“情報の得やすさ”が最も多く、さらに人口や人材、産業、取引先、イベントの視点では規模よりも多様性を重視する傾向となりました。こうした結果

から、「魅力あふれる東京 情報が集まり、人が行き交う都市」が30年代の東京のあるべき姿となりました。そのために東京をより“オープンかつイノベーティブ”にすることで、“ビジネス機会が次々と創出”され、“多様な人々が行き交い、人材や文化の接触・融合が拡大”し、同時に“都市基盤の安全・安心、強靱化”が進む都市にしていくことが必要だとまとめました。

重要なことは、地域に根差す中小企業が、住民や自治体と共に地域の魅力を発掘・発信することです。魅力が高まれば国内外から多くの人々が地域を訪れるようになり、訪れた多様な人材や企業は交流を深めることで、新たなビジネスが創出され、そこを拠点とする企業が成長しさらに地域が活性化します。こうした好循環を生み育てていくことで、東京全体の成長力が底上げされ、将来に向けて東京が力強く成長し続ける都市を実現できるとまとめました。



3 東京の将来を担う皆さんへ

初代会頭・渋沢翁の時代から、企業は激動の時代を乗り越えながら、新しい事業を、産業を、都市機能を創造し発展させてきました。特に不確実性が高まる時代には、ぶれない経営の軸を持ち社長と従業員の距離が近い中小企業は、試行錯誤や挑戦しながらスピード感を持って変化に対応することに強みを持ち、売上だけではない“従業員や顧客満足度の向上”や“イノベーション創出”といった成長を高める可能性を秘めています。東京にはこうした可能性を秘めた中小企業が数多く存在していますので、興味を持っていただければと思いますし、我々も皆さんと一緒に将来の東京を創っていきたいと思います。



学校からの法律相談で心がけていること

涼和綜合法律事務所 弁護士 飯田 豊浩

1 はじめに

私は、東京都港区にある涼和綜合法律事務所に所属し、弁護士として活動しています。平成13年に司法試験に合格し、所定の研修を終えた後、平成15年に弁護士となりました。その後、平成24年に私を含む合計3名の弁護士で現在の場所（東京都港区虎ノ門）に涼和綜合法律事務所を設立し、現在、弁護士20年目を迎えています。

私が取り扱っている業務は多岐にわたっており、分量でいえば、企業からの依頼（法人の設立、各種契約の締結、労務、債権回収、法人の解散・清算、その他）と個人からの依頼（遺言・相続、離婚、債務整理、その他）が半分ずつくらいだと思います。その他珍しいものとしては、金融ADR（貸金業に関する紛争解決機関）の調停委員、司法研修所（司法試験に合格した司法修習生が法律家になるために研修する機関です）の教官、TVドラマや映画の法律監修等があります。

本稿では、様々な取り扱い業務の中でも近年増加傾向にある学校関連業務について述べたいと思います。

2 学校関連業務の概要

私は、10年以上前から埼玉県内のある自治体の教育委員会の顧問として、学校あるいは教育委員会の運営上生じる様々な問題の相談に応じてきました。また、ここ数年は、各学校の校長先生からの相談に直接応じる制度が整い、それまで以上に多くの相談に応じています。

また、弁護士としての活動を開始して間もなくの頃から、所属する弁護士会（第一東京弁護士会）

で子どもの権利に関する委員会の委員として活動しており、この関係で、都内の学校あるいは教育委員会に設置される第三者委員会の委員、東京都の学校問題解決サポートセンター専門家委員を務めてきたほか、複数の学校を訪問していじめ予防に関する出張授業を行ってきました。

3 学校への助言で心がけていること

これまでの経験を通じてわかったことですが、学校では、弁護士の助言を必要とする様々な問題が生じています。守秘義務の関係で詳細をお伝えすることはできませんが、これまでに私が相談に応じたことがある代表的な事例を分類してみても、いじめ、不登校、学校内の事故、体罰・懲戒、校則、虐待、障害のある生徒への対応、個人情報・プライバシー、教職員の不祥事、PTA活動、保護者対応等々、本当に多種多様です。

このような多種多様な事例について助言するにあたって、心がけていることが2つあります。

1つは、「法令に基づく対応」の重要性です。学校が学校教育法に基づいて設置された公的な存在である以上、法令を守るのは当然と思われるかもしれませんが、上記のような様々な事例において、それぞれ異なる法令が関係します。これらの法令に加えて文部科学省から出されている通知等も踏まえて対応することは、法律のプロである弁護士であっても容易ではありません。それでもなお「法令に基づく対応」の重要性を説く理由の1つに、関係者の多様化があります。地域によって差があるものの、近年、学校の関係者（生徒・保護者等）の多様化が進んでいます。例えば、外

国人の生徒・保護者の増加によって、多様な考え方・価値観を持った人が学校に関わるようになりました。また、部活動に関する考え方をみても、文部科学省が活動日数や活動時間が過度にならないようにガイドラインを策定・公表する一方で、これまでと同様の活動を求める保護者も少なくなっています。このように、様々な価値観・考え方を持つ関係者がいる中で、関係者の納得を得ながら学校を運営していくためには、法令や通知をふまえた対応が重要となります。

次に、学校への助言にあたってもう1つ心がけていることとして、「子どもを中心に考える」ことがあります。これも、学校（特に小・中・高）が子どもの学習権（憲法26条）を保障するために設置されていることを踏まえれば、当然のようにも思えます。しかしながら、学校運営上、時として子どもを中心に考えることが難しくなる場面があります。例えば、ある不登校の事案で、生徒の保護者が毎日のように学校に電話してきて、電話の時間も毎回1時間以上にわたるといった事案がありました。担任の先生は、保護者からの申入れを傾聴し、保護者からの申入れに沿ってできる限りの対応（事情聴取や指導）をしていましたが、状況は改善せず、保護者から過度な要求が続き、学校を含む関係者全員が疲弊している状態でした。この事案では、生徒本人が何に困っていて、何を改善すれば登校につながるのかについてのアセスメントを欠いたまま、ただひたすらに保護者の求めに応じて学校が対応するという状況に陥っていました。「子どもを中心に考える」という観点からは、不登校の初期段階において、スクールカウンセラー等の意見も聞きながら適切なアセスメント（事前の調査・評価）を行い、その結果をふまえて対応方針を検討すべき事案でしたが、保護者の声の大きさに引きずられてか、不登校の発生当初から保護者対応に終始してしまい、生徒本人が何に困っているかが適切に把握できないままに時間が経過してしまったという印象でした。

4 青少年の皆さんへ

学校関連業務に関する話の中でも触れましたが、今後、考え方や価値観の多様化は益々進んでいくように思います。このような社会においては、事前に形あるものとして示されている法律等のルールが果たす役割が大きくなります。これから社会に出て行く皆さんには、是非法律に関心を持ってもらいたいと思います。

「悪いことをせずに普通に暮らしていれば、法律なんて関係ないんじゃないの？」と思うかもしれませんが、そんなことはありません。例えば、仕事（正社員に限らずアルバイトでも同じです）を始めれば、労働契約法や労働基準法、最低賃金法といった法律と関係を持つことになりますが、これらは働く人（労働者）の利益を守る役割を果たしています。また、若者によくある法律問題として、マルチ商法等の消費者被害があります。消費者被害には、消費者契約法や特定商取引法といった法律が関係しますが、これらは消費者の利益を守る役割を果たしています。

法律と聞くと「難しい」、「分かりづらい」という印象を持つかもしれませんが、たしかに、法律の条文を読んで内容を理解し、自分が直面している問題において利用することは難しいかもしれませんが、法律の条文を読まなくとも法律について学ぶことはできます。現代はスマートフォンが普及し、誰でも簡単にインターネット上の情報を取得することができるようになりました。例えば「労働者 保護」や「消費者 保護」と入力して検索すれば、先ほどのような法律の概要について解説したサイトを比較的簡単に見つけることができます。法律の条文はわからなくても、概要さえわかっているれば助かる場面は少なくありません。是非法律に関心を持ってもらい、気になることは気軽に調べてもらえればと思います。それでもわからないことは、気軽に弁護士に相談してください。

情報スクエア



文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業【地域魅力化型】」指定校の取組（第2年次）

「八丈やろごんプロジェクト」～八丈島を支える人材の育成～

東京都立八丈高等学校長 佐藤 俊一

1 はじめに

東京都立八丈高等学校は、八丈島という文化と歴史のある地に設置された創立70年を迎えた伝統ある都立高校である。本校の教育目標は、全日制課程「誠実・慈愛・自立」、定時制課程「自主・健康・民主」である。校長の経営方針、教育方針のもと、「八丈高校魅力化プロジェクト ONLY ONE すべては生徒のために」を合い言葉に「教育内容の充実と進路実績の向上」を掲げ、学校が一丸となって取り組んでいる。

八高は、「主体的、対話的で深い学び」として、「分かりやすい授業」に加えて、「生徒が自ら学びたくなる授業」を目指し、eポートフォリオシステムなどITを活用して、全ての生徒の学力向上の取組を進めるとともに、生徒の進路希望の高いレベルでの実現のために、地域と密接に連携して、本校の教育内容の魅力化を図っている。

そして、Hawaii研修でのHawaii大学やWaiakea高校との生徒交流、都立大学や都立産業技術大学院大学との高大連携、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業【地域魅力化型】」指定校による地域協働・探究学習「八丈学」のほか、専門家を招聘した地域連携授業等で多彩な学びを重ねながら、将来の国際社会を担う人材として必要な学力、教養、勤労観・職業観、道徳心、社会性、リーダー性、コミュニケーション能力など、生徒の「柔軟な真の力」を総合的に高めている。生徒には、思い出という宝物をたくさんつくって、全ての生徒に卒業してもらいたい。

八高の様々な取組は、本校ホームページやTwitterにおいて積極的に紹介している。

2 研究の背景とねらい

八丈島には、豊かな自然、歴史、伝統文化があり、観光業をはじめとする産業が盛んである。本校は八丈島で唯一の高等学校であり、島内中学生の大半の生徒の進学先である。地域との連携や協働により、本校が中心となって、八丈町全体で子供たちを育てる環境がある。しかし、近年では人口流出が進み、30年後には人口が半減するという推計もある。八丈島の発展は、本校の活性化と表裏一体の関係にある。

そこで、八丈島の自然、歴史、伝統文化、産業等についての探究的な学びを行い、生徒が主体となって八丈島の未来のために必要な価値や課題を発見し、島内外の大人と連携・協力して解決策を考え提案し、実践する人材の育成が極めて重要である。なお、この研究開発のプロジェクト名を「八丈やろごんプロジェクト」とした。「やろごん」というのは、八丈言葉で「やろう」を意味している。

3 研究の目標

本研究の目標は、小中学校からの系統的で、教科横断的な探究学習により「八丈島を支える人材を地域とともに育てる」のもと、次のような人物を育成することである。

〔本校のグランドデザインに基づいた育成すべき生徒の将来像〕

- 目標の実現のために、自主的・主体的に学び続け、自分で道を切り拓ける人物
- 社会の変化に対応できる広い視野をもち、率先して動く自立した人物
- 地域、歴史、自然、産業、伝統文化に対する

深い理解をもち、誇りに思える人物

4 令和3年度の研究内容

研究2年目として、第1学年に設置した「八丈学Ⅰ」では、次のような取組を行った。

1学期に、八丈島の自然、歴史、伝統文化、産業に関する地域の方からのレクチャーやフィールドワークを通して、八丈島に関する理解を深めるとともに、島の価値や課題を見いださせるために、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の探究のサイクルを用いて探究の基礎学習を行なった。

2学期は、1学期の取組を踏まえ、主体的に八丈島の地域課題に気付かせるため、フェノロジーカレンダーの作成と島のPR動画を制作した。

3学期には、作成したフェノロジーカレンダー等を活用して、オンラインで生徒による学習成果発表及び都立立川高等学校との交流等を行った。

年間を通して地域と向き合い、自己理解や地域の特性・課題に気付く力を育成した。

第2学年に設置し、令和3年度に開講した「八丈学Ⅱ」では、地域の実態を踏まえた、より現実的な探究学習を行い、解決策の提案を行う島民会議を実施した。

1学期は、1年次に行った八丈島に関する基礎的な学びを基に、学びを深めるとともに、生徒の主権者意識を高めさせる工夫を行った。

2学期は、他県のまちづくりシンポジウム等を参考に、地域と学校が一体となって、八丈島の未来について考え、地域課題の解決策の提案の場として「島民会議」を開催した。

3学期から、島民会議に参加した島民からの意見で出された課題を基に個別研究の実験やフィールドワークを行い、課題の実証や実現の可能性を検証した。地域課題の解決を図ることを通じて、自己の生き方や島の未来を考えることで、課題発見・解決能力や将来設計能力を育成した。

5 令和4年度以降の研究計画

第1学年は「八丈学Ⅰ」を実施する。探究学習

をより充実化させるとともに、年間を通して地域と向き合い、自己理解や地域の特性・課題に主体的に気付くことに更に力点を置いて育成する。

第2学年は「八丈学Ⅱ」を実施する。令和3年度開講の「八丈学Ⅱ」では、地域の実態を踏まえたより現実的な探究学習を行い、解決策の提案を行う「島民会議」を実施した。そして島民会議で出された課題を基に個別研究で実験やフィールドワークを行い、課題の実証や実現の可能性を検証した。

令和4年度は、令和3年度の成果と課題を踏まえ、生徒が地域課題の解決を図ることを通じて、自己の生き方や島の未来を考え、深めることで、課題発見・解決能力や将来設計能力を育成する。

令和4年度第3学年に設置する「八丈学Ⅲ」では、地域を活性化させ、島内外に八丈島の魅力を発信するための実践的な力を身に付けさせ、持続可能で実現可能な行動計画を立て実践する。1・2学期を通じて、様々なコンテスト等に応募し、具体的な行動計画を発信する。年間を通して課題を解決するための実践力を養い、自己実現のための具体的な行動と地域の将来のための具体策を発表することにより、探究学習の成果を広く伝える力を育成する計画である。

これら3年間の研究開発の結果、研究開発目標及び本校のグランドデザインに基づいた育成すべき生徒の将来像の素地を確実に身に付けさせることを指定期間終了時のゴールとする。

6 むすびに

本事業採択2年目の研究をコロナ禍のもと、文部科学省、東京都教育委員会、八丈町や町教育委員会、島内外の小・中学校、高校、大学、企業など、コンソーシアムの方々に御理解、御協力いただく中、生徒も担当教員も懸命に取り組んできた。これまで培ったことを土台に、今後の研究に生かしていきたい。

そして、本事業指定校の終了後も八丈島と本校の発展のため、取組を継続していく。



文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」 事業特例校の取組（2年次）

東京都立五日市高等学校長 久保田 聡

1 学校の概要

本校は、創立74年目を迎え、今年度から全学年普通科となり、地域に根差した「特色のある普通科」の高校である。特色のあるカリキュラムとして、2年生からマネジメント・アウトドア・アドバンスの3コースに分かれ、生徒の興味・関心や進路希望に応じた教育を行っている。また、地域の関係機関と連携し、地域に密着したテーマや課題を中心とした探究活動を経験的に学ぶ「五日市メソッド」により、豊富な地域資源を活用し、広い視野を持ちながら新しい社会に対応できる生徒、地域に貢献できる生徒、地域を愛し地域から愛される生徒の育成を目指している。

2 取組内容

「五日市メソッド」による探究活動

あきる野市、日の出町、檜原村の近隣の自治体、大学、商工会、企業等と連携し、生徒が、地域の課題や魅力発信などの地域に密着したテーマを設定し、実際に見たり、聞いたり、調べたり、積極的に地域の方々と関わりながら課題解決に向けて経験的に学ぶ活動を「五日市メソッド」と位置付けて、総合的な探究の時間、アウトドアコース、マネジメントコース等において、探究活動を行っている。総合的な探究の時間では、1年生で「地域を知る」、2年生で「地域の理解を深める」、3年生で「地域の課題や魅力を知り地域の情報を集め、課題解決に向けて提言していく」ことを目標に「地域に貢献する」活動に取り組んでいる。以下、いくつかの活動を紹介する。

（1）1年生地域探究フィールドワーク

「地域を知る」段階である。地域にある5つの事業者の協力を得て、1クラスを単位として4回

体験的な活動を実施した。①地元の自治会の所有する森林において、林業を専門とする近隣の団体の指導による林業体験、②秋川国際マス釣場における漁業体験、③秋川流域から城山テラスにかけて自然体験、④大久野保育園と天正寺において地域交流の体験、⑤地元企業のキッコーゴにおける伝統的な醤油づくり体験を行った。体験するにあたり、普段の仕事の説明や仕事をする上で心掛けていることなどについて、それぞれ専門的な立場から講義を聞き、実際に体験させていただいた。



（2）2年生五日市商店街インタビュー

「地域の理解を深める」段階である。SDGsの持続可能性を考慮に入れた「持続可能な観光」をテーマに、高校生が地域を舞台にした「SDGs修学旅行」を企画する取組を行った。その中で、地域の方の生の声を聞き、五日市の地域の魅力と課題を知ることが目的として、五日市商店街の事業者を中心に多くの方に対してインタビュー活動を行った。

（3）3年生「五高フェス」

アウトドアコースとマネジメントコースの3年生は、地域の活性化や地域貢献をするためのイベントができないかを考えた。本校には都立学校で唯一のボルダリング施設があり、令和3年11月に地域の子供たちとボルダリングを通じて地域と交流を行う「ボルダリング地域交流会」を実施した経験を踏まえ、このイベントを更に充実させ、地域の方々に参加してもらうことで地域を盛り上げ活性化することを目指した。

＜大人会議の開催＞

6月、生徒は地域の様々な職業の大人10名を招き、それぞれのチームで考えたイベントを伝え様々な意見をもらい話合う「大人会議」を実施した。五日市商店街や日の出町商工会等の街づくりに関連した事業や取組をする様々な大人と協議することで、専門的な見地からアイデアや指摘、生徒の発想になかった視点や欠けていた視点を与えてくれて、生徒たちの考える幅が広がった。

＜五高フェス＞

11月に、地域を巻き込んだ手作りイベント「五高フェス」の初開催が実現し、本校に約400人が訪れた。「地域と一緒にSDGs（防災、もったいない）を考える」をテーマとして、アウトドアコースの生徒が、コットンボール、ランプシェード、焚き火体験など様々なアイデアを出して体験コーナーを企画した。また、ボルダリング地域交流会にも、昨年度を大幅に超える地域の園児や小学生が参加した。いずれの活動も、生徒たちがこれまでに自らが学んできたスキルを活用して指導的な役割を担い、子どもたちにやり方等を教えるという体験につなげることができた。



（4）竹灯り制作

マネジメントコースは、「地域資源を活用したビジネス」について考えるため、あきる野の匠の一人である竹加工の匠「江守廣」氏と連携授業を行った。現在、竹灯りが町おこしとして活用されはじめていることや放置竹林の問題について学んだ。

＜竹灯りの販売・展示イベントへの挑戦＞

生徒が自分たちで担えることを考え、竹灯りの制作や普及を進めるため、竹灯りの制作・販売・展示を目標として、3つのイベントに取り組んだ。

◆ヨルイチ：8月の最終土曜日に行われる地域の祭りで、初めての販売活動となった。事前に多くの竹灯りを制作し販売した。竹灯り制作体験には、地域の小学生5名が参加した。販売のための売場作り、価格設定、制作体験に必要な時間などマー

ケティング実施調査として有効な情報が得られた。生徒は、制作体験に参加した小学生らの喜ぶ姿を見て達成感を得ていた。

◆五高祭：月末の文化祭で、江守氏らが制作した竹灯りの展示、生徒が新しくデザインした竹灯り等の販売を行った。都立小金井工業高校と連携し、竹筒の内部から灯りを灯すランプ制作とデザインした竹を互いに提供し合うことができた。五高祭でも竹灯りが売り切れるほどの好評であった。



◆五高フェス：前述の五高フェスにおいて、オリジナルの飾り用竹灯りの展示、今までの販売経験を生かした竹灯り制作体験を行った。用意した竹が売り切れ、小学生を中心に約60名が体験を行った。



3 成果と課題

（1）成果

- ①実際にその場に行き、専門家からの説明を受けたり、体験したりすることで、普段の学びの中では得ることができない経験をすることができた。
- ②パンフレットやホームページ等を作成するなど、広報するためのスキルを高めることができた。
- ③共通テーマを掲げ実現に向けて生徒自身が考えたり、体験の指導者的な役割を担ったり、販売実習をしたりするなど、これまでの取組を通して身に付けた力を生かせる機会を設けることができた。
- ④生徒たちが、地域の大人と話をする場面を生かしてイベントを企画・運営することで、コミュニケーション力を高めることができた。

（2）課題

地元の良さや魅力をどのようにして伝えていくのかを考えたり、子供から年配の方まで幅広い世代、大学、企業の方々と関わったりすることでコミュニケーション力を更に高めるとともに、今後も地域に根差した取組となるように引き続き取り組んでいきたい。



第21回全国中学生創造ものづくり教育フェア

全日本中学校技術・家庭科研究会 フェア事務局長

世田谷区立玉川中学校長 奥平 雄二

- 1 **主催** 全日本中学校技術・家庭科研究会
- 共催** 文部科学省 他
- 2 **後援** 厚生労働省 林野庁 特許庁 他
- 3 **日時** 令和4年1月22日(土)・23日(日)
- 4 **場所** 武蔵野総合体育館 他
- 5 **対象者** 全国の中学生、技術・家庭科担当教諭、ものづくり教育に係る関係者
- 6 **内容**
 - (1) 生徒作品コンクール
 - (2) 木工チャレンジコンテスト
 - (3) 「豊かな生活を創るアイデアバッグ」コンクール
 - (4) 「あなたのためのおべんとう」コンクール
 - (5) 創造アイデアロボットコンテスト
 - (6) パソコン入力コンクールあなたへのメール入力コンテスト

7 開催に向けて

この大会の「開催の趣旨」は3点あります。

- ① 中学生が知識や道具を駆使していろいろな条件のもとに最適解を見つけ進んで生活を工夫し創造することを学んだ技術・家庭科の実践発表の場とする。
- ② 未来への飛躍を実現する人材を養成するために、多様な体験と切磋琢磨の機会を増大し、学習意欲やものづくりへの製作意欲の向上を図る。
- ③ 優れた能力と多様な個性を伸ばす技術・家庭科の学習内容を広く国民に知らせるとともに、全国の技術・家庭科教員の指導力向上を目指す研修の場とする。

上記の「開催の趣旨」を踏まえて、全国各地で行われる厳しい予選大会を勝ち抜いた競技者が、

東京で行われる全国大会に歩みを進め、そこに集った競技者たちが多様な体験と切磋琢磨する機会をもつことで、未来への飛躍を実現する人材の養成を目指す大会です。

しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を大きく受け、本来開催する令和2年度では開催を見送りました。

そして、令和3年度への延期

を決めた後、技術・家庭科の灯を絶やさぬよう開催できる術をさがすため、各部門責任者と協議を重ねた結果、感染症対策を取り入れた新ルールへの変更を行い、令和4年1月に開催することを決めました。

開催日に向けて、新型コロナウイルス第6波の影が忍び寄ってきましたが、ルール変更の改善が功を奏して、無事に開催することができました。偏に関係者皆様のご尽力のお陰です。

8 開催結果

【生徒作品コンクール部門】

教科の授業中に創造製作した作品を「Ⅰ部門」、技術・家庭科で学習した知識や技術を生かして製作した創造作品を「Ⅱ部門」としてコンクールを行いました。

【木工チャレンジコンテスト部門】

ブロック大会より推薦、全国一次審査により選出された12名の選手が、与えられた所定の材料を使用し、課題に従って4時間以内に作品を製作



し、作品のプレゼンテーションを2分以内で行う形式でコンテストを行いました。

【「豊かな生活を創るアイデアバック」コンクール部門】

全国4ブロックから選抜された9名の選手が事前に製作したアイデアバックをオンラインでプレゼンテーションを行う形式でコンクールを行いました。

【「あなたのためのおべんとう」コンクール部門】

各地区大会で選ばれた12名が、コロナ感染対策を考慮した50分間の一人調理でお弁当作りを行い、レポートを作成し、その内容を1分間のプレゼンテーションをする形式で競技を行いました。

【創造アイデアロボットコンテスト部門】

基礎部門は、「Ace in the hole」と銘打って、競技時間90秒で自陣コートにまかれたカラースティックを得点エリア8か所に入れる競技を行いました。

計測制御部門では、「ドキドキ！ロボット収穫祭」と銘打って、農業従事者の減少や高齢化の解消をイメージさせ、作物に見立てた3つのカラーボールを収穫するロボットを作り、そのタイムを競う形式で行いました。ロボット技術やICTの活用が労力解消の解決策になることを想像させる競技としました。

応用・発展部門では、「ロボットレスキュー隊出動！」と銘打って、有線操作によるメインロボットとプログラムによる自律制御による運搬ロボットを組み合わせ、「自律運搬ロボットと協働で救助する」ことを対戦形式で行いました。災害時に人が立ち入れない現場でも救助活動が行えるレスキューロボットをイメージさせる競技としました。

【パソコン入力コンクール部門】

上位通過者75名が1回限りの入力に挑戦しました。その競技内容は、課題文を5分間で正確に素早くタイピングし、入力した文字数や正確さを競いあう競技です。

【あなたへのメールコンテスト部門】

競技当日に発表する課題に対して、入力する技

能はもちろんですが、情報モラルや差出人の気持ちをしっかりと受け止めているかななどを審査項目とした競技を行いました。

9 成果と課題

今大会は、参加する中学生・保護者・大会運営役員の全ての皆様を新型コロナウイルス感染症から守る配慮を最大限に行うために、「オンライン(ZOOM)」を活用した大会としました。

そのため、例年は行っていた生徒作品の現物を直接見たり触れたりすることができず電子データでの確認



作業になったり、オンライン開催では競技の進行に支障が出ないように競技者数に制限をかけねばならないことなど、通常開催ではなかった課題がありました。

また、例年は表彰式・閉会式を行っていましたが、今大会では行えないため表彰状は受賞校に郵送しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、郵便局の臨時閉鎖や遅配が起こり、全国の受賞校から賞状未着のお問い合わせが数多くありました。コロナ禍の大会開催では大会関係者の想像以上の出来事があり当惑しました。

なお、第21回大会までは「パソコン入力コンクール」「あなたへのメールコンテスト」を行ってきましたが、中学校学習指導要領が新しくなったことから、次回の第22回大会からは「プログラミングコンテスト」として、新競技を行います。

そして、第22回全国中学生創造ものづくり教育フェアは、令和5年1月28日(土)・29日(日)に、中央区立総合スポーツセンターや中央区立銀座中学校等を会場として行います。

コロナ禍を撥ね除け、一層、技術・家庭科の振興に努めていく大会にしていまいますので、どうぞご支援・ご参加をいただければ幸いです。



第19回 創造ものづくりフェア in TOKYO

東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長

大田区立大森第八中学校長 保谷 満

創造ものづくりフェア in TOKYO は、東京都内の中学生が、技術・家庭科の学習で身につけた、ものづくりの技や知識を競い合い、互いの創造性を伸ばす場として開催している。

1 主催 東京都中学校技術・家庭科研究会

共催 学校法人香川学園 女子栄養大学
公益財団法人東京都学校給食会

2 後援 東京都教育委員会

東京都産業教育振興会
東京都中学校長会

3 日時 令和4年11月3日（祝）

令和4年11月12日（土）

令和4年11月13日（日）（都ロボ）

4 場所 板橋区立加賀中学校

世田谷立深沢中学校（おべんとう）
同 上（アイデアバッグ）

5 対象者 東京都内中学校に通学する中学生

6 内容

(1) 全国中学生創造アイデアロボットコンテスト
東京地区予選（基礎部門・計測制御部門・
応用発展部門）

(2) 「木工チャレンジコンテスト」東京予選

(3) 「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール」東京地区予選

(4) 「あなたのためのおべんとうコンクール」東京地区予選

(5) 生徒作品コンクール東京地区予選

(6) 東京都中学校ロボットコンテスト（二足歩行ロボット格闘部門）

7 開催へ向けて

創造ものづくりフェア in TOKYO も今回で19回を数えることとなった。新型コロナウイルス感染症対策について今年度は中止や延期の声は聞かれなかったが、対面式かオンライン式かは直前までは不明確であった。やはり競技会という性質上、自分が出場するだけでなく、生徒の楽しみ合い、喜び・讃え合い、学び合いといった経験をさせたいというのが指導者の強い思いだ。会場校の校長先生をはじめ、ご来賓の方や運営に当たってくださった先生方のご理解ご協力とご支援の賜物で今年も実施に漕ぎつけることできた。

なお大会運営は、東京都中学校技術・家庭科研究会事業部を中心に加賀中学校会場30名、深沢中学校会場16名の体制で進められた。

8 開催結果

今年のロボットコンテストの会場は、板橋区立加賀中学校に移ったが、加賀藩前田家に由来する学校で、敷地内には兼六園の庭園を模した見事な池や庭があり風情のある学校だ。まだまだコロナ禍であるものの、復活の兆しがみられる参加者数、雰囲気になってきた。ただし保護者等の見学は控えていただいた。

<関東甲信越大会に向けての予選大会>

○「創造アイデアロボットコンテスト」

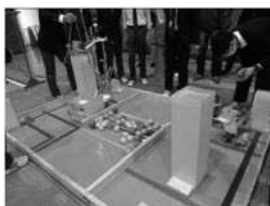
基礎部門：「Ace in the hole2」というタイトルだが競技時間90秒で自陣コート内のアイテムを得点スポット8か所に6本のアイテムを立てる競技である。自



陣の得点スポット全てにアイテムを立てるとパーフェクトゲームとなり試合開始前に相手コートにお邪魔アイテムを2本立てることができる。29チームの生徒が参加した。

計測制御部門：「ドキドキ！ロボット収穫祭～スマート農業に挑戦」というタイトルであるが、90秒間で自立制御ロボットがカラーボールを収穫し倉庫へ運ぶ競技である。ロボットが通るコースを選択することが可能で、設置障害物を避け収穫したり、全自動で収穫することで得点が加算されるが21チームが参加した。

応用発展部門：教科で学んだ知識や技能を最大限に発揮して製作されたに発揮して製作される部門で、タイトルは「支援物資を運搬せよ！」である。災害発生地で過ごしている人や孤立している場所で救助を持っている人への支援物資を届けることをイメージしており、支援物資の食料をカラーボールに見立てて届ける競技で、コートは去年のものをそのまま利用するというエコも取り入れ、キャラステージ、ホームステージ、炎ステージと高さが違うゴールエリアを設置し6チームが競い合った。



○「木工チャレンジコンテスト」には示された設計図により、決められた



大工道具や木工機械を正しく使用し、寸法通り正確に作品をつくるため各地区から選ばれた4名が参加した。



○「生徒作品コンクール」は、各地区選抜の授業内・授業外部門の技術分野37品と家庭分野24品で、合計61の作品が荘厳な柔剣道場を華やかに彩った。

○「あなたのためのおべんとうコンクール」は、16名が応募し、事前審査を経て当日は9名が参加した。昨年と同じく事前に調理作業の動画とレポートを提出してもらい、当日はこのレポートとオンラインを活用した90秒プレゼンテーションによる審査を行った。



○「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール 東京地区予選」ではレポートと作品提出で32名の参加があった。



<東京都ロボットコンテスト>

○東京都独自に実施している対戦型ロボコンで、毎年、参加チーム数も非常に多いことから密になることを避けるため昨年からは期日を別に設けて実施している。各校、定期考査シーズンという時期にも係わらず、74チームが参加した。受験を間近に控えた3年生も出場し、その輝く表情からも、つかの間の休息、楽しみとなっていた。



9 成果と課題

ロボコンなどはルール次第で実際に会場に足を運ばなくても競技ができることもあるが、作品展や家庭科における競技では完成品の細かい部分の仕上げ等はオンラインでは限界があると意見が出された。来年度以降、対面式とオンライン両方のハイブリッド方式の可能性も模索される。

開催会場の加賀中学校、深沢中学校、共催の女子栄養大学、東京都学校給食会にご協力を仰ぎ、多くのご来賓の皆様にも応援に駆けつけていただいた。さらには、東京都教育委員会、東京都産業教育振興会、東京都中学校長会からも表彰状をいただき感謝申し上げる次第である。

第32回全国産業教育フェア青森大会 さんフェア青森2022

事務局

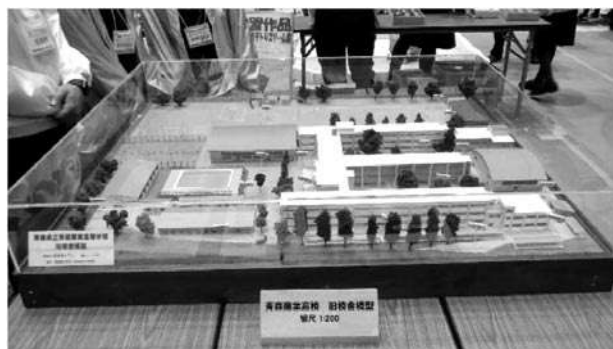
第32回全国産業教育フェア青森大会(さんフェア青森2022)は、令和4年10月15日(土)・16日(日)に開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響等から、一堂に集う大会は3年ぶりとなりました。本会からは事務局長、都立新宿山吹高等学校が参加しました。

1 期日 令和4年10月15日(土)・16日(日)

2 会場 新青森県総合運動公園マエダアリーナ、アビオあおもり、東奥学園高等学校、浜町ふ頭、アップルパレス青森 他

3 開催内容

- (1) 総合開会式・総合閉会式
- (2) 作品展示



(3) 展示販売



(4) 県内企業魅力体験

(5) 作品・研究発表

(6) 意見・体験発表

(7) 文部科学省事業発表会

(8) 参加・交流イベント



(9) ファッションショー

(10) わくわくこども商人（あきんど）

(11) わくわく水族館

(12) 企業・大学・専門学校等の展示

(13) 競技大会等

ア 第21回全国高校生フラワーアレンジメント
コンテスト



イ 第30回全国高等学校ロボット競技大会

ウ 全国高校生クッキングコンテスト

エ 第9回全国高校生介護技術コンテスト

(14) 実習船青森丸 一般公開・タッチプール



(15) 高校生カフェ・技能検定披露

(16) 第64回全国産業教育振興大会

第64回全国産業教育振興大会（青森大会）

事務局

令和4年10月15日（土）15：30～17：00、「第64回全国産業教育振興大会（青森大会）」が青森市内のアップルパレス青森（ねぶたの間）で開催されました。この振興大会は、「全国産業教育フェア」にあわせて毎年開催されるもので、全国の産業教育振興会等から、教育界、産業界の関係者約80名が参加しました。本会からは西澤宏繁会長、山田雅史事務局長が参加しました。

振興大会では、教育界と産業界の強い関係の下、専門高校等の一層の充実・発展を期することとし、「大会決議」（次ページ参照）を採択しました。決議文は、文部科学省はじめ関係する省庁や、各経済団体、高等教育関係団体、全国都道府県教育委員会連合会等に「決議」として提出されました。

【決 議】

農業・工業・商業・水産・家庭・看護・情報・福祉の専門学科及び総合学科を設置する高等学校（以下「専門高校等」）は、実践的・体験的な学習活動を通して、専門的知識、技術・技能を身に付けた人材を育成・輩出することにより、我が国の社会や経済の発展に大きな役割を担ってきた。

今日、我が国においては通信の高速化とともに、AI（人工知能）や IoT など情報技術の応用範囲が広がり、産業構造も大きく変化し、競争も激化してきている。特に、「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大に伴うリモートワークの一般化は、生活様式と就労形態などの効率化をもたらし、学校においても対面とオンライン、それぞれの特徴を活かす授業の併用が、新たな学習の理解を深める取り組みに結び付くなど、情報ネットワークの急速な進展により、私たちの生活が大きく変化した。

また、ロシアのウクライナ侵攻や、アメリカの金融引き締めと円安の加速、輸入資源および商品の値上がりなど、グローバルな政治・経済の動きが生活に直結していることが、情報ネットワークの進展により、直接、目に見える時代になった。このような変化の激しい時代だからこそ、我が国が将来にわたり豊かな社会を築いていくためには、自らの将来の仕事に対し、明確な目的意識を持って専門高校等で学ぶ生徒たちの力は必要不可欠である。

「全国産業教育振興会連絡協議会」では、産業界と教育界の強い連携の下、専門高校等の一層の充実・発展に全力を尽くし、次の事項の実現に向けて取り組むことを決議する。同時に、国及び地方公共団体等におかれては、我が国の持続的な成長・発展に欠かせない専門高校等の充実・発展に格段のご理解とご支援をお願いする。

一、新学習指導要領の趣旨を実現するための ICT 教育環境の整備を含めた教育施設・設備を整備するため、地方財政措置の拡充及び都道府県等における計画的整備の推進並びに私立学校に対する国庫補助の充実

一、専門高校等の教育内容の充実のため、地域や企業等との連携などの特色ある教育活動や、職場体験やインターシップ等の体験活動を取り入れた、実践的能力等を身に付ける仕組みづくりの推進と支援

一、少人数指導を可能とする専門教科担当教職員の定数の改善、養成・採用・研修等の充実、社会人実務経験者の積極的な任用などの教育実施体制の充実・強化及び長時間労働是正方策の推進

一、就職における採用枠の拡大、地元企業等への雇用機会の拡大、女子採用の促進、生徒の各種発表会等での活動及びインターンシップ等の体験活動を評価した採用、健全な学校教育を担保する地域の実情に応じた就職制度の適切な運用

一、専門高校等での学びを積極的に評価する大学等入学者選抜の実施・拡大、特に大学入学共通テストから専門科目（簿記・会計）を廃止する代替として、特に国公立大学には、専門学科卒業生を対象とした選抜制度の積極的な拡大実施、高等学校専攻科からの大学等への編入学の積極的受入

一、専門高校等の生徒（専攻科生徒を含む）の保護者の経済的負担軽減を図るため、就学支援の充実、及び教科用図書等をはじめ、専門教育を受けるためにかかる経費軽減に向けての方策実現

一、専門高校等についての理解・啓発を図る「全国産業教育フェア」等への支援、中学校における技術、家庭の免許を持った教員の配置拡充、専門高校等と小・中学校及び大学等との連携した取組の推進とその支援

以上決議する。

令和 4 年 10 月 15 日

第 64 回全国産業教育振興大会（青森大会）



専門高校生海外派遣研修アラブ首長国連邦（UAE） 工業コース（ドバイ）に参加して

東京都立府中工業高等学校長 鈴木 誠

1 はじめに

令和4年、我が国とアラブ首長国連邦（UAE）とが外交樹立50周年に当たることを契機に、東京都教育委員会はUAEに都立高校生を派遣した。

本事業は、海外交流等を通して、異文化を理解し、多文化共生社会の実現に向けた意識の醸成や、他者と協働して世界的な課題の解決に取り組む姿勢の育成をねらいに掲げている。専門高校海外派遣研修という位置付けで、工業コース6名のうち、本校からは2学年電気科男子1名、電気科女子1名、情報技術科男子1名の計3名が、同教育委員会から派遣研修生に選ばれ、UAE内で近年、著しい経済成長を続けているドバイ国を訪れたので報告する。



2 主体的・対話的で深い学びを目指した事前研修

研修に当たっては、UAEに派遣される22名の生徒を対象に、国内で事前に3回の研修が行われ、研修に当たっての心構えや、中東地域の歴史や文化、海外で活躍する日本人の姿や日本企業の取組などを学んだ。また、各事前研修の後半には、3・4人のグループに分かれ、気付いたことや事前課題で考えたことなどを付箋に書いて述べあったり、グループ発表を通して互いに学び合ったりするなどした。

よりよい社会づくりに向けて、専門高校の学びに関連した海外での取組や技術の視察を通して、自らの学びを結び付ける機会とすることが目的で

ある。

こうした探究的な学習、主体的・対話的でより深い学びの実践を通して、知識だけでなく、考え、まとめ、表現する力や、主体的に取り組む態度など、講評や助言、励ましを受けながら、生徒一人一人がドバイでの研修目的を明確なものにしていった。

3 UAE（ドバイ）での派遣研修の内容

本派遣研修は、令和4年12月15日（木）から令和4年12月21日（水）までの期間で実施された。

（1）在ドバイ日本国総領事館を表敬訪問



在ドバイ日本国総領事館へ表敬訪問を行い、関口昇総領事や職員の方からお話を伺った。

関口昇総領事からは、UAEは空や海のハブとしての交通網を有し、世界の中でも多国籍になっており、住んでいる9割程度の方は200近い国籍の方々であること、日本企業との関わりもあり、インフラ関係や発電技術などは、日本との交流が多く、発展を続けているとの説明を受けた。

また、派遣生に向けては、「世界の動きが非常に早くなっている中、若い皆様には世界に飛び出し、様々なことを吸収し、スピードをもって物事を進められるよう、頑張ってもらいたい」と心温まるお言葉、御挨拶をいただいた。

(2) 外交関係樹立 50 周年記念イベントに参加

日本 UAE 外交関係樹立 50 周年記念イベント Japan Festival に参加し、現地高校生と交流しながら箸づくりワークショップを実施した。本校からは、和綴じ（和紙を紐で閉じたもの）300 冊を作成・配布するなど日本の伝統を紹介した。



(3) 世界一の高層ビルやインフラ施設等を訪問

世界一の高さを誇るバージュ・カリファの展望室や人工島パーム・ジュメイラ等を訪問した。また、ドバイで建設中の世界最大級廃棄物処理発電施設を訪問し、廃棄物処理の現状、事業計画、施工のプロセス等を学んだ。さらに、ドバイ郊外(スワイハン)の世界最大級太陽光発電施設を訪問し、パネル効率・発電量、メンテナンス・システム管理等を視察した。



生徒は、「ドバイは広い土地を生かしているが、日本には平地は少ない。社会に貢献するため、自分にできることを考えたい。」「世界ではスピード感が重要である。しっかりと計画し、すぐに取り組むことが大切だと思った。」「世界の人々と協働するために、積極的に英語で会話する必要性

を学んだ。」などと振り返り、本研修を終えた。

4 研修を終えて

帰国後、冬季休業中も正月休みも返上し、生徒は学んだことをそれぞれまとめ、多くの方々に研修成果を還元するため、小池百合子東京都知事への報告や、全校集会で本校生徒に向けた研修報告を行った。



令和4年12月26日(木)、これからの東京をどのように変えていきたいかオンラインイベント「都知事！わたし、東京をこう変えたいです！」(東京都主催)において、「未来につながる、持続可能な社会」をテーマに、小池百合子東京都知事の前で、UAE において国際交流を経験した研修生から提案報告のプレゼンテーションを行った。



小池都知事からは、「現地の経験をもとにした説得力のあるもの、身振り手振りを交えたもの。東京の未来についての有益な提案をいただきました。未来を進めていくのは若い皆さんです。日本なら、東京ならこうしたら良いなを提案してください。提案いただいたことは、都政に活かしていきます。」とのお言葉をいただいた。

今後も未来を担う産業人材の育成に取り組む。

報 告

令和 4 年度 総会・講演会 報 告

令和 4 年度の東京都産業教育振興会総会及び講演会は 6 月 28 日（火）に、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、会場参加（全商会館）とオンライン参加を併用したハイブリッド開催とさせていただきます。



総会の開会にあたり、西澤宏繁会長、常任理事の村西紀章都立学校教育部長から挨拶がありました。

続いて、来賓の公益財団法人産業教育振興中央会専務理事岩井宏様、東京都公立高等学校長協会副会長の守屋文俊様（東京都立中野工業高等学校統括校長）、東京都中学校長会会長の山口茂様（国立市立国立第三中学校長）から御挨拶を頂きました。

次に西澤宏繁会長を議長として議事に入り、事務局から次の 3 件の報告事項と 7 件の議案を提案いたしました。

会員各位の慎重なる御審議の結果、報告事項及び議案は全て原案通り承認されましたので御報告いたします。

- ・報告事項 (1) 令和 4 年度 会長、副会長の選任結果について
- ・報告事項 (2) 令和 4 年度 教育庁内の東京都産業教育振興会役員について
- ・報告事項 (3) 令和 4 年度 産業界会員功労者（永年会員）の表彰について
- ・第 1 号議案 東京都産業教育振興会会則の一部改正（案）
- ・第 2 号議案 令和 3 年度事業報告（案）
- ・第 3 号議案 令和 3 年度決算書（案）
- ・第 4 号議案 令和 3 年度監査報告

- ・第 5 号議案 令和 4 年度東京都産業教育振興会役員（案）

- ・第 6 号議案 令和 4 年度事業計画（案）

- ・第 7 号議案 令和 4 年度予算書（案）

総会資料は会員企業、学校等に配布済みです。

続きまして、本年度の役員を紹介いたします。

会 長	西澤 宏繁（留任）
副 会 長	金子 昌男（留任）
同	小林 治彦（留任）
同	岡本 裕之（新任） （東京都立江東商業高等学校長）
理 事 長	浜 佳葉子（新任）
常任理事	村西 紀章（新任）
同	白井 宏一（新任）
同	吉田 直子（新任）

総会終了後、産業界会員功労者（永年会員）表彰式を行いました。今年度の表彰企業は以下の 2 社です。

株式会社ツバサ・翼学院グループ
株式会社箸勝本店



表彰式終了後、講演会を開催しました。

演題：「令和の日本型学校教育の構築」

講師：奈須 正裕 氏

上智大学総合人間科学部教育学科教授

中央教育審議会教育課程部会委員

会場参加者 21 名、オンライン参加者 16 名、計 36 名

（講演要旨は 44 ページから 58 ページに掲載）

講演会・講演要旨

「令和の日本型学校教育の構築」

講師：奈須 正裕 氏

上智大学総合人間科学部教育学科教授

中央教育審議会教育課程部会委員



みなさんこんにちは。今日は貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。少しまとまったお話をお願いします。私自身はずっと普通科それから教育学部を歩んできた人間で、本当に産業教育にかかわるということはなかったのですが、中教審の議論でも高校教育や学校教育をどうするかと言ったときにどうしても産業教育のことが抜け落ちているような気がします。

今日お話しすることは、高校だけでなく小中あるいは大学を含めてですけど、日本の学校教育あるいは教育が、従来の産業教育がやって見えたこと、あるいはそこでお持ちになっている多様なノウハウを学ぶことがとってもあるなと、そんなことに結果的になるのではないかと考えています。最後に普通科の改革ということが今進んでいますけれども、これは普通科が悪いというよりも、やっぱり時代が変化してきた、求められる学力論、あるいはもっと言えば人材像が変化してきたんだということがあってと思っています。

今日のメニュー

1. 改めて学力とは？ 資質・能力とは？
2. 汎用的能力と教科の本質（見方・考え方）
3. 総合的な探究の時間の充実
4. 令和の日本型学校教育

今日は4つ欲張ってお話を申し上げようと思っているのですが、一つ目は改めて学力ってなんだろうという話です。今回の指導要領では資質・

能力って言葉が使われていますけど、このことを中心にと思います。二つ目は、教科をどうやるか、ここでの教科は専門学科の教科というよりは、伝統的な普通科や小中学校の教科のイメージですけど、そこもやっぱり変えていくということです。教科の学習というと、何か暗記中心、あるいは座学中心というイメージがありますが、ここも変えていかないといけない。教科は元々もっと面白いものじゃないか、子供が学び甲斐があるものじゃないかと思います。それから三つ目として総合的な探究、小中学校の総合的な学習です。私自身は総合的な学習を指導要領でも担当させていたでってきました。色んな学校と一緒に作ってききましたが、総合的な学習というのはこれからの学力とか学校を考える上では1つのカギになると思います。高校も今すぐく総合を頑張ってください学校が増えてきてありがたいなと思うんですけど、これは専門学科では「課題研究」で代替していますし、あるいはSSH、SGHのノウハウが効いてきているわけです。最後に令和の日本型学校教育。21年の1月に出た中教審答申は、「個別最適な学びと協働的な学び」という言い方をしますが、日本は一斉学習、集団でやってきました。もっと一人一人のありよう、一人一人の個性というものを重視する。これは産業界におけるイノベティブ人材の養成というものがもちろん影響しています。さらにはグローバル化が進んでくる中で、多様な背景を持つ子供が学校に来ているわけですが、その一人一人誰も辛い思い、悲しい思いをさせずに、学びということを保証していこうじゃないかという動きであります。

まず学力とは何かということですが、学力ってなんですか。私は小学校の教員養成系の出身ですけど、そこで教わったのは、学力というのは毎時間毎時間一つ一つのことを確実に子供たちの中に入れていくことだということでした。方法は色々あるにしても、1時間に1つ着実に子供の中に入れていこうと、レンガを積み上げるようなイメージです。テストも私たちが積み上げたレンガが1個1個教えた通りに教えた場所に収まっているか、それを確認しよう、入試に至るまでそんなことだったかなと思うのです。つまり「何を知っているか、何をどれだけたくさん多く教わった通りに知っているか」、これが学力だと思います。これを内容中心のコンテンツ・ベースといいます。

これに対して、資質・能力を基盤としたコンピテンシー・ベースというのがあります。持っていることを使って生きていくために僕らは実は多くの知識を子供たちに教えてきたし、子供も一生懸命学んできた。つまり子供たちが一生懸命な場面で多様な問題解決を粘り強くやっていくときの武器や道具や材料になるのです。しかし、僕らが教えている教科の学力というのは残念ながらそうならないような気がするのです。色んなことを知っているのだけでも使えない。宝の持ち腐れ学力になっているのです。これは僕らの先輩たちもずっと気にはしてきたことですが改善されてないのではないかと思われるのです。資質・能力というのはこれを変えていこう、資質・能力を英語でコンピテンシーといいますけども、コンピテンシーというのは有能さという意味です。有能さっていうのは、問題解決が的確にとか個性的にとか創造的にできるということなのです。知識がいらないということを言っているわけではありません。知識がありさえすれば、また知識があっただけうまくいくという風に簡単にいくわけではない。大事なことは知識があることだけでなく、問題解決が的確にできること、つまり有能さを兼ね備えることだろうと思います。

ただ多くの場合、有能さを支える一番大きな要因は知識かもしれません。だから僕たちは知識を教えてきた。ただいつの間にかそこで手段と目的が逆になったかもしれません。そこをちょっと考え直そう。知識を教えるのは何のためだったか。それを存分に使って自分らしく生きていくためだと。逆に言えばそこを直接的にターゲットとして見据えた教育にやり直したほうがいいのではないかというのが資質・能力を基盤としたという考え方です。

だから、資質・能力を基盤としたコンピテンシー・ベースというのは知識軽視ではないです。ただ知識が問題解決にまで届くようにしようということなのです。これまでは何をどれだけたくさん知っているかということ足場に教育を組んでいきましたけど、もう直接的にどのような問題解決を現に成し遂げるかということを見据えて教育をしたほうがいいのではないかとということです。だからテストも変わってきたのです。ただ知っているだけでは答えられない、知っていることを使って初めて出会う問題場面で問題解決ができる。そこまで含めて学力にしようじゃないかということです。

この資質・能力、コンピテンシーというのは案外古い言葉です。1970年代に一つの転機がありました。デイビッド・マクレランドというハーバード大学の心理学者ですけど、彼は感情とか意欲の研究をしていたので、人生において感情や意欲はとっても大事だと思っていたのです。ところが教育界の人に聞いたら、「知識の量が勝負を決めるのですよ」と。でも本当かなと思ったので調べたら、知識をたくさん持っている、子供の時は成績が良かった、資格をたくさん持っているとかいう人が40、50になったときに、社会経済的に成功しているか、あるいは身体的に精神的に健康に生きているか、あるいは職場や地域で人望があるか、というと、あまり関係がなかったのです。

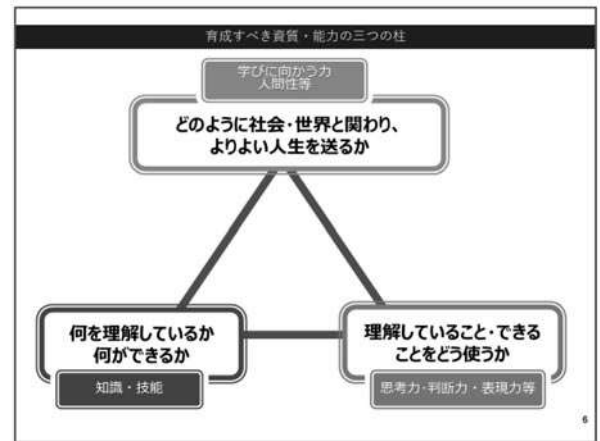
でも、逆はありませんか。高校時代あまり勉強が得意じゃなかったけれども、久々に同窓会で

会ったりするとすごく頑張ってちゃんとやっている教え子。

知識は大事なのです。子供たちもできたいと思っているんです。でも知識さえあれば上手くいくわけじゃないし、知識がなければお先真っ暗ということでもない。じゃあ他にどんな要因が大事かということを研究していますけど、意欲とか感情の調整能力とか対人関係能力とか、こういったものが実は知識と同列かそれ以上に影響力があるのです。

今日は企業関係の方がたくさんいらっしゃいますけど、企業の経営とか、人材登用の仕方、人事のやり方が70年代から80年代に変わってきました。だからひょっとしたらコンピテンシーという言葉はそういう人事管理の問題、コンピテンシー・マネジメントって経営学で言いますが、企業関係の方はむしろそちらでよくご存じかもしれません。すると、例えば人を採用したり昇格させたりするのにペーパーテストだけでやっていいのかって話です。本当にそれでいい人が採れているのだろうかってことを考えないといけない。企業がそうなってくると教育も見直そうということになってきました。学力論を刷新しよう。優れた問題解決に必要な十分な要因、これがコンピテンシーですけど、これ全部が学力だと考えようということです。つまり学力をもっと拡張しよう。そうなってくるとさっきの感情の自己調整能力とか対人関係能力、非認知能力といいますけど、これが大事だということになってきます。

さらに思考力、判断力、表現力ということももっとしっかりやっていかなきゃいけない。また、知識・技能の質ですね。教科の勉強で知識を教えているわけですけど、ただ知ってるのではなくて使われるような知識にしていかなきゃいけない。それで、こんな3つの学力論になってきたのだということです。知識は引き続き大事ですけど、思考力や学びに向かう力もあって初めて人間は問題解決がしていける。



1970年代のお話をしました。ずいぶん古い話ですね。半世紀も前に学術的に分かっていたのに、なんでこんなに時間がかかったのでしょうか。

これは社会の変化です。さすがにもう知識だけじゃダメだという話に社会の産業構造が変わってきた、経済状況が変わってきたということがあります。こういう風にどんどん変わってくる時代になると、正解をたくさん頭の中に詰め込んでおいてもあまり意味がない、役に立たないということになってきます。すると学力論が変わってくる。一番大きいのは要素的な知識や技能を所有するという価値が低下するということです。

もう今、日本の小中学校には6歳児にギガ端末が来ています。高校もどんどん配布されると思います。目の前にコンピュータがあって、いつでも使えるのです。インターネットに繋がっているのです。先生が情報提供するということを中心にする必要はない。つまり教師がやるべきことがちょっと変わってくるのです。

これまではそういうのが無かった。だから私も免許教科が社会科ですけど、まず社会科はもちろん考える教科です。ただ考える前に材料がないと。その材料を私が教えないと。ということで、ただ教えているうちに50分終わっていたのです。だから社会科は暗記物と言われました。そこが変えられる時代になったのです。喜ばしいことです。実を言うと。だから知識を軽視しているのではないのです。情報を所有するということを超えた学びに行ける時代になった。

一方で型にはまった仕事が機械にとって変わられるという心配もありますけど、もう皆さんご案内の通りコンピュータと人間は違います。むしろコンピュータを、あるいはロボットを存分に使って、人間こそがやるべきこと、人間がやらなきゃいけないことを学校はしっかりと教えるべきだということです。

そういう人材を社会も求めているだろうと思います。人間にこそできることってというのは、何でしょう。価値の判断とか創造とか意志の決定とか多様な多者との協働、こういうことは機械にはできませんし、また機械にさせてはいけません。人間がやるべきこと、そしてそれによって人間が新たな価値を創造し、経済を先に進めていくということだと思います。

逆に言うと、従来型の教育には人間の機械化の面があったのではないのでしょうか。7桁×5桁の計算が速くできる、つまり人間を計算機にしようとしていたのではないか。とにかく頭の中に膨大な知識を詰め込んでいく。人間をハードディスクにしようとしたのではないか。昔は機械がなかったから、計算機がなかったから、それが必要だった。あるいはそれが競争的学力だった。もはやそれは競争的学力ではありません。

その意味で言うと、AI化の進展とか Society 5.0 というのは教育の人間化のチャンスです。僕らはもっと人間を人間に育てるためにテクノロジーを使っていく。その最前線がまさに産業教育だったんじゃないかなと思うんです。そういうことがもっと普通科の教育にも、そして小学校や中学校にも及んでくる時代になるのではないかなと思います。

でもこんなことを言われる方がいます。「でもね、大学入試があるからそう簡単にはいかないでしょう」。いや、入試は変わってきています。すでに私立大学入学者の半数はAOや推薦入試。推薦入試も指定校推薦じゃなくて自己推薦とか公募制推薦、あるいはAO、アドミッションオフィス入試ですけども、生徒たちは自分たちがどんなことをやっ

てきて、この大学で何をしようと思っていて、そのためどんな準備をしていて、そういうことをちゃんとアピールできたり、きちんと論理的に書けるか、その子が持っている実力、まさにコンピテンシーが見られてしまう。

じゃあ実際に授業はどうするか。まず教科から考えましょう。何もかも教えるような教科の授業をやめるのかな、暗記型の教科はやめるのかなということです。中教審答申でもこんな言い方をしています。「新たに取得した知識が既存の知識と関連付けられたり、組み合わせられたりして、様々な場面で活用される。」

実は活用されるためには、ばらばらの知識ではいけないんです。これとこれが意味的に繋がっていると、訳が分かっていると、この教科はいつもこの事を考えていけばよく考えられるとか、そういう構造化された知識になる。

アメリカでは、1980年代に「網羅」する学習から「看破」する学習ということが言われていました。「網羅」する学習というのは、伝統的なさっきの社会科の暗記物みたいな、煉瓦を積み上げていくように全部を教える。全部を教えようとするから先生も子供もとにかくあまり考えないで暗記する。でもそれでは使える知識にはなりません。

じゃあどうするか。「看破する」というのですが、本質が見通されている。この教科はここがポイントだということがわかって勉強している。個々のコンテンツ、内容を生み出し、それらを集約的に整理する教科の本質。一つ一つの教科にはその本質というのがあります。

今回の指導要領では、これを「見方・考え方」と言っています。理科の見方・考え方、数学的な見方・考え方、それをしっかり教えよう。先生方はそれを踏まえて授業していらっしゃるのですが、特に高校の先生は生徒に伝わってないのです。そこが生徒に伝わるようにしようということなのです。

わかりやすく具体的にお話しましょう。見方・

考え方というのを考えるには、こんなことを考えたいのです。

教科には対象と方法がある。教科は中身もあるけれど、世界をみる独特な見方を子供に教えているのです。一つ一つのその教科ならではの世界観、世界に対する迫り方、これを教えている。それは一生涯あの子たちが行きていく中で使いこなしていくものです。

いろんなものの見方、いろんな世界の切り取り方、それが子供たちの世界を豊かにするのではないですか。またそれをいろんな対象に適切に使わせて、迫れるようになることがいいことなのではないですか。教科というのはそういうことを教えているのだということを考えて、すべての教科は対象についての知識も教えていますけど、その過程で用いるその教科ならではの知識や価値や美を生み出す方法を教えている。認識論的なものです。

だから見方・考え方は、その教科ならではの認識論的なアプローチだということです。それを教えようと。またそう考えると汎用的な能力とか言っていますが、やはり教科が大事です。教科が大事といっても、個々の知識をただたくさん身につけるのではなくて、その教科ならではの世界に対する迫り方をきちんと子供が身に付けて、それを全部の教科を通して上手に使えるようになることが大事です。そうすると教科が面白くなる。

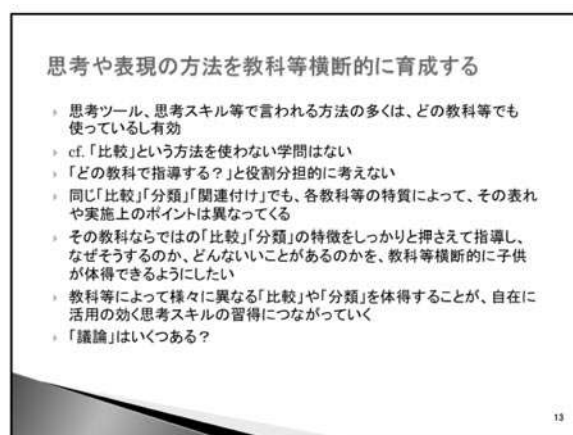
例えば、理科で言ったら近代科学、条件制御とか系統観察とか誤差の処理。小学校3年生から高校に向けて段階的に教えていると思います。これがそれと分かるようにもっとはっきりと教えたい。あるいは、社会科だったら多面的、多角的です。多面的というのは視点を移動してみる。同じ生産過程でも資本家の側と労働者の側でみるとかです。歴史でも為政者の側と民衆の側で、同じ事実が違う景色に見える。これが多面的です。多角的というのは、一つの事象を地理的、歴史的、政治的、経済的に眺められる。社会科はこういうことをやっ

ているのです。やっているのだけど、それとわかるように、やっぱりもっとしっかり教える必要があるのです。

また実際には毎時間毎時間コンテンツを教えています。そのコンテンツを通して、それがわかるようにしたい。例えば、理科だったら化学の領域は粒子、物理の領域はエネルギーを中心的な概念として、すべての内容を教えていこう。自然とそうなっています。粒子の存在と挙動。例えば、小学校4年生で空気は縮められるけど、水を縮めることはできないということを教えます。でも、粒子を意識できていない。例えば、空気をぐっと縮めている時の空気のピストンの中の様子を粒で書いたり。小学校でもやるのですが、それが押し縮められる前と押し縮められた後で、粒の数が減っている子と減っていない子がいるんですよ。そこに教師が切り込んでいく。「これは減るの」って。「先生、かさが減っているのだから減るんじゃないの」って。「でも出入りがないんだから減っちゃいけないんじゃないの」。「じゃあどうなっているのだらう」。これは、粒子という概念を通して、物が実体的に存在することと、状態としての体積が変化していることを分けて考えられるかどうかです。これが科学的ってことです。粒子の数は変わらない。かさが変わっても変わらない、これ質量保存です。小学校4年生では質量保存は教えませんが、先々、質量保存につながっていくような概念的な理解を実験や観察の中で直感的にはもうやってるのです。

小中高の縦の系列でそれがきちんとやっていけるようなカリキュラムが必要だから、小中高の連携接続、学校間接続というのもそういうことを考えていかなければいけない。社会科もいっぱいあります。公正とか人権とか民主主義とか。地理は立地条件ということをやずっと考えていったらいいのではないか。地理はブラタモリが正しい地理ですけど、あれはすべて、なんでここにこれがあるんだろうって問いです。それを自然地理的、人文

地理的に見ていく。つまり元々、地理は面白いものなのです。覚えるのではないのです。なぜという問い。問いの中心は立地条件、なぜここにこれがあるのかという問いで一貫しているのです。でも、これまでの地理ではそれが子供に身につけていないのです。思考や表現の方法を教科横断的に考えたいのですが、その教科は教科ごとに一つ一つやっぱり特徴を持った迫り方をしていますし、それがそれとわかるような授業にしたいなと思う。その上で、教科を超えてくることもあるし、そんな授業にも挑戦したい。



最近、思考ツールとか思考スキルとかいうことが言われて、文部科学省的には考えるための技法と言いますが結構入ってきています。例えば比べる、関連づける、順序づける、そんなのは思考スキルとして子供たちが考えるときにいつも頭のどっかに置いとけばいい。

比べてみたらどうかな。関連付けてみたらどうかな。順序づけてみたらなんかみえてくるかな、そういうのをもっとしっかり教えていこうということが言われています。これは教科全部で使えますよ。比べるってことをしない学問はありませんから。じゃあ比べるってことを教えればいいのですね。いや違うのですよ。教科によって比べ方が違うから、理科の比べ方と国語の比べ方は全然違いますから、同じ比べるでも教科によって比べ方の様相が微妙にしかも体系的に違うってことを教えるのが大事なのです。

今、思考ツールや思考スキルで比べるを頑張っ

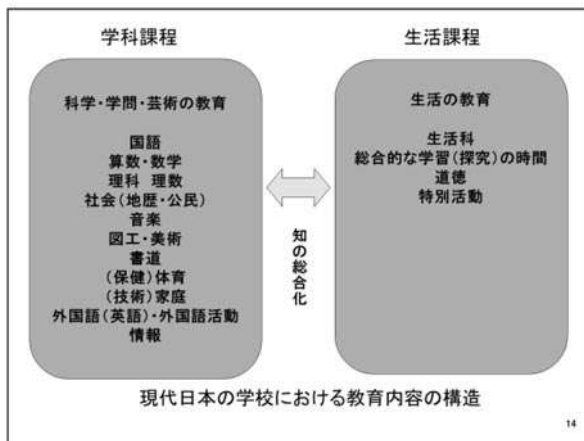
てみよう、関連づけるを使ってみようという学校はいっぱいあるんですけど、比べるや関連づけるが教科によって違うということまでわからせて、この場合はどの比べるを、どんな理由で、どんな風に使うのか。それがわかるように教えている学校はあまりありません。それをやりたいなと思います。高校の先生は各教科の専門性があるから、うちの教科で比べるというのはこういう時に、こんな理由で、こんな方法で使うんだよということを是非教科間でご議論頂きたい。

そして、その教科ごとの比べるを子供に教えると同時に子供はそのいろんな教科の比べるを鳥瞰的に見渡して、なるほど同じ比べるでもだいたい違うのだな。するとまたそこから、教科によって比べるが違ってことは、教科はそもそも随分違うのだな、ということがまたよくわかっていく。すると初めてみる場面の問題解決ができるようになるんです。この場面ではどの教科の比べるを、どんな風に使えばいいのかが、しっかりと判断できる。そうすると問題解決力が上がってくるのではないかと思います。

最近は話し合う、議論するということを大事にする学校も多いです。もっと話し合う力を付けたい。その時に話し合う機会をいくら多くしても力は悪いけどつきません。単に話し合いの練習をするのではなくて、そもそも話し合うってどういうことかをしっかりと教えましょう。つまり国語と理科と社会と数学の話し合うは違うから。例えば理科の話し合いでは決着を着ける。決着が着く話し合いです。そこで使う言葉も操作定義された厳密な言葉です。社会科はどうですか。社会科の話し合いは決着をつけることもありますけど、妥協するとか折り合いをつけるとか、そんなネゴシエーション的な話し合いもいっぱいあります。美術とか音楽はどうですか、例えば鑑賞の授業の話し合い。決着なんかつけちゃいけませんね。折り合いとかつけちゃいけませんね。一人一人がゴッホの絵をこういう風に見てるよということとその子な

らではのものとしてちゃんと表現し、それをそう見てない子にちゃんと伝える。あるいはそれを知ろうとする。僕には全然そう見えないけど、面白い見方をあなたはしてるんだね。その子の背中に回ってその子が見ているゴッホの絵の景色を見たいなと願うような話し合いになるんじゃないのですか。

教科によって話し合いすら違うのです。多様な話し合いがあって、話し合いの前提、目指すべきゴール、途中の作法やルール、用いる言葉の様相だって、全部違うわけです。たしかに教科の授業ですでに使ってはいます。なので子供は経験はしていますが、それがそれとわかってないので使いこなせません。こういうことを、高校でぜひきちんとやっていきたいなと思っているのです。



そう考えてくると教育課程っていうのはこういう構造をしてるのかなと思います。これは小中高の教育課程を私なりに整理したものですけど、まず左側に教科があります。科学、学問、芸術の教育です。ここは先生方の専門学科の教科は入れていませんけど、さらにここに入ってくるわけです。ただ、専門学科の教科と普通科とか義務教育の教科はちょっと特質が違うのかなと思います。これをどう整理するかということもまた先生方に教えていただきたいな、議論したいなと思います。そして、科学、学問、芸術とちょっと違うのが右側です。

生活の教育。学校は科学、学問、芸術を教えています。でも生活も教えています。例えば、小学

校の生活科、あるいは総合的な学習・探究の時間、あるいは道徳や特別活動ですが、これは学問ではありません。生活のレッスン、民主主義のレッスン、集団生活のレッスンです。日本はこれを結構手厚くやってきました。この二つがしっかりと学校のなかでやられ、この二つが繋がってくるということが大事です。生活が科学によって支えられ、科学が生活と関連をしているんだということが見える。こういうことを考えていく必要があるんじゃないか。そうなるときに、生活の教育側で考えたのが総合なのです。

学校は広い意味での科学を教えるところ、教科を教えるところだろうと私はそう思います。ただ、元々、科学、学問というのは何か。それは生活を良くしようという先人の努力から生まれたと思うのです。

ところが、どんどんどんどん抽象度を上げてきて、生活との関係が僕らに、いわんや子供にとっても見えにくくなっていく。なんでこんなこと勉強するの。これが僕らの毎日の東京の暮らしとどう結びつくの。それが見えにくくなる。その意味で先ほどの生活の教育と科学の教育の結びつきが見えるような授業にしていきたいなと、そういう風にしていきたいなと思います。

一方で生活の教育というのは気を付けないと理由を問わない教育になりがちです。生活科や総合でも、おばあちゃんの知恵袋みたいな、そういう知識ではなくて知恵だってよく言うのですが。知恵というのは気を付けなきゃいけないくて、よくわからないけど昔からそうやってうまくいってるからそれでいいんだよ、みたいな知恵もたくさんあるのです。それではまずいのです。いや、世の中はそれでいいのですよ。でも学校ってところは、事実に基づき科学的に吟味し、民主的に議論するということを少なくとも戦後の教育はモットーにしてきました。それで戦前を乗り越えてきたのが、戦後日本の教育です。事実に基づき広い意味での科学的に議論し、検討し、そして民主的な議論を

経て意思決定をしていく。これはやっぱり学校教育がもう幼稚園から大学までみんな大事にしていることだし、大事にしていかなきゃいけないことだと思います。

またそういう目で生活を吟味する。生活の科学的吟味ということが出来るのも学校の大事なところだと。地域のおばあちゃんやおじいちゃんの話を知るといいことも言ってくれるのだけれど、因習や迷信や差別的な見方なんかも混在していて、それでは困るのです。そこは知恵に学びつつ、それを乗り越えて更に良いものにしていく。あるいはこの時代に合った新たな知恵を生み出していく。別におじいちゃん、おばあちゃんのお話にダメと言っているわけではないです。でも、やはりそれを相対化していく。それが大事。そして、時間を越えた相対化をする時に役立つのが科学なのです。科学や学問や芸術は、時代を超えた真実ですから。そこが大事です。そうすると、科学の教育と生活の教育の間で知の総合化をすること、互恵的な関係をつくるのがカリキュラムでは大事です。これは高校でまだまだ進んでいないと思います。もっと地域に出て、地域の人達と関わったり、自分の暮らしを探究的に作る学び。そういうことに取り組んでくださっている高校が増えていますけど、それをやっただけでは弱いんです。それが普段、教室でやっている教科の勉強と繋がるんだ。そこを見せてあげたい。そういうカリキュラムになると良いなと思います。

では、総合が担う生活教育の側面とはどういうものか。特別活動というのは集団生活。高校にはありませんけど、道徳というのは倫理的な側面。それに対して、総合が担うのは例示された学習課題を見ていくとこんなことがあります。

まず総合が担うことの1つは、横断的・総合的な課題。国際理解、情報、環境、福祉・健康など持続可能な社会の実現、ESD、SDGsです。こういう現代社会の問題のことを扱ってほしい。これを教えるのではないです。これらは、子供達が自



分達の生活を見つめ、自分達の生活を創造しようとすると、どうしたってぶつかっていくということです。

それから地域や学校の特色に応じた課題。これはよりよい郷土の創造、いわゆる地域創生ということです。これに取り組んでいらっしゃる高校も多いと思いますし、よいことだと思います。自分の足元を見つめて、自分達の暮らしをつくっていくということです。

それから、もう1つこんなものもあります。生徒の興味・関心に基づく課題。生徒がそれぞれの発達段階において、興味・関心を抱きやすい課題、あるいは高校には職業や自己の将来に関する課題ということがあります。1番と2番は社会的課題なのですが、3番と4番は、より個人的で、精神的で内面的な課題なのです。

この3つは大事です。まず地球が元気でない困るじゃないですか。これが1番です。2番目、地域が元気でいてほしいじゃないですか。3番目、でも私も元気じゃない困るじゃないですか。地球が元気、地域が元気、私が元気、これを目指すということです。総合ってすごく分かりやすいです。すると元気に頑張ってやっていけるぞという、総合ってそういうものなのです。それほど難しいのです。そういう暮らしを追求していく。創造していく。そういう学習だと思っていただければよいです。

4つの課題に共通するのは、答えが無いことです。従来の教科は何となく答えがありました。教

科も本当は答えはないのですが、一応暫定的な答えがあるというふうにしてきた。ところが、生き方には答えがありません。当たり前ですね。生き方なのですから。人間の生き方は元々答えがないのです。答えがないものを答えがないものとして、子供達に探究させよう。いろいろ探究し、いろいろな人の意見を聞き、やってみて最後はあなたが考えなさい。あなたが仲間と一緒に考えなさい。そしてまたやってみなさい。そしてまた振り返ってみなさい。そうすると、その子は生き方・在り方を自分で作れる人になるのではないか。それも、ただ個人でなく、地域の人達と地域の問題を見つめて、それから地球のことを考えて、そういう生き方・在り方ができるのではないかということです。

もちろん先生も正解は持っていません。先生は教えなくてよいのです。一緒に悩みましょう。一緒に走り回りましょう。それが求められている。だからデザイナーやファシリテーターやコーディネーターだよと言われるのは、こういうことです。先生達はずっと教えてきたので、これがなかなか慣れないのです。ですが、子供達と何か楽しい学校や地域の暮らしができないかなと思っていただければよいのです。あの子達と一緒にこの街で何かしてかそうみたいな。そうなった時に、専門学科の皆さんはしてかしてきたから、得意です。その技術を持っている、材料を持っている。やはりそこは普通科がまだまだ弱い。そういう感覚が身につけば、普通科の先生も皆できるのだけど。この頭の中の切り替え。「課題研究」なんかに1つのよいイメージを普通科の先生がお持ちになるといい。だから、普通科の先生が近くの農業や商業や工業、いろいろな学科でやっていることを見ていただいたらよいと思います。ああ、これはこういうことか、こういうことであればうちの地域でこういうことを一緒にできるな。いっぱいアイデアがあると思います。普通科の先生は、やはり学問をベースにしようとするので、そこが違うので

す。また、総合で扱う課題は、社会に生きる全ての人が自分事として受け止めて、ずっと一生涯暮らしの中で関わり続けて問題解決していかないといけない。

生活実践上の課題、暮らしの課題なんだと。地域が元気になるというのは他人事じゃない。自分事だと。しかも地域に暮らす皆にとっての自分事だと。でも、残念ながら地域によってはそうっていない。そこで、子供をだしに使ってやっていきましょう。子供が頑張ってこの地域を元気にする。すると、大人達は意気に感じる。ありがたいと思う。そして、自分達が弱音を吐いてはいけない。子供達に負けないように頑張ろう。そういう風に、学校が打って出たことで地域が再生した事例がたくさんあります。ぜひ、今こそ高校が地域を元気にする拠点と思っていただいて、いろいろ地域にしかけていただきたい。面白いと思いますよ。そんなことは、従来の教科ではもちろん扱えない。だから総合で扱うということです。

大事なことは、生活教育というのは大人がよいと思う生活を押し付けることではありません。他人事みたいに学問的に研究するものでもありません。これまでの自らの生活の一部を自覚して、吟味して、より納得のいく自らの生き方・在り方を求めて暮らしをつくるのです。先生と一緒に。仲間と一緒に。地域の人と一緒に。こんな生活、こんな出来事ができたら楽しいな。素敵だな。一発してかしてみようと。これが総合です。自分達で望む生活をつくるから、当然プロジェクトになります。最近プロジェクト・ベース・ラーニング、PBLということが言われますけど、それはプロジェクトが大事というわけではないです。暮らすことが大事なのです。僕らが暮らしているということはプロジェクトなのです全て。私達の個人の生活も家族の生活も地域の暮らしも、皆プロジェクトなのです。全ての人生はプロジェクトだと。してかすことだと。プロジェクトXだと思っていただければいい。そうすれば学校は楽しくなります。

そして地域も元気になる。子供もそのプロジェクトをいっぱい経験して上手くいたり、上手いかなかったり、助けてもらったり、自分が貢献したりする。すると、大人になった時にそのプロジェクトをやっていける担い手になる。そういうことなのです。

専門学科の「課題研究」も、基本的には同じ。もうすでに申し上げてきたとおりです。専門学科の場合は、入学時にある種の契約として、すでにここをやるよということが約束されているわけです。農業高校に来た子は本当にやりたかったことかは別として、農業高校では農業を専門でやるよというお約束の中で、来ていますから。だからそのことで「課題研究」をやるのです。普通科はここが難しい。そういう約束がないから、お互いに。そこでやはり課題づくりが圧倒的に難しくなっていく。だから、さっきの地球が元気、SDGsやESDとか考えていただいたり、地域が元気、地域創生で考えていただいたり、私が元気になるキャリアとか、そういうことで考えていただければやりやすいかなということです。

具体的な実践を1つご紹介しましょう。中学になってしまうのですが、中3の子達が、地域の自然環境ということで、川の掃除をよく行うのですが、地域の川が汚れている。綺麗にしたいな。でも川はいくらやっても綺麗になりません、流れていますから。やってもやっても、駄目だと泣き言を言うのです。それで、ボランティアで地域の掃除をしているおばちゃん達と出会うのです。学校に行く前に早朝おばちゃん達と掃除をやっているのです。おばちゃん達に「いくら頑張っても駄目なんだよ」と弱音を吐くと、おばちゃん達は「平気。いいのよ、自分達がやりたくてやっているのだから。」「やめてしまうとっと汚くなるし。」「それでも長くやっただけから、仲間も増えてきたよ。」「どのぐらいやってるの。」「15年かな。」って言うのですね。おばちゃん達にとっては、15年は大したことないけど、子供からすれば、「えっ、私が生

まれてから今日まで、これがずっと繰り返されてきた。多分これからも繰り返されていく。それって一体何だろう。」と気が遠くなるような話です。こういうことに気がつくことが大事なのです。世の中分かっていると思っているようで分かってないのです。そういう時に問いが生まれる。「環境問題を解決するって思ってたけど、解決されるってどういうこと」って。「ボランティアって何」と、分からなくなるのです。分からなくなると、子供はちゃんと考えます。子どもたちがちゃんと調べた結論は「人間がいなくなれば、旺盛な経済活動が行われなければ、自然環境が保全されるらしいです。」そうなのです。環境問題の解決のためには人間が消えればいいのです。人間が消えれば、何百年かかかるけど、地球は元通りになるそうです。こういう厳然たる現実をちゃんと突きつけるのです。一瞬、絶望しますね。でも絶望から立ち上がってくることが、生き方として本当に深いのです。それで、中学生たちはどう考えたかという、「先生、私たちがいなくなるわけにはいきません」と。ここから新たな探究が始まります。

まず、経済活動を縮小すると豊かな暮らしにならないじゃないかと言う子がありますが、豊かな自然がないのに豊かな暮らしって何って。経済活動って何。開発って何。私達が経済活動をするということはもちろん必要で大切なこと。でも何だろうと。これが持続可能な開発という問いです。もちろん、開発するし、成長するのです。ただ、持続可能にする。あるいは、僕ら先進国と開発途上国の間で、その格差がないようにする。どうするのですか。それが今突きつけられている。もちろん、すぐには解決などできません。でも、そういうことをちゃんと思い悩む、引き受けるということが大事なのです。環境負荷や持続可能な開発という言葉は勉強しているわけですが、それが自分の実感あるいは痛みを伴って感じられる。そうなった時に、理解も本物になるのです。教科の学力も本物になります。これが大事なことです。だから

やはり教科と生活が結びつく。面白いですよ。「先生、解決というのはね、問題が消えて無くなるわけではない」と言っていました。そこで、この子達なりに解決という概念を定義しました。とりあえず不都合のない状態にとどめる。今より悪くならないようにする。影響の及び方に明らかに不平等がないようにする。こういうことを中学生が気づいていく。これが生き方が深まるということです。

だから最後は概念的な理解、知的な理解なのです。でも、いきなり知的な理解ではないのです。活動して、痛みを感じて、悩んで、そして最後は知的理解です。やはり学校ですから。そこは大事です。人間は、誰でもとんでもない思い違いをして生きているのです。よかれと思ってあちこちに迷惑かけているのです。このことに気づくことが大事かなと。

多文化共生という意味でもです。世の中には、普通や当たり前などないのです。普通や当たり前と言っている人が世の中を悪くするのです。こういうことに気づいていくということが、とても大事だと思います。生き方というのはやはり理解だと思います。更にそれでまた現実の暮らしが変わっていくことだと思うのです。

例えば先ほどの子達がこんなことを言っていました。「先生、結局世の中に普通や当たり前なんか無いよ」と。「普通や当たり前というのが差別や不寛容の元だよ」と。「思いもしなかった出来事と出会うことは、今の私にない素敵な世界と出会えることだよ」と。だから、私が考えもしなかったことを言っている人を変なとか、おかしいと言うことは間違いなのです。自分が思いもしなかったことは私が成長するチャンスなのです。こういう理解に子供を変えていかないと。だからいじめとかもなくなっていく。いじめをいじめとして無くすのではないのです。それも大事ですが、彼らの生き方が深いところで、つまり概念的な理解が変わっていけば、ねこそぎ彼らの生き方は変わりますから。

なので、ぜひ総合的な学習・探究にお取り組みください。自分とは異なる人が私を成長させてくれることに気付く。これからは多文化共生の時代です。インクルーシブ、包摂的な社会が、とても大事になってきます。自分が立っている立場を意識することで、公正な判断ができるようになる。これからの教育が目指すのは、持続可能な社会、包摂的で公正な共生社会ということです。



OECD なんかでも言っていますが、資質・能力がゴールではないです。これは OECD の 2030 年のモデルですけど、先にお話したコンピテンシーは問題解決をする力です。その問題解決をする力を何に使うか。ここに価値・倫理があります。それは、個人と社会の Well-Being のため。私自身がよりよく生きる。私自身が自己実現する。そして社会がよりよいものになっていく。世界がよりよいものになっていく。これが Well-Being です。そのために私が私の学んだことを使う。

教育や学力のモデルが、世界的にはすっかり変わっているのです。教育の目的としての包摂的、インクルーシブ。そして持続的、サステナブルということです。日本の指導要領もそうです。これは高校の指導要領の前文にもありますが、持続可能な社会の作り手という言葉があります。ぜひ高校の先生方は校内の皆様と今一度確認をください。この前文が大事です。これは、昭和 22 年の教育基本法の「平和で民主的な国家及び社会の形成者」以来の言及です。70 年の時を経て、もちろん「平和で民主的な国家及び社会の形成者」も引き続き

大切なのです。でも、それを今日的な文脈で言い直すとするば「持続可能な社会の作り手」なのです。

さて、最後に「令和の日本型学校教育」の話を申し上げます。2021年に出た中教審答申のタイトルで、副題は「全ての児童達の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現」。これは、今回の学習指導要領を実践化する上で、もっといろいろなことを考えなければいけないということで、今後必要となる条件整備について書かれた文章です。

そんなことで令和の日本型学校教育ということを出したのですが、令和の日本型学校教育があるということは、従来の日本型学校教育があるということです。こんなふうに書かれています。「児童達の知徳体を一体で育む」。あるいは全人的な教育。これは日本はちゃんとやってきました。

でも、弱い面もあるのです。まず1つ目は、皆と同じことができる。言われたことを言われたとおりにできる。正解主義ですね。答えが決まっている学びで、これからの時代は最適解や納得解が求められますから、これでは困ると。そしてこれが面白いのですが、なぜこのようなことに日本の学校がなっているのか。我が国の経済発展を支えるために、高度経済成長期までの社会、特に経済界や産業界の要請としてそうだったのではないかと。これが決定的に重要だと思います。つまり、昭和の半ばから、日本は確かにそういう教育をしてきました。僕らも受けてきました。ですが、それは教育界が本当によいと思って行っていたわけではないのではないか、ということです。むしろ当時の産業界の要請としてやられたのではないかと。当時は、そういう人材がたしかに要請された、上質で均質な労働者が大量に必要だった。だからそういう教育をしてきたのではないかと。皆さんはどのように思いますか。今、皆と同じことができる、言われたとおりに言われたことができる人はほしいですか。企業の皆さん。違いますよね。だから、経産省の「未来の教室」だって、もっと自分

で考えて動ける子や探究できる子を育ててほしいと言っているわけですから。つまり、もう産業界、経済界は完全に人材像が変わっています。ところが教育界は変わっていないのです。未だに正解主義をやっているのです。これは変えなければ。

つまり僕ら教育界はどんな子供を育てることがよいのかを改めて考えないと。やはり惰性でやっているのです。かつてはこれで上手くいったのです。ジャパン・アズ・ナンバーワンの時代があったのです。でも、その時代に上手くいったということで、そのまま来ている。やはり考えなければ。今回の指導要領はそこを考えようという話なのです。学力論を変えようということです。コロナショックの時に、子供は学校や先生からの指示がないと、何をどうしていくか分からずに勉強しなかった。学びを止めてしまった。つまり先生が始めますよ、と言わないと学べない子供に僕らはしてきたのではないかと、という反省です。ここを変えなければいけない。自立した学習者にしなければいけない。自立した学習者は自立した生活者、自立した国民です。そういう子供を僕らは育てていかなければいけないのではないかとということです。

もう一つが同調圧力です。学校が皆で同じことを同じようにということを過度に要求する。同調圧力を感じる。これがいろいろな問題を生んでいる。いじめの問題、生きづらさ、非合理的な精神論、努力主義、詰め込み教育を生んできたのではないかと。つまり日本型学校教育にはよい面もたくさんありますが、正解主義と同調圧力という悪さをしてきたものもある。そこを乗り越えて全ての子供を自立した学習者に育てたいということです。そのために、ICTを活用しながら、自ら学習を進めていける、そういう個別最適な学び、それから僕らが伝統的にやってきた協働的な学び。これを一層充実させていこうということです。

協働的な学びの方は、日本は結構きちんと行ってきたし、高校でも皆さんいい授業をやっている

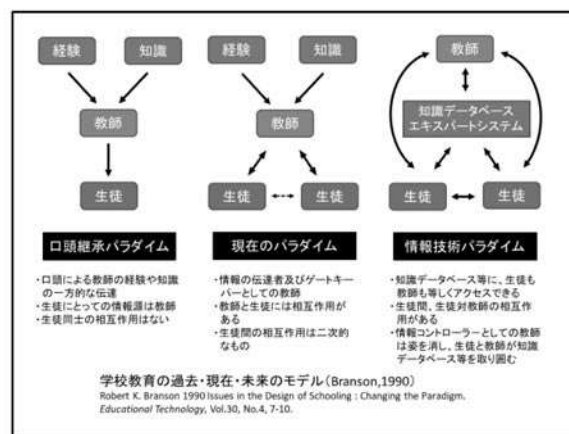
しゃいます。個別最適の方のイメージがなかなか湧かないと思いますが、高校の良い写真がなかったのですが、これは中学校の2、3年生が教科の個別の学習をやっているところです。先生は前に立ちません。課題は先生がもちろん提示しているのですが、それをどんな風に学び進めるかは、子どもたちが一人でやったり相談してやったり場所を選んでやったりする様子です。



教科書や資料集やコンピュータを使ったりしながら調べて、自分の考えをまとめてレポートを作ることは小学生でもやっています。ここはコンピュータが強いです。やはり動画が見られたり資料が見られたり。教科書と資料集だけでは正直言うと情報が足りません。だから ICT が来てから本当に出来るようになりました。面白いのは一人でやる子もいれば、仲間とやる子もいるんです。教室が良いって言う子、広い場所が良いから特別教室が良い、子供はいろいろです。これがつまり個性ってことです。

このようなモデルがあります。1990年にアメリカのブランソンという教育学の先生が書いた過去・現在・未来のモデルです。

過去のモデルというのは、本当に古い明治時代の先生が一方的に教えるやり方。これはもうありません。日本の小中高等学校では真ん中のモデルになっています。つまり先生と子どもの間に相互作用がある。子どもの同士の間にも相互作用がある。そして先生が提示したものを学ぶということです。日本だったら更に生徒と生徒の間の矢印が



ぐっと強い実線でしょう。アメリカはこれが弱いからブランソンは点線にしています。日本の授業の方がもっと活性化しています。高校の授業だってもっと子どもたちと一緒にいろいろやりながら学んでいます。でも問題は上半分です。いくら子供達が活動的にやっても最初に先生が「始めますよ。今日はこれをやりますよ。これについて考えてみよう」。イニシアチブは全部先生が握っている。どんなに活動的で子供主体の授業でも。ブランソンはここを変えたいと考えました。

一番右のモデルが未来のモデルです。1990年の未来ですからもう来てなくてはいけませんが、情報技術パラダイムといいます。ICTが普及して一人一台のコンピュータが来て、これがインターネットと繋がって、子どもたちが取りたい情報をいつでも自分のタイミングや都合でどんどん取れるようになる。すると先生が「始めますよ。これを考えてみましょう、先生が説明しますよ」と言う必要がないのではないかと。さっき申し上げたように、昔は先生が説明しないと子供は何一つ学べなかったのです。学べなかったから先生が教えたのです。でも、今はコンピュータを使って、3分の動画を観ることで子供は結構学べるのです。だったら3分の動画を子供達が観たいタイミングで観たいように観ればどうかという話です。これが右側のモデルです。つまり子供達が直接的に知識や経験にアクセスする。先生も子供と同列の位置に居て、子供と一緒に学ぶのです。もちろん、先生は必要な支援をしますし、時にはしっかりと

教えもします。でも、従来のように四六時中教えてはいないわけです。

子供達は自分が今考えたいことや、課題があるにしても自分のペース、自分のタイミング、自分のやり方でやるのです。これが実現されるためにパラダイムを変える必要があるのです。つまり授業のモデルを変える。日本の先生は子どもの問いを大切にしています。でも子供の問いを大切にする時もこうじゃないですか。「今の皆さんの議論を聞いていると、こういう問いが成り立ちそうですね。このことをこのあと問いにして、みんなで考えてみましょう。」たしかに子供が出したものだけど、必ず先生を経由して、先生の問いとしてもう一度黒板に書いてからやる。子供がこのことが不思議だな、これを調べてみようかなと思って、いきなり調べてみることはあまりなかった。これを変えたらどうですか。全部変えなくていい。多くは真ん中でいいです。ただ少しずつ右側のような学びの場面を作っていこうというのが一つの提案です。これをするためには一人一台の端末と高速大容量のネットワークが必要です。それが出来るようになってきたのです。逆に言えばそういう環境が無かったから、僕は情報を提供してきたのです。僕らが整理した情報を僕らが提供してきた。でも、ついに変わります。一生涯子供達は手元にスマートフォンがある環境で生きていくのです。授業のモデルを変える必要があります。



ICTだけでなく、環境による教育
(学習環境整備)も同じ原理

これを未来の教育だとブランソンは言いますが、実は違います。幼稚園は既にこれです。普通の幼

稚園では、はさみもセロテープも毛糸も折り紙もいつでも準備されていて、私が使いたいときには私が使いたいだけいつでも使えるようになっていきます。これはさっきのブランソンの右のモデルと同じです。子どもは幼稚園までこの状況に居ます。ところが小学校に上がった途端、手はお膝、口チャック。「今日のはさみを使います、先生がはさみを配ります、1班の人だけ前に取りにいらっしゃい。」お願いだから止めましょう。高校でも先生がプリントを配っていますが、何をしているのだろうと思います。先生の都合で先生のタイミングでプリントを配るのですか。何で子供のタイミングでプリントを取れないのですか。

中学で単元分のプリントを全部いきなり最初に渡すことをやっています。それだけで変わります。3時間目のプリントも1時間目にもらう。すると、3時間目にこんなことをやるのだなと見通しをもって1時間目の勉強をします。大事なことはモデルを変えることです。子供と先生、知識と経験の関係を変える。すると子供は主体的になります。

現状では、いつも先生に聞かなきゃいけない。「先生やっていいですか。」「先生次は何をしますのですか。」「何でそんなに先生に聞くのですか。」「もっと自分で考えなさい。」「指示待ち人間ではいけません。」そう先生は言いますが、先生の指示がないとやっていけないルールになっています。そこを変えましょう。先生の預かり知らぬところでどんどんやっていくことにしましょう。難しくありません。幼稚園はやれています。小学校以降も同じことにすればいいのです。

環境を整備するのが教師の仕事です。子供達がいつでも使えるようにするのはです。どんどん子供に開放して、子供の都合とタイミングで情報にアクセスできるようにしてあげれば変わります。理科の授業も変わっていきます。子供達の都合とタイミングで実験や観察の道具を使うのです。自分たちのペースとタイミングでやらせてあげれば良いではないですか。そのほうが絶対に出来るよう

になるし理科好きになります。もちろん少し仕組みは必要です。幼稚園とは違って、小学校以降はこの内容をこの時間でやってほしいっていうことがあります。これをちゃんと情報開示しなければいけません。単元の指導計画を子どもに渡せば子どもはできます。ただプリントを渡しただけではダメです。プリントが位置づいている先生の授業構想なり文脈の情報を渡してあげないといけない。8時間の学びの筋道を渡してあげないと。たとえば、旅行に行く時に旅程表や地図を渡せというだけです。今までの授業は、旅程表も渡さずに僕は子供をバスに乗せていたということです。それでは主体的になるのは無理です。ガイドブックと地図と旅程表を渡してから、どうしようかって言いましょうということです。それをしないから「先生次は何をするのですか」って聞いてくるんです。主体的にならない。

最後にこんなことを考えましょう。令和答申の中で最後の高校改革のところではいろんなことが書かれていますけど、一番大きいのは普通科の改革です。普通科の弾力化・大綱化です。普通科高校の特色を活かしてやっていくということですけど、例示として二つ出ています。現代的な諸課題のうち、SDGsの実現や、Society5.0ということを見据えてやっていこうということ。もう一つは地域創生です。この二つなのです。さっき言った総合の社会課題の二つなのです。つまり子供達が今の現実生活を見つめ、自分を見つめたときにやはり目の前に迫ってくる二つの大きな取り組むべき課題なのです。これを一つ足場にして普通科高校のカリキュラムや学力論とか子どもの育ちというのを考えたらどうか。そして大事なことはこれと教科を結ぶってことかと思ひます。いろいろやって下さいということです。

最後にですけど、今高校にスクールミッションやスクールポリシーというのをきちんと作ろうというのも大事なことです。一体うちの学校は何を目指すのかってことを、もっとはっきりして

いく。これはぜひ打ち出していいただきたい。ただ実効性のあるものにしましょう。お題目にしてはいけません。つまりスクールポリシー、スクールミッションは、校長先生を中心にみんなで話しあってお決めになると思いますけど、それが先生方にとって毎日の授業とか子供との関わりの中で常に頭をかすめているかということ。かすめていなければ実効性がありません。子供達もスクールポリシーやスクールミッションのことを考えながら動けるようなものにしましょう。これが大事だと思います。従来の学校教育目標単なるはスローガンになっていた。だから使っていなかった。



これは国際バカロレアの10の学習者像ですけど、結構実効性があります。大泉の付属とかはこれをやっていますけど、先生方は毎日授業を、この10の学習者像を考えながらやっている。生徒も考えながらやっている。是非、実効性のある目標にして学校の活性化に繋げていきたいと思ひます。

すみません、長くなりました。一旦終わっていろいろとご質問いただければと思ひます
(以下、質疑応答。省略)

令和 4 年度 東京都産業教育振興会後援事業

令和 4 年度は、下記の事業に対し後援を行いました。

番号	事業の名称	開催期間	主催	開催場所
1	令和 4 年度全国高等学校水産教育研究会 関東・東海地区研究協議会	令和 4 年 6 月 14 日	全国高等学校水産教育研究会(関東・東海地区)	東京都立大島海洋国際高等学校
2	令和 4 年度東日本高等学校土木教育研究会 関東地区総会・研究協議会	令和 4 年 6 月 10 日	日本高等学校土木教育研究会関東地区	工業教育会館
3	第 64 回全国自動車教育研究大会	令和 4 年 10 月 20 ～ 21 日	全国自動車教育研究会	セミナーハウス「クロス・ウェーブ府中」
4	第 38 回葛飾区産業フェア	工業展・商業展・観光展 令和 4 年 10 月 14 ～ 16 日 農業展・伝統産業展 令和 4 年 10 月 21 ～ 23 日	葛飾区	テクノプラザかつしか 東京都城東地域中小企業振興センター
5	令和 4 年度全国専門学科「情報科」研究協議会	令和 4 年 8 月 22 ～ 23 日	全国専門学科情報科高等学校長協会	東京都立新宿山吹高等学校
6	第 29 回東京都高等学校工業科生徒研究成果発表会	令和 4 年 11 月 19 日	東京都立工業高等学校校長会	東京都立練馬工業高等学校けやきホール
7	第 19 回中学生創造ものづくり教育フェア in Tokyo	令和 4 年 11 月 3 日 令和 4 年 11 月 12 ～ 13 日	東京都中学校技術・家庭科研究会	板橋区立加賀中学校 世田谷区立深沢中学校
8	第 10 回東京都立総合学科高等学校教育活動成果発表会	令和 4 年 12 月 17 日	東京都高等学校総合学科教育研究会	東京都立世田谷総合高等学校
9	第 49 回関東地区工業高等学校研究協議会	令和 4 年 11 月 24 日	関東地区工業高等学校校長会	専門学校東京テクニカルカレッジ
10	第 22 回全国中学生創造ものづくり教育フェア	令和 5 年 1 月 28 ～ 29 日	全日本中学校技術・家庭科研究会	中央区総合スポーツセンター

令和 4 年度 東京都産業教育振興会 教育功労者表彰

令和 4 年度公益財団法人産業教育振興中央会実施の「御下賜金記念産業教育功労者」及び本会実施の「中学校技術・家庭科教育功労者」「専修学校・短期大学産業教育功労者」に対する表彰式を令和 4 年 11 月 10 日（木）に全商会館 3 階中会議室で挙行了しました。

表彰式では、本会西澤宏繁会長から功労者に表彰状と記念品が手渡されました。西澤会長の祝辞に続いて、東京都教育委員会を代表して吉田直子都立学校教育部高等学校教育課ものづくり教育推進担当課長が祝辞を述べました。続いて御来賓の公益財団法人産業教育振興中央会専務理事岩井宏様、東京都公立高等学校長協会副会長守屋文俊様、東京都中学校長会会長山田茂様（代読）から御祝辞をいただきました。祝辞を受け、受賞者を代表して東京都立農芸高等学校小堀卓二校長が謝辞を述べました。

今回の受賞者は次の方々です（順不同・敬称略）



I 御下賜金記念産業教育功労者（32 名）

東京都立園芸高等学校
 東京都立園芸高等学校
 東京都立農芸高等学校
 東京都立農産高等学校
 東京都立中野工業高等学校
 東京都立練馬工業高等学校
 東京都立北豊島工業高等学校
 東京都立北豊島工業高等学校
 東京都立北豊島工業高等学校
 東京都立蔵前工業高等学校
 東京都立足立工業高等学校
 東京都立足立工業高等学校
 東京都立葛西工業高等学校
 東京都立葛西工業高等学校
 東京都立葛西工業高等学校

校 長	並 川 直 人
専修実習助手	片 柳 莊 志
校 長	小 堀 卓 二
主 任 教 諭	荒 畑 直 希
主 任 教 諭	小 口 昭 仁
主 任 教 諭	佐 藤 浩 久
校 長	中 里 真 一
副 校 長	猪 瀬 高 宏
主 任 教 諭	栗 股 三 郎
主 任 教 諭	平 出 治 久
主 幹 教 諭	金 子 淳 一
主 幹 教 諭	甲 斐 和 之
主 幹 教 諭	庄 司 真
主 任 教 諭	大 三 宗 康
主 任 教 諭	昆 秀 行
教 諭	友 部 大

東京都立町田工業高等学校	主 幹 教 諭	滑 川 綾 治
東京都立府中工業高等学校	主 任 教 諭	石 井 努
東京都立府中工業高等学校	主 任 教 諭	皆 川 正 志
東京都立芝商業高等学校	校 長	大 林 誠
東京都立第四商業高等学校	主 幹 教 諭	齊 藤 正 生
東京都立江東商業高等学校	校 長	岡 本 裕 之
東京都立江東商業高等学校	副 校 長	藤 田 直 美
東京都立第三商業高等学校	主 幹 教 諭	新 堀 政 弘
東京都立第三商業高等学校	主 任 教 諭	田 中 裕 史
東京都立橘高等学校	主 幹 教 諭	富 岡 教 之
東京都立橘高等学校	主 任 教 諭	柚 木 治 夫
東京都立つばさ総合高等学校	主 幹 教 諭	田 村 祥 子
東京都立王子総合高等学校	主 幹 教 諭	稲 村 順 一
東京都立王子総合高等学校	主 幹 教 諭	松 嶋 裕
東京都立産業技術高等専門学校	教 授	上 島 光 浩
東京都立産業技術高等専門学校	教 授	源 雅 彦

Ⅱ 中学校技術・家庭科教育功労者（9 名）

港区立三田中学校	校 長	上 原 良 枝
台東区立浅草中学校	校 長	瀬 川 眞 也
品川区立戸越台中学校	主 任 教 諭	原 郁 子
大田区立大森第七中学校	校 長	増 元 啓 彰
世田谷区立松沢中学校	校 長	山 村 恵 子
世田谷区立玉川中学校	校 長	奥 平 雄 二
練馬区立開進第二中学校	主 任 教 諭	柳 澤 恭 子
小金井市立小金井第二中学校	校 長	川 井 まさよ
武蔵村山市立小中一貫校村山学園		
武蔵村山市立第二中学校	統 括 校 長	井 内 潔

Ⅲ 専修学校・短期大学産業教育功労者（1 名）

東京家政大学短期大学部	教 授	土 屋 京 子
-------------	-----	---------

令和4年度 産学懇談会（第1回）

令和4年7月8日（金）14:00～17:00
東京都立橋高等学校

令和4年度産学懇談会（第1回）は、東京都立橋高等学校を会場に、令和4年7月8日（金）午後2時から午後5時分まで開催しました。今回は、新型コロナウイルス感染防止の観点から前半の施設見学を対面開催で行い、後半の懇談会を対面開催とオンライン開催を併用したハイブリッド開催で行いました。

参加者は、会場校教職員、本会の役員、企画推進委員、企業会員、学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等合わせて27名でした。



陶芸の作品



■施設見学

○施設見学に先立って、本会の西澤宏繁会長、会場校の深澤栄次校長から御挨拶がありました。

○続いて、主に伝統工芸に関する施設設備の見学をさせていただきました。各実習室には全日制課程・定時制課程の先生方が待機されており、丁寧な説明をしていただきました。



ガラス工芸の教室



染色の作品・「金魚ねぶた」



彫金の作品

■懇談会

○はじめに、深澤栄次校長から学校の概要を説明していただきました。

1 都立橋高等学校の概要

・都立橋高等学校（以下、橋高校）は、都立向島商業高等学校と都立向島工業高等学校を発展的に



統合し、平成 19 年 4 月に開校した「産業科高校」という新しいタイプの専門高校である。

- ・橘高校は、生産から流通、消費に至るまでの過程全般を学ぶことにより、産業界全体を見渡せる力を身に付け、広い視野をもった将来の起業家や自営業の後継者の育成を目指している。
- ・全日制課程 18 学級、定時制課程 5 学級を設置している。
- ・産業科の教育内容は、従来の工業・商業という枠を超えた「幅広い専門的な学び」となっており、ものづくり（工業系）、ビジネス（商業系）、IT（情報系）の 3 分野を総合的に学ばせている。
- ・本年度から「伝統工芸教育推進校」として、陶芸、ガラス工芸、彫金（ジュエリー）、染色、木工などの伝統工芸教育を推進している。

○次に、授業の様子動画を 4 本視聴させていただきました。



陶芸の実習風景（動画）

○意見交換

学校の説明の後、参加者から質問や意見が出されました。

- ・伝統ある工業高校と比較すると物足りなさを感じ

じる。もっと専門性を追求すべきではないか。（産業界）

・教えようとしていることは素晴らしいが、目指している内容を習得させるには 5 年は必要ではないか。（産業界）

・産業科の教育を充実させるためには、ヒト・モノ・カネが必要である。教育委員会はもっと支援すべきである。（産業界）

・産業科は従来の工業工業高校とは単純に比較できない。むしろ、生産から流通、消費に至るまでの過程全般を総合的に学ぶ「新しい学び」を提供しているのではないか。（高校）

・今の時代は学校の個性が大事であり、こういう新しいタイプの専門高校はますます必要であると思う。（専修学校）

・ものづくり分野では伝統工芸教育に取り組むなど、さらなる学校の特色化に取り組んでいることが参考になった。（高校）

■参加者のアンケートから

・実際の現場を肌で感じることができ、大変貴重な経験をさせていただきました。（産業界）

・校長先生をはじめ御案内をいただいた先生方の対応が非常によかった。（産業界）

・地場産業と密着した、ものづくりから流通までを学習する橘高校の様子を学ぶことができ、大変にありがたく思っています。（高校）

・産業高校として、さらに充実させていくための学校の努力がよく分かった。（その他）

・企業の方々の生の想いを聞くことができ参考になりました。（行政）

・即戦力を期待する産業界と卒業後の幅広い進路対応を考える教育界とのギャップを感じた。（高校）

・現場の先生方が熱心かつ丁寧に説明され、産業科の特色がよく理解できた。また伝統工芸教育の今後の進展に期待を感じた。（その他）

・開校して 10 年になるが、橘高校の存在を中学校や都民にもっと PR する必要がある。（高校）

○コロナ禍での開催に当たり、都立橘高等学校の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。（事務局）

令和 4 年度 産学懇談会（第 2 回）

令和 4 年 9 月 27 日（火）14:00～17:00

東京都立府中工業高等学校

令和 4 年度産学懇談会（第 2 回）は、東京都立府中工業高等学校を会場に、令和 4 年 9 月 27 日（火）午後 2 時から午後 5 時まで、対面形式で開催しました。

参加者は、本会の役員、企画推進委員、企業会員、学校会員、教育庁指導部・都立学校教育委員、むさし府中商工会議所職員、府中市教育委員会職員等 44 名でした。

○はじめに、本会の西澤宏繁会長、会場校の鈴木誠校長から御挨拶があり、次に東京都教育委員会を代表して吉田直子ものづくり教育推進担当課長から御挨拶をいただきました。

○学校見学

続いて、2 班に分かれて施設・授業見学を行いました。



○懇談会

1 本校の概要

- ・はじめに、鈴木校長から学校の概要について説明していただきました。
- ・昭和 38 年 4 月 1 日に開校し、今年創立 60 周年を迎えた全日制課程の工業高校です。
- ・設置学科は機械科(1 学級)、工業技術科(1 学級)、情報技術科(1 学級)、電気科(2 学級)の 4 学科で、全校生徒数は 506 名です。
- ・3 つの人材育成を目指します。
 - ①レジリエンス：勤労観と責任感をもち、しなやかな感性のある技能者
 - ②シンシリティー：互いの人格を尊重し、規範意識や真心をもった技能者
 - ③エキスパート：柔軟な発想で、社会の発展に貢献できる有意な技能者
- ・資格取得者数は都内工業高校で No.1 です。
- ・就職内定率は 10 年連続 100%です。

2 特色ある教育活動等

(1) 学習評価の取組

- ・清水聖佳主任教諭から、学習評価の取組について報告していただきました。
- ・今年度からすべての教科等において、3 観点(「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」)を等しく 3 段階の到達度(A・B・C)で評価しています。

<本校各教科の評価取組例>

「思考・判断・表現」・・・

論述、レポート、プレゼンテーション、
調べ学習、作品、作業態度

「主体的に学習に取り組む態度」・・・

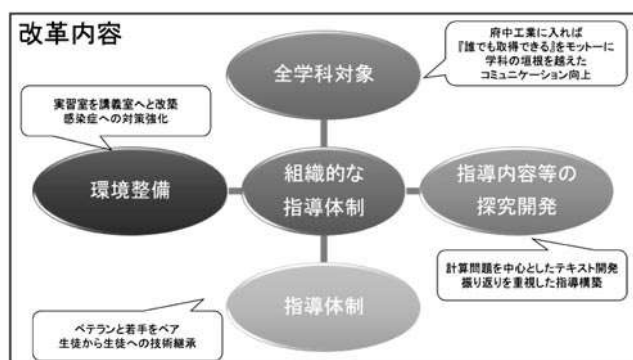
提出物、振り返りシートによる自己評価、
グループ学習の協働力、作品、作業態度、
実技での取組態度

- ・この取組により、従来のペーパーテスト重視から多面的な評価に変わりました。

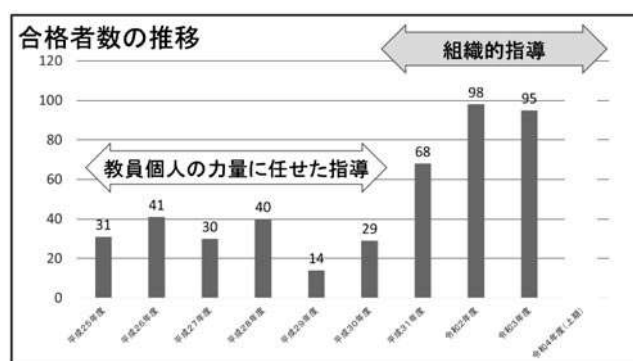
- ・評価方法の変更により、授業が変わり、より一層アクティブラーニング化しました。
- ・産業構造の変化が激しい社会において活躍できる人材育成を目指します。

(2) 資格取得への取組

- ・鈴木尋基主任教諭から、電気工事士の資格取得に向けた取組について報告していただきました。



- ・教員個人の力量に任せた指導から組織的な指導に改革した結果合格者数が大幅に増えました。



- ・学科・学年の壁を越えた生徒間の友情や生徒と教員との信頼関係が生まれています。

(3) 「Tokyo P-TECH」の取組

- ・下山和弘主幹教諭から、今年度から始まった「Tokyo P-TECH」の取組について報告していただきました。

これからの時代を生き抜くために...

「Tokyo P-TECH」

企業・専門学校と連携して、変化の激しいこれからの社会に必要な力を身に付けていきます。

※ P-TECHは、「Pathways in Technology Early College High Schools」の略称であり、STEM、職業教育、技術教育に焦点を当て、企業が幅広く参加する教育モデルとして世界24か国で展開されています。

- ・今年度は株式会社セールスフォース・ジャパン、一般社団法人東京都情報産業協会にパートナー企業となっていていただきます。
- ・今年度はIT企業講話を3回実施します。
- ・今後はIT講話等、資格取得(ITパスポート等)、メンタリング等に取り組んでいきます。

3 意見交換他

- ・続いて、参加者全員の自己紹介と意見交換を行いました。最後に、金子昌男副会長が謝辞を述べました。



○参加者のアンケートから

- ・安全管理、道具・工具の管理、横や縦の教え合いなど中学校技術科でも参考になることが多く、大変勉強になりました。(中学校)
 - ・生徒の主体的に学ぶ姿が沢山見られた。授業指導力や環境整備は参考にさせていただきます。(中学校)
 - ・高校生が一所懸命に授業に取り組んでいる様子が印象的でした。工業高校の実態がよく分かりました。(中学校)
 - ・府中工業の取組は非常に参考になった。同じ高校教育の現場を見学できたことは大変ありがたかったです。(高校)
 - ・リアルでの開催は学びや気づきが多いです。もっと専門高校は評価されて良いと思う。(専修学校)
 - ・新しい型の工業高校の姿を見ることができました。組織的な指導を実施していることはすばらしいと思いました。(行政)
- コロナ禍での開催でしたが、都立府中工業高等学校の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。(事務局)

令和4年度 産学懇談会（第3回）

令和4年12月2日（金）13:30～17:00

読売理工医療福祉専門学校



令和4年度産学懇談会（第3回）は、読売理工医療福祉専門学校を会場に、令和4年12月2日（金）午後2時から午後5時まで、対面形式で開催しました。

参加者は、本会の役員、企画推進委員、企業会員、学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員、会場校教職員等32名でした。

○はじめに、本会の西澤宏繁会長、会場校の水落清治校長から御挨拶がありました。



水落清治校長

○学校見学

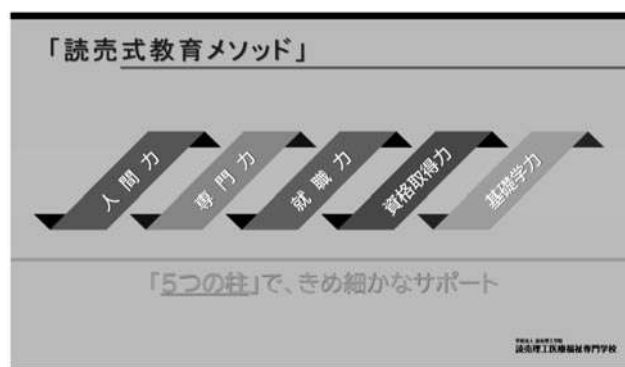
続いて、2班に分かれて授業見学・施設見学を行いました。

○懇談会

1 学校紹介

（1）本校の概要

- ・はじめに、水落清治校長から学校の概要について説明していただきました。
- ・読売グループの学校で、1970年に開校し、2020年4月、港区芝から現在の文京区小石川に移転した。
- ・現在、テレビディレクター学科、放送映像学科、クロスメディア情報学科、建築学科（昼間部）、建築科（夜間部）、電気電子学科、介護福祉学科、臨床工学科の8つの学科があり、560名の学生が学んでいる。
- ・常勤教職員は60名、非常勤講師を含むと180名程になる。
- ・23階建てビル「文京ガーデンゲートタワー」の1階から5階が本校となっている。
- ・教室数は全34室で、一般教室17、実習室11、製図室2、パソコン室2、放送スタジオ2。このほか、教員室、事務室、図書室、自習室、学生ラウンジ、就職相談室、留学生交換ルーム、カウンセリング室などがある。
- ・読売育英奨学生制度があり、2022年度は59名の読売育英奨学生が在籍している。
- ・各学科とも読売式教育メソッドの①人間力、②専門力、③就職力、④資格取得力、⑤基礎学力の5つの柱で学生をきめ細かくサポートしている。





テレビディレクター学科



放送映像学科



臨床工学科

(2) 各学科の紹介

続いて、テレビディレクター学科、放送映像学科、クロスメディア情報学科、建築系学科、電気電子学科、介護福祉学科、臨床工学科の学科長から各学科の特徴、授業内容、卒業後の進路等について説明していただきました。

2 意見交換

(1) 授業見学・施設見学の感想

- ・テレビディレクター学科や臨床工学科などの新しい分野の学科を知ることができ、とても参考になった。(高校)

- ・中学で技術科の担当をしている。情報の分野の学科について興味深く見学させていただいた。(中学校)

(2) 専修学校教育の現状と課題

- ・産学連携で次世代の人材育成と業界の魅力を若者に伝えていくことが課題である。(専修学校)

- ・専門学校の実情や社会からの要求度など、様々な事を知る機会をいただき、とてもありがたかった。(中学校)

(3) 高等学校と専修学校の連携（高専連携）

- ・高校2年生約130名が8校の専門学校を訪問した事例を紹介した。(事務局)

- ・職業を考えさせる際に、専修学校の方に来校していただき最新の話をしていただいている。(高校)

(4) アンケートから

- ・読売育英奨学生制度や学び直しの制度など、素晴らしい制度を取り入れて多様な学びを提供していると思った。(その他)

3 謝辞

最後に本会副会長の岡本裕之都立江東商業高等学校長が謝辞を述べました。



懇談会の様子

○コロナ禍での開催でしたが、読売理工医療福祉専門学校の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。(事務局)

令和4年度 第33回東京都産業教育振興会作文コンクール

(1) 入選者一覧

令和4年度の応募作品数は、「中学校の部」が24校130作品、「高等学校・専修学校等の部」で高等学校が18校129作品、専修学校が2校13作品で、全体では44校272作品でした。昨年度（令和3年度）よりも全体で59作品増加となり、コロナ禍以前の応募数に回復しました。作品の内容からも、コロナ禍で中止していた就業体験やインターンシップ等が再開されつつある様子がうかがえました。

それぞれの部の選考委員による第一次選考及び第二次選考を経て、「中学校の部」では20作品（最優秀賞1、優秀賞3、佳作16）、「高等学校・専修学校等の部」では高等学校が20作品（最優秀賞1、優秀賞2、佳作17）、専修学校が2作品（最優秀賞1、優秀賞1）、合計で42作品を入選作品として決定しました。

また、「イラストの部」には18作品の応募があり、3作品（最優秀賞1、優秀賞2）を入選作品として決定しました。

令和4年度の入選作品は、以下のとおりです。

中学校の部

最優秀賞	仕事にける思い	墨田区立両国中学校	1年	塚本笑里
優秀賞	謙虚な姿勢	中央区立銀座中学校	3年	渡辺妃那
優秀賞	海外派遣事業に参加して	墨田区立両国中学校	2年	宮崎夏美
優秀賞	失敗から学んだ「ものづくり」の喜び	町田市立真光寺中学校	3年	春山魁志
佳作	夢と父の存在	中央区立銀座中学校	3年	植松心音
佳作	サッカーと夢と仕事	中央区立銀座中学校	3年	齋藤優輝
佳作	未来のための一挙両得	中央区立晴海中学校	3年	秩父こなつ
佳作	技術を学んで	中央区立佃中学校	3年	西脇琉凧
佳作	みんなの笑顔	中央区立佃中学校	3年	平澤美宝
佳作	新たな学び	新宿区立西早稲田中学校	3年	篠原暖
佳作	プログラミングとその学習の重要性	新宿区立西早稲田中学校	3年	内藤義人
佳作	憧れた未来	新宿区立新宿西戸山中学校	3年	笹又美椿
佳作	未来へ一歩	墨田区立両国中学校	2年	庭山絢
佳作	ものづくりのやりがい	墨田区立両国中学校	2年	花井優太
佳作	つくることから生まれる喜び	大田区立大森第六中学校	2年	宇都野璃子
佳作	夢と思い出をくれた職場体験	杉並区立高南中学校	2年	小島夏音
佳作	ボランティアから学んだ「仕事」というもの	北区立稲付中学校	3年	三澤双葉
佳作	プログラミング学習から得たもの	荒川区立尾久八幡中学校	3年	山下千加良
佳作	憧れが放つ輝き	調布市立第八中学校	3年	野口蓮香
佳作	将来の夢	愛国中学校	3年	野口桜

高等学校の部

最優秀賞	技術を持った養豚家を目指して	東京都立瑞穂農芸高等学校	3年	松井幸生
優秀賞	真の持続型農業	東京都立園芸高等学校	2年	小林陽菜
優秀賞	伊豆大島の香り	東京都立大島高等学校	3年	雨宮雛恵美
佳作	植物に触れて感じたこと	東京都立園芸高等学校	2年	葛西花
佳作	大気汚染対策「マイ植樹帯制度」	東京都立園芸高等学校	2年	田島美優
佳作	郷土料理を守り続けるために	東京都立農芸高等学校	2年	川口紘花
佳作	これからの農業	東京都立農芸高等学校	2年	玉置藍
佳作	私の進路、将来の夢	東京都立農産高等学校	3年	磯山あづ美
佳作	園芸を通してもっと住みやすい社会に	東京都立農産高等学校	1年	菊池愛利
佳作	着たい服が着られるように	東京都立農業高等学校	2年	杉崎結愛
佳作	つくることの喜び・ものづくりの喜び	東京都立瑞穂農芸高等学校	3年	鈴木小夏
佳作	食の未来を支える	東京都立瑞穂農芸高等学校	3年	村田彩羽
佳作	働くことの喜び	東京都立葛西工業高等学校	2年	水貝颯
佳作	夢を見つけることが出来た	東京都立葛飾商業高等学校	3年	竹下由姫奈
佳作	私が実習で学んだこと	愛国高等学校	3年	石丸莉菜
佳作	私の夢	愛国高等学校	3年	中村柚香
佳作	看護師を目指して	愛国高等学校	2年	酒井彩名
佳作	高校生活半分を経て見据える未来	岩倉高等学校	2年	桜庭翼
佳作	冒険の始まり	京華商業高等学校	2年	浅古采碧
佳作	私が描く将来への道	国際共立学園高等専修学校	1年	川井月那

専修学校の部

最優秀賞	父の背中が教えてくれた「働く意味」	青山製図専門学校	1年	後藤祐杏
優秀賞	専門学校での学び	青山製図専門学校	1年	齋藤優介

イラストの部

最優秀賞		東京都立晴海総合高等学校	1年	兜心響
優秀賞		東京都立晴海総合高等学校	1年	山田奈々実
優秀賞		東京都立府中西高等学校	1年	永良紫織

来年度（令和4年度）も作文コンクールを実施しますので、生徒及び学生の皆さんからたくさんのお応募があることを期待しています。

(2) 最優秀作文

中学校の部 最優秀賞

仕事にかける思い

墨田区立両国中学校 1年 塚本 笑里

私は夏休み、外出自粛で家にこもる日々が続いていた。だから、夏休みは思い出に残る事をしたくて、ジュニアレポーターに応募した。転校してきて墨田区を知る機会も少なかったから、ジュニアレポーターで墨田区を知って、学びたい。この思いが届いたのか、ジュニアレポーターの一人に、私は選ばれることができた。

初日、私は気を引き締めて区役所に向かった。指定の部屋に着いたが、やっぱり緊張してしまう。他の人も緊張しているのか、表情が硬い。一人、一人と人数が増えていき、全員が揃った。最初は自己紹介をした。あみだくじで決め、私から話すことになってしまった。人前で話すのが苦手な私は、焦って囁んだり早口になってしまうことが多かったが、みんなが話していくうちに、空気が和らいでいくのを感じた。その後は簡単なゲームをして休憩を挟み、段々みんなの口数も増えてきた。

本題に入り、それぞれ調べて決めてきたテーマを発表し、二つのチームに分かれてテーマを絞ることになった。私達のチームは真剣に議論した結果、「すみだの産業」に、残った時間で決めたチーム名は「チームクラフト」になった。これからチームのみんなと活動していくのが、少し不安でもあったが、同時に私は、とても楽しみだった。

ジュニアレポーター第二回。今日は初めての取材だ。残念な事に一人休んでしまったが、経験者のチームメイトと共に、取材先の会社に向かう。この会社は一九四四年創業の老舗で、看板商品の如雨露（じょうろ）は海外の園芸家にも人気がある。チームメイトはカメラ役、私はインタビュー役で取材に挑むことになった。

取材先に着いた。私が思っていた工場とは違い、住宅街の中にひっそりと佇む町工場のような感じで、墨田区は町工場がとても多いことを実感した。中に入ると、三代目の社長さんが出迎えてくださり、如雨露作りに対する思いを熱く語ってもらった。

「昨日の自分より更に速く、質の良い如雨露を作りたい。」

昨日の自分をライバルにして、より如雨露作りを極めたいと、向上心を持つことが大切だという。墨田区の他の企業と協力して展覧会を開いたり、日本の世界に共通する技術をもっと世界に知ってもらおうと、励む姿には感心した。空き缶如雨露作り体験では、初めてはんだ付けを体験した。まず取っ手を曲げ、次に空き缶に穴を開けて、それぞれのパーツを取り付ける。その後は研磨材で磨き、完成と、少し手間がかかる如雨露作り。少々不恰好な出来にはなったものの、社長さんのサポートのおかげで、しっかり如雨露として機能している完成品になった。間近で職人の技を見ることができて、とても貴重な体験だった。

家に帰った後は、課題の原稿に取り掛かることにした。長く愛される秘訣や、職人魂についてを工夫して書きとめ、社長さんの思いをそのまま表せるように努力した。その後、メールで文章を送信し、気づけばすぐ、一週間後の次の取材先の日になっていた。

ジュニアレポーター第三回目。今日は、最後の取材の日。幸い三人揃い、ようやくチームで取材できることに。カメラの撮影の仕方も練習し、準備万端。三人で取材をすることが楽しみで楽しみで、気持ちが落ち着かない。今日の取材先は、前回の会社とは違い、大きな工場で製品を作っている会社だ。二

つの企業の違いを是非、比べてみたい。私は前回の会社と比べて見て、取材することにした。

今回の会社は、ボディケアやスキンケア製品を製造する会社で、たくさん油を使用する製品が多い。工場に入った時、トラックに何個も積まれたタンクを見た。実際に石けんを作っているところでは、社員の人達が手を取り合い、一生懸命働いていて、さらに釜場という油を高温で溶かして、純粋な成分だけを取り除く場所では、釜が約八十度もあってとても熱いのに、嫌そうな顔一つ見せず、真剣に釜の中をかき混ぜていた。このように、社員達が真面目にコツコツ仕事に取り組んでいるのは、会社の方針が関係しているのだという。「物づくりは人づくり」、入社の説明の時も、あいさつ、整理整頓、話を聞く態度と、コミュニケーションに関することが二つも入っていて、人の内面を大事にしていることがわかる。この会社は、社員の温かい心があるからこそ、気持ちのこもった製品になるのかもしれない。

私はジュニアレポーターの活動を通して、夏休みを有意義なものに変えることができた。墨田区を学べ、取材をする時のメモや文章力が上がったのもそうだが、誰かと協力して、一面の記事を作り上げるのがとても楽しく、思い出に残ることだったから、という理由もある。そして、様々な職人さん達の仕事にける熱い思いが、とても眩しいものだったからだ。自分をライバルに、毎日仕事に励む一つめの会社や、温かい心を持って製品を作る二つめの会社は、私の人生観を変えてくれた。私も将来、働いてお金を稼ぎ、生活していく。でもその時の仕事は、自分がその仕事に誇りに思い、熱意や愛を持ってずっと働き続けられるような、そんな仕事に就きたい。

高等学校の部 最優秀賞

技術を持った養豚家を目指して

東京都立瑞穂農芸高等学校 3年 松井 幸生

私は中学生の時勉強が嫌いで、勉強ばかりする普通科の高校よりも実習が多い農業高校に興味を持ちました。そんな時、インターネットを見ていると養豚場の動画が出てきました。動画では「狭いところで一生を終える豚はかわいそうではないですか。そんなところで育ったお肉を食べたいですか。」といった内容でした。私はそれまで動物のことは知っていても、家畜のことはあまり考えたことはありませんでした。寝返りも打てないような狭い空間で一生を終えるのはかわいそうだと思うけれど、本当にそんなひどい扱いを養豚農家の人たちはしているのだろうかという疑問に思い、畜産科学科に入学しました。動物について学んでいく中で、豚に興味を持つようになり、養豚類型を選択し豚肉を生産するための様々な知識や技術を学びました。そして、三年生となり卒業後は高校で学んだ動物の分野についてもう少し学んで、将来は動物に携わる仕事に就職しようと考えました。自宅で飼っていたウサギが病気で死んでしまったとき、何もできずにただ死んでいくのを眺めていることしかできなかったことを思い出しました。そこで、そのような動物を助ける動物看護師になろうと考えるようになりました。しかし、高校で学んだ養豚にも興味はあり、養豚か動物看護師か迷っていた時、先生から「現場を見て本当の仕事を体験した方が将来についてもっと真剣に、具体的に考えられるようになると思う。養豚場にインターンシップに行ってみたら？」と言われました。それまで色々と迷っていた自分が本当にその世界でやっていけるのか確かめることができると考え、インターンシップに行くことを決めました。

夏休みに先生から紹介していただいた養豚場へ一週間のインターンシップに参加しました。初めての養豚場は、普段見慣れている学校の豚舎とは様々な違いがありました。まずはその生活リズム。朝五時に起床して五時半から八時半まで朝の管理として主に豚への給餌や飼料の混合と調整をします。学校と飼育する数も違うため、この作業だけでも大変な量です。そして、朝食をとって少し休憩をしたらまた作業を再開します。子豚の去勢などの処置を行います。子豚の数もちろん学校とは比べ物にならない

ながらに、会社を失った父は大丈夫だろうか、と心配した。

そんな心配をよそに、父は決して弱音を吐かなかった。自宅にパソコン、電話を設置、会社の再建にすぐに取り出した。何もかも失ったのに、何かに突き動かされたようにパソコンに向かう父の背中が、生きる力にみなぎっていた。震災から一か月後、父だけが宮城に残り、私達家族は、母の実家である沖縄に行くことになった。

宮城を離れる日、泣きながら私は父に聞いた。「どうしてお父さんと一緒に暮らせないの。」父は私の頭を撫でながら、優しくきっぱりと言った。「会社の人達を見捨てるわけにはいかない。また一緒に暮らせるようにお父さん頑張るから。」

あれから十一年経ち、小学校から高校と、周りの人たちに支えられ、穏やかに過ごしていた。その間、かつての生活、家族と一緒に過ごすことはなかった。2020年には、新型コロナウイルスも発生した影響もあり、私達家族が皆で集まったのは、震災以降5回もあっただろうか。

震災から二年後の夏、私は震災後初めて故郷宮城に帰った。父の会社に行った時、思いもかけない多くの笑顔がそこにはあった。震災前より環境は悪化しているはずなのにそこには現実から逃げずに、家族との幸せを取り戻し、地元宮城の復興に確実に前を向いている人達がいた。そして、会社の人達の先頭に立って奮闘する父の背中があった。

私は確信した。「働くってこういう事なのか」と。人は守るべきものがある時、こんなにも素晴らしい力を発揮することが出来るのだということを知った。お金のためだけでなく、家族のために、自分のために、故郷のために、そして人と繋がるために、人は働いている。そこには紛れもなく「生きがい」という言葉が存在する。

「若い世代は仕事をすぐに辞めてしまう」「将来、やりたいことが見つからない」。私達の世代はこのような問題であふれている。当の本人達もどのように解決したらいいか困惑しているのだろう。

私はそういう人達に伝えたい。どんな職業や立場にあっても、自分のため、社会のためになることはきっとあるはずだ。それが、これからの未来をつくっていく私達に必要なものである。

まずは自分で行動しなくては始まらない。

どんなに小さなことでもいい。私も今多くの人に支えられながら建築士になるための勉強をしている。正直、課題の締め切りに追われる事もある。でも、私も社会を支える一人になりたい。

私も新しい未来に向かって一歩ずつ前に進んでいく。父の背中が教えてくれたように。

(3) 応募校一覧

< 中学校の部 >

番号	区分	学校名	応募者数	入選者数
1	中央区	銀座中学校	4	3
2		晴海中学校	1	1
3		佃中学校	10	2
4	新宿区	西早稲田中学校	5	2
5		新宿西戸山中学校	4	1
6	墨田区	両国中学校	10	4
7		吾嬬第二中学校	1	
8		寺島中学校	6	
9	江東区	深川第一中学校	1	
10		大島中学校	10	
11	大田区	馬込東中学校	1	
12		大森第六中学校	10	1
13	世田谷区	三宿中学校	2	
14	杉並区	高南中学校	2	1
15	北区	稲付中学校	8	1
16		赤羽岩淵中学校	10	
17	荒川区	尾久八幡中学	2	1
18		南千住第二中学校	4	
19	足立区	西新井中学校	10	
20		伊興中学校	6	
21	江戸川区	松江第四中学校	2	
22	調布市	第八中学校	8	1
23	町田市	真光寺中学校	10	1
24	私立	愛国中学校	3	1
合計			130	20

< イラストの部 >

番号	学校名	応募者数	入選者数
1	東京都立晴海総合高等学校	4	2
2	東京都立府中西高等学校	1	1
3	東京都立第四商業高等学校	13	
合計		18	3

< 高等学校・専修学校等の部 >

番号	学校名	応募者数	入選者数
1	東京都立園芸高等学校	10	3
2	東京都立農芸高等学校	5	2
3	東京都立農産高等学校	9	2
4	東京都立農業高等学校	10	1
5	東京都立瑞穂農芸高等学校	7	3
6	東京都立大島高等学校	3	1
7	東京都立足立工業高等学校	1	
8	東京都立葛西工業高等学校	3	1
9	東京都立府中工業高等学校	10	
10	東京都立第四商業高等学校	10	
11	東京都立葛飾商業高等学校	10	1
12	東京都立忍岡高等学校	8	
13	東京都立赤羽北桜高等学校	10	
14	愛国高等学校	9	3
15	岩倉高等学校	2	1
16	京華商業高等学校	9	1
17	日本工業大学駒場高等学校	3	
18	国際共立学園高等専修学校	10	1
小計		129	20
1	青山製図専門学校	10	2
2	中央工学校	3	
小計		13	2
合計		142	22

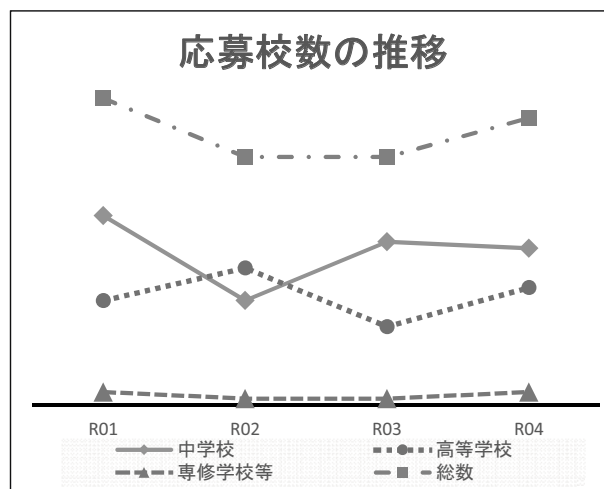
< まとめ > (イラストの部を除く)

番号	区分	応募校数	応募者数	入選者数
1	中学校	24	130	20
2	高等学校	18	129	20
3	専修学校	2	13	2
合計		44	272	42

(4) 応募校数・応募者数・入選者数の推移

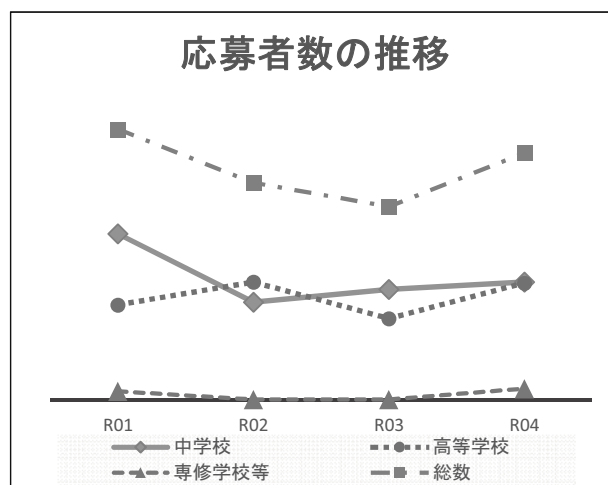
① 応募校数の推移

校種	令和元	令和2	令和3	令和4	平均
中学校	29	16	25	24	24
高等学校	16	21	12	18	17
専修学校等	2	1	1	2	2
合計	47	38	38	44	42



② 応募者数の推移

校種	令和元	令和2	令和3	令和4	平均
中学校	183	108	122	130	136
高等学校	105	130	90	129	114
専修学校等	10	1	1	13	7
合計	298	239	213	272	256



③ 入選者数の推移

校種	令和元(2019)年度			令和2(2020)年度			令和3(2021)年度			令和4(2022)年度			平均 %
	応募者数	入選者数	%	応募者数	入選者数	%	応募者数	入選者数	%	応募者数	入選者数	%	
中学校	183	19	10	108	18	17	122	19	16	130	20	15	15
高等学校	105	15	14	130	20	15	90	14	16	129	20	16	15
専修学校等	10	3	30	1	1	100	1	1	100	13	2	15	61
合計	298	37	12	239	39	16	213	34	16	272	42	15	15

(5) 作文のテーマ別応募者数一覧**①作文の内容**

次に示す学習を通して体験したことを踏まえて、そこから得た人生観・職業観、自己の将来に対する考え方・心構え等について述べたもの。

- 中学校における技術・家庭科の学習
- 高等学校、専修学校、高等専門学校又は短期大学における専門教科の学習
- 勤労に関わる体験的な学習

②テーマ

作文の内容について、次のテーマ番号（ア～コ）から関係するものを選択し記述する。

- ア 授業等を通して学び得たこと
- イ 就業体験や現場実習等によって学び得たこと
- ウ 職場体験やボランティア活動等によって学び得たこと
- エ つくることの喜び、ものづくりの喜び
- オ 働くことの喜び
- カ 学習に対する心構え
- キ 私の生きがい
- ク 私の進路、将来の夢
- ケ 私の職業観
- コ その他（産業教育に関わる内容のもの）

③テーマ別応募数とその割合

テーマ 番号	中学校の部						高等学校の部						専修学校等の部					
	R02		R03		R04		R02		R03		R04		R02		R03		R04	
	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)	応募数	(割合)
ア	8	(7%)	23	(19%)	19	(15%)	38	(29%)	27	(30%)	35	(27%)	0	(0%)	0	(0%)	3	(23%)
イ	21	(19%)	0	(0%)	2	(2%)	6	(5%)	7	(8%)	11	(9%)	0	(0%)	1	(100%)	0	(0%)
ウ	16	(15%)	13	(11%)	19	(15%)	11	(8%)	3	(3%)	1	(1%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
エ	5	(5%)	13	(11%)	10	(8%)	2	(2%)	3	(3%)	6	(5%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
オ	1	(1%)	4	(3%)	3	(2%)	1	(1%)	0	(0%)	2	(2%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
カ	3	(3%)	2	(2%)	3	(2%)	4	(3%)	3	(3%)	4	(3%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
キ	2	(2%)	12	(10%)	6	(5%)	10	(8%)	6	(7%)	10	(8%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
ク	34	(31%)	45	(37%)	55	(42%)	45	(35%)	36	(40%)	51	(40%)	1	(100%)	0	(0%)	4	(31%)
ケ	12	(11%)	5	(4%)	11	(8%)	6	(5%)	1	(1%)	6	(5%)	0	(0%)	0	(0%)	6	(46%)
コ	6	(6%)	5	(4%)	2	(2%)	7	(5%)	4	(4%)	3	(2%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
計	108	(100%)	122	(100%)	130	(100%)	130	(100%)	90	(100%)	129	(100%)	1	(100%)	1	(100%)	13	(100%)

本会の概要

令和4年度 事業経過報告

(令和5年2月20日現在)

1 会計監査

4月15日(金)午後3時～5時 都庁第二本庁舎16階16C会議室を会場として、常任監事及び監事2名による各種帳簿類等の監査を実施(本会事務局長立合い)。

2 理事会

5月17日(火)会場参加(全商会館)とオンライン参加を併用したハイブリッド開催

*会場参加者10名、オンライン参加者9名、欠席者(委任状)14名

3 総会・講演会

6月28日(火)会場参加(全商会館)とオンライン参加を併用したハイブリッド開催

・総会 会場参加者21名、オンライン参加者13名、計34名

・講演会 会場参加者20名、オンライン参加者16名、計36名

演題:「令和の日本型学校教育の構築」

講師:奈須 正裕 氏

上智大学総合人間科学部教育学科教授

中央教育審議会教育課程部会委員

(総会・講演会の報告は会報第162号、会誌第60号に掲載)

4 委員会

(1) 企画推進委員会(第1回) 7月14日(木)都庁第二本庁舎15階15A会議室で開催(オンライン会議併用)

企画推進委員会(第2回)11月18日(金)全商会館で開催

企画推進委員会(第3回) 1月19日(木)全商会館で開催

(2) 中学校技術・家庭科教育功労者選考委員会 9月16日(金)都庁第二本庁舎15階15A会議室で開催

(3) 作文選考委員会

全体会

5月13日(金)東京商工会議所で開催

分科会(高等学校・専修学校等の部)10月14日(金)都庁第二本庁舎15階管理課会議室で開催

分科会(中学校の部)

10月13日(木)都庁第二本庁舎15階管理課会議室で開催

5 振興奨励事業

(1) 教育功労者表彰:11月10日(木)午後3時から全商会館3階中会議室において、御下賜金記念産業教育功労者32名、中学校技術・家庭科教育功労者9名、専修学校・短期大学産業教育功労者1名の表彰式を挙行了。本会より表彰状の授与と記念品の贈呈を行った。(本誌 P 60～61)

(2) 産業界会員功労者(永年会員)表彰:6月28日(火)午後2時から全商会館3階中会議室において、総会終了後に産業界会員功労者(永年会員)3社の表彰式を挙行了。本会より表彰状の授与と記念品の贈呈を行った。(本誌 P 43)

(3) 研究団体助成:産業教育関係の教育研究団体に対する奨励助成として、農業、工業、家庭、総合学科、定時制・通信制、中学校技術・家庭科の各研究会に対し、研究資料作成など事業活動費の一部を助成した。

(4) 作文コンクール:中学生、高校生、高専生、専修学校生、短大生に対する作文募集を行い、応募総数は272点であった。その中から最優秀賞3名(中学校1名、高校1名、専修学校1名)、優秀賞6名(中学校3名、高校2名、専修学校1名)、佳作33名(中学校16名、高校17名)計42名の入選者を選定した。

表彰式は 12 月 16 日（金）に東京商工会議所で開催し、入選者及び「明日に生きる 第 33 号 ー作文コンクール入選作品集ー」の表紙デザイン作成者に賞状と賞品を授与した。また、作文応募者全員及び表紙デザイン応募者全員に記念品を贈呈した。

入選作品は「明日に生きる 第 33 号 ー作文コンクール入選作品集ー」として令和 5 年 3 月上旬に発行予定。

- (5) 優良卒業生選奨：優良卒業生に対し、各学校の校長・学長を通じ、本会会長及び公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰状の交付及び授与を行った。

○東京都産業教育振興会会長表彰

中学校	922 名	中等教育学校（前期課程）	13 名	
高等学校	196 名	専修学校	95 名	
高専・短大	14 名			計 1,230 名

○公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰

高等学校及び高等専門学校	計 106 名
--------------	---------

- (6) 後援事業：産業教育の普及向上に寄与する事業を実施する団体等に対して、本会の後援名義の使用を承認した。本年度は 10 事業に対して後援名義の使用を承認した。（本誌 p59）

6 産学連携事業

- (1) 東京商工会議所及びあきる野商工会と連携して都立高校と企業の連携を推進した。
- (2) 東京商工会議所葛飾支部と連携し、葛飾区の企業・専門高校・中学校との懇談会を 2 月 16 日（木）に開催する。

7 産学交流事業

- (1) 産学懇談会（第 1 回）を 7 月 8 日（金）に都立橘高等学校を会場に対面形式（会場参加）とオンライン参加を併用したハイブリッド形式で開催した。参加者は会場校校長・教職員、都産振の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等で、会場参加者 17 名、オンライン参加者 4 名、計 21 名であった。（本誌 p62-63）
- (2) 産学懇談会（第 2 回）を 9 月 27 日（火）に都立府中工業高等学校を会場に対面形式（会場参加）で開催した。参加者は会場校校長・教職員、都産振の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員、府中市教育委員会職員等 44 名であった。（本誌 p64-65）
- (3) 産学懇談会（第 3 回）を 12 月 2 日（金）に読売理工医療福祉専門学校を会場に対面形式（会場参加）で開催した。参加者は会場校校長・教職員、都産振の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等 24 名であった。（本誌 p66-67）

8 情報連絡事業

- (1) 会報「東京の産業と教育」第 162 号を 7 月 27 日に、第 163 号を 11 月 28 日に発行し、全会員及び関係諸機関に配布した。
- (2) 会誌「東京の産業教育」第 60 号を 3 月上旬に発行予定
- (3) 生徒作文集「明日に生きる」第 33 号を 3 月上旬に発行予定
- (4) 全国産業教育振興連絡協議会総会及び公益財団法人産業教育振興中央会参与・学校代表委員会議が、5 月 26 日（木）に全商会館で開催された、本会から会長、副会長、事務局長、学校代表委員が参加した。
- (5) 文部科学省・青森県教育委員会・公益財団法人産業教育振興中央会他主催の第 32 回全国産業教育フェア青森大会は、10 月 14 日（土）・15 日（日）新青森県総合運動公園マエダアリーナをメイン会場に開催された。本会から会長、事務局長及び都立新宿山吹高等学校等が参加した。
- (6) 第 64 回全国産業教育振興大会（青森大会）が 10 月 14 日（土）アップルパレス青森で開催された。本会から会長、事務局長が参加した。

- (7) 東京都産業教育振興会のホームページを月1回更新した。
- (8) 東京都産業教育振興会のホームページを3月末にリニューアルする。

9 会員増加運動の推進

産業界会員は新たに1社が入会した。学校会員は都立高校が新たに1校入会した。また、個人会員は新たに1名が入会した。

10 広報活動の推進

新たに会報電子版の作成に取り組み、2月末までに9回発行し、会員及び会員中学校を所管する区市町村教育委員会に送信した。

11 会則の改正

6月28日（火）開催の総会にて、東京都産業教育振興会会則の一部改正を行った。

（旧会則）

第3章 役員及び職員

第7条 理事は東京都教育委員会教育長、東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部長高等学校教育課長の職にある者のほか、総会で選出する。

- 2. 理事長は東京都教育委員会教育長の、常任理事は東京都教育庁都立学校教育部長及び東京都教育庁都立学校教育部長高等学校教育課長の職にある理事をもって充てる。
- 3. 理事長は会務を掌理するとともに理事会を代表し、常任理事は日常の会務を執行する。
- 4. 理事は理事会を組織する。
- 5. 理事会は理事長が招集し重要な会務を処理する。

（新会則）

第3章 役員及び職員

第7条 理事は東京都教育委員会教育長、東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部長高等学校教育課長の職にある者のほか、総会で選出する。

- 2. 理事長は東京都教育委員会教育長の、常任理事は東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部長高等学校教育課長及び東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長の職にある理事をもって充てる。
- 3. 理事長は会務を掌理するとともに理事会を代表し、常任理事は日常の会務を執行する。
- 4. 理事は理事会を組織する。
- 5. 理事会は理事長が招集し重要な会務を処理する。

（改正理由）

教育庁内において、ものづくり教育推進担当課長の職が設置され、専門学科（職業学科）の改善・充実に関する事項について所掌しているほか、東京都産業教育振興会を所掌することとしているため。

令和 3 年度 決算

総収入額 ¥3,590,300
 総支出額 ¥2,217,133
 差 引 額 ¥1,373,167

[収入の部]

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差額	摘 要
会 費	2,297,000	2,387,000	90,000	1 学校関係 会費 校数・口数 1,631,000
				① 国公立中学校 2,000 439 校 878,000
				② 都立高校 全 6,000 53 校 318,000
				定 3,000 31 校 93,000
				③ 国私立高校 全 6,000 14 校 84,000
				通 3,000 2 校 6,000
				④ 短大・高専 3校 6,000 3 校 18,000
				⑤ 専修学校 37校 6,000 39 口 234,000
				2 産業界関係 756,000
				① 企 業 54社 10,000 73 口 730,000
				② 個 人 13人 2,000 13 口 26,000
会誌広告料	250,000	325,000	75,000	「東京の産業教育」第58号広告費4(校)、第59号広告費18社(校)
雑収入	712	20,012	19,300	令和2年度研究奨励費戻入、令和4年度会費前払い金、銀行利子
繰越金	858,288	858,288	0	前年度繰越
合 計	3,406,000	3,590,300	184,300	

[支出の部]

(単位:円)

科 目		予算額	決算額	差額	摘 要	
事務費		506,000	625,891	△ 119,891		
項目	需用費	5,000	1,000	4,000	総会資料印刷、消耗品費等、資料管理費	
	役務費	500,000	624,891	△ 124,891	配送費、郵便振込手数料、郵券等、連絡通信費	
	旅 費	1,000	0	1,000	全国産業教育フェア(埼玉大会)	
会議費		60,000	39,901	20,099	理事会、総会、講演会、各種委員会	
事業費		2,140,000	1,486,341	653,659		
項 目	振 興 奨励費	975,000	566,301	408,699	①教育功労者表彰	141,851
					②研究奨励助成	125,000
					③作文表彰等	173,330
					④永年会員表彰	0
					⑤表彰状印刷等	91,520
					⑥表彰状筆耕料	34,600
					⑦ロゴマーク募集	0
	情 報 連絡費	1,155,000	920,040	234,960	①会報発行(2回分)	40,040
					②会誌第59号発行	412,500
					③作文集第32号発行	273,900
④HP更新費					193,600	
⑤全産協参加費					0	
⑥中央会図書費					0	
⑦作文集・会誌合本費					0	
産学交流費	10,000	0	10,000	産学懇談会		
分担金		65,000	65,000	0	全国産業教育振興会連絡協議会	
予備費		240,000	0	240,000	緊急対応	
合 計		3,011,000	2,217,133	793,867		

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

令和4年度 予算

総収入額 ￥4,087,000
 総支出額 ￥4,087,000
 差引額 ￥0

[収入の部]

(単位：円)

科 目	本年度 予算額(A)	前年度 予算額(B)	増△減 (A-B)	摘 要
会 費	2,393,000	2,297,000	96,000	1 学校関係 会費 校数・口数 1,625,000 ① 国公立中学校 2,000 439 校 878,000 ② 都立高校 全 6,000 52 校 312,000 定 3,000 31 校 93,000 ③ 私立・国立高校 全 6,000 14 校 84,000 通 3,000 2 校 6,000 ④ 高専・短大 3 校 6,000 3 校 18,000 ⑤ 専修学校 37 校 6,000 39 口 234,000 2 産業界関係 会費 口数 768,000 ① 企 業 54 社 10,000 74 口 740,000 ② 個 人 14 名 2,000 14 口 28,000
会誌広告料	320,000	250,000	70,000	令和3年度広告料を含む
雑収入	833	712	121	預金利息等
繰越金	1,373,167	858,288	514,879	前年度繰越
合 計	4,087,000	3,406,000	681,000	

[支出の部]

(単位：円)

科 目	本年度 予算額 (A)	前年度 予算額 (B)	増△減 (A-B)	摘 要
事務費	725,000	476,000	249,000	
項 目 需用費	25,000	5,000	20,000	消耗品費等、資料管理費、ICレコーダー
役務費	650,000	470,000	180,000	配送費、郵便振込手数料、郵券等、連絡通信費
旅 費	50,000	1,000	49,000	全国産業教育フェア（青森大会）
会議費	60,000	60,000	0	理事会、総会、講演会、各種委員会
事業費	2,650,000	2,140,000	510,000	
項 目 振興奨励費	985,000	975,000	10,000	①教育功労者表彰 200,000 ②研究奨励助成 150,000 ③作文表彰等 370,000 ④永年会員表彰 20,000 ⑤表彰状印刷 200,000 ⑥表彰状筆耕料 45,000 ⑦ロゴマーク(2031年度に必要) 0
情 報 連絡費	1,655,000	1,155,000	500,000	①会報発行(2回分) 50,000 ②会誌第60号発行 450,000 ③作文集第33号発行 400,000 ④HPリニューアル・更新費 720,000 ⑤全産協参加費 3,000 ⑥中央会図書費 2,000 ⑦作文集・会誌合本費 30,000
産学交流費	10,000	10,000	0	産学懇談会
分担金	65,000	65,000	0	全国産業教育振興会連絡協議会
予備費	587,000	240,000	347,000	緊急対応
合 計	4,087,000	2,981,000	1,106,000	

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

令和4年度 東京都産業教育振興会 役員 (敬称略・順不同)

(☆印：新任)

会 長	ForeVision 株式会社 取締役 監査等委員会委員長 (元・株式会社企業再生支援機構 代表取締役社長、元・株式会社東京都民銀行 頭取)	西 澤 宏 繁
副 会 長	株式会社カナック企画相談役	金 子 昌 男
〃	東京商工会議所常務理事	小 林 治 彦
〃	☆ 東京都立江東商業高等学校長	岡 本 裕 之
理 事 長	☆ 東京都教育委員会教育長	浜 佳葉子
常 任 理 事	☆ 東京都教育庁都立学校教育部長	村 西 紀 章
〃	☆ 東京都教育庁都立学校教育課長	臼 井 宏 一
〃	☆ 東京都教育庁都立学校教育課ものづくり教育推進担当課長	吉 田 直 子
理 事	公益社団法人経済同友会執行役	齋 藤 弘 憲
〃	一般社団法人東京経営者協会人材開発事業部長	海老澤 大 造
〃	株式会社日刊工業新聞社代表取締役社長	井 水 治 博
〃	三和電気工業株式会社代表取締役会長	石 井 卓 爾
〃	株式会社昭和製作所取締役会長	舟久保 利 明
〃	☆ 新宿区教育委員会教育長	針 谷 弘 志
〃	荒川区教育委員会教育長	高 梨 博 和
〃	武蔵野市教育委員会教育長	竹 内 道 則
〃	☆ 台東区教育委員会事務局学務課長	川 田 崇 彰
〃	☆ 大田区教育委員会事務局学務課長	大 竹 豊 和
〃	学校法人東京誠心学園理事長	廣 瀬 道
〃	学校法人小山学園理事長	山 本 匡
〃	岩倉高等学校長	森 田 勉
〃	安部学院高等学校長	安 部 元 彦
〃	東京都立農芸高等学校長	小 堀 卓 二
〃	東京都立中野工業高等学校長	守 屋 文 俊
〃	☆ 東京都立江東商業高等学校長 (副会長兼任)	岡 本 裕 之
〃	☆ 東京都立府中西高等学校長	小 川 直 哉
〃	東京都立青梅総合高等学校長	鈴 木 信 也
〃	墨田区立墨田中学校長	杉 浦 伸 一
〃	☆ 台東区立浅草中学校長	瀬 川 眞 也
〃	☆ 東京都教育庁指導部長	小 寺 康 裕
〃	東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長	堀 川 勝 史
〃	☆ 東京都教育庁指導部主任指導主事 (産業教育担当)	久保田 哲 司
理事・事務局長	☆ 東京都教育庁都立学校教育課長代理 (計画担当)	山 田 雅 史
常 任 監 事	東京都教育庁都立学校教育課長代理 (管理担当)	長 沢 太 士
監 事	株式会社ツバサ・翼学院グループ代表取締役 学院長	芦 澤 唯 志
〃	世田谷区立上祖師谷中学校長	柄 澤 茂 之

令和4年度 東京都産業教育振興会各委員会委員（敬称略・順不同）

企画推進委員会

東京都立農芸高等学校長	小堀卓二
東京都立府中工業高等学校長	鈴木誠
東京都立第三商業高等学校長	山田和人
東京都立東村山高等学校長	富川麗子
東京都立つばさ総合高等学校長	片桐あかね
東京実業高等学校長	國分達夫
安部学院高等学校長	安部元彦
マリールイズ美容専門学校顧問	江原美規子
ハリウッド美容専門学校副校長	岡崎俊彦
東京都立産業技術高等専門学校副校長	柴崎年彦
大田区立大森第八中学校長	保谷満
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	宗川良子
東京都教育庁指導部義務教育指導課統括指導主事	國長泰彦

作文選考委員会

東京都立晴海総合高等学校長（高校・専修学校の部委員長）	仁井田孝春
東京都立農産高等学校長	江森忍
東京都立橘高等学校長	深澤栄次
東京都立第四商業高等学校長	昼間一雄
東京都立府中西高等学校長	小川直哉
昭和第一学園高等学校教諭	小林繭子
京華商業高等学校教諭	小口浩史
ハリウッド美容専門学校教授	光江徳尚
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	千々和秀敏
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	塙典子
町田市立真光寺中学校長（中学校の部委員長）	矢島加都美
中央区立佃中学校副校長	星谷雅俊
港区立赤坂中学校統括校長	高松政則
港区立三田中学校長	上原良枝
江東区立深川第一中学校長	佐川明夫
世田谷区立上祖師谷中学校副校長	毛利慎治
世田谷区立三宿中学校長	濱川一彦
足立区立伊興中学校長	千葉千登勢
調布市立調布中学校副校長	北島陽子
小金井市立小金井第二中学校長	川井まさよ
東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事	宮西真
東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事	笠井淳子

東京都産業教育振興会会則

第 1 章 総 則

第 1 条 この会は、東京都産業教育振興会という事務所を東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課（東京都新宿区西新宿 2-8-1）内におく。

第 2 条 この会は、産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

第 3 条 この会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 産業教育振興運動の推進に関すること。
- (2) 産業教育の調査研究に関すること。
- (3) 産業教育の普及理解に関すること。
- (4) 産業教育、就職問題などに関する懇談会、講演会、研究会などの開催並びにこれらについての資料の頒布、情報の連絡に関すること。
- (5) 産業教育振興に関し関係機関への建議に関すること。
- (6) 関係行政機関の施策に協力すること。
- (7) 産業教育に関する教職員の研究奨励に関すること。
- (8) 産業教育に関する生徒の就学並びに学習の奨励に関すること。
- (9) その他本会の目的を達成するのに必要なこと。

第 2 章 会 員

第 4 条 本会は次の会員をもって組織する。

- (1) 団体会員 会社、工場、本都内における学校およびこれが振興を目的とした団体を代表するもので本会の趣旨に賛同したもの。
- (2) 個人会員 本会の趣旨に賛同したもの。
- (3) 名誉会員 産業教育又は本会に功績があった者で会長が理事会の議を経て推薦したもの。

第 3 章 役員及び職員

第 5 条 この会に会長 1 名、副会長 3 名、理事 25 名以上 35 名以内及び監事 3 名をおく。

第 6 条 会長、副会長は理事会で選出する。会長は会務を総理し、本会を代表する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代る。

第 7 条 理事は東京都教育委員会教育長、東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 理事長は東京都教育委員会教育長の、常任理事は東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長及び東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長の職にある理事をもって充てる。
3. 理事長は会務を掌理するとともに理事会を代表し、常任理事は日常の会務を執行する。
4. 理事は理事会を組織する。
5. 理事会は理事長が招集し重要な会務を処理する。

第 8 条 監事は東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理（管理担当）の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 監事のうち 1 名は常任監事とし、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理（管理担当）の職にある監事をもって充てる。

3. 監事は会計を監査し、総会に報告する。

第9条 この会の役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 この会に顧問・参与をおくことができる。

2. 顧問は会長の諮問に応じ、参与は理事会、総会に出席して意見をのべることができる。

第11条 この会の事務を処理するために事務局をおく。事務局には事務局長、書記その他の必要な職員をおくことができる。

2. 事務局の職員は理事長が任免する。

3. 事務局長は日常の事務を総括処理し、書記その他の職員は日常の事務を処理する。

4. 職員は有給とすることができる。

第4章 総 会

第12条 総会は年1回会長が招集する。ただし、会長が必要と認めるときは臨時招集することができる。

2. 総会は会長を議長とし、事業方針、予算決算その他重要な会務を審議する。

第13条 総会の決議は出席者の過半数によって定める。

第5章 部会分会

第14条 この会には部会又は分会をおくことができる。部会又は分会に関する規定は理事会の議を経て会長が定める。

第6章 会 計

第15条 この会の事業執行に要する費用は会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

第16条 会費は次の通りとする。

(1) 団体会員

ア 産業界会員 1口 年額1万円

イ 学校会員

○高等学校全日制 1口 年額6千円

○高等専門学校 同

○短期大学 同

○専修学校 同

○高等学校定時制・通信制 1口 年額3千円

○中学校 1口 年額2千円

(2) 個人会員 1口 年額2千円

ただし、総会の決議により臨時会費を徴収することができる。

第17条 本会の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第7章 支 部

第18条 この会に支部をおくことができる。

第8章 会則の変更及び解散

第19条 この会の会則の変更及び解散は総会の決議を経なければならない。

第9章 付 則

第20条 本会則実施に必要な細則は会長が理事会の議を経て定める。

昭和30年5月20日制定

以下の総会で一部改正

昭和46年度、52年度、58年度、平成18年度、20年度、22年度、27年度、28年度、令和4年度

産 業 界 会 員 名 簿 (5 6)

50 音順

	企業会員名	所在地 / 電話 / URL	過去5年間の採用実績	企業の概要・特色
1	株式会社 明石スクールユニ フォームカンパニー	〒103-0006 中央区日本橋富沢町 5-5 03-5695-5300 http://www.akashi-suc.jp	専修卒 四大卒	富士ヨット詰襟学生服及び、別注学校制服・体育着・実習服・企業ユニフォームを製造している制服メーカーです。 学校オリジナル制服としては、50 校超の都立高校制服や、私立学校制服、公立中学校・小学校の標準服を製造しております。またデサント体育着も好評をいただいております。
2	あきる野商工会	〒197-0804 あきる野市秋川 1-8 あきる野ルピア 3 階 http://www.akiruno.ne.jp/	四大卒	商工会は、地域の事業者が業種に関わりなく会員となって、お互いの事業の発展や地域の発展のために総合的な活動を行う団体です。 現在 1500 を超える事業者が会員となっており、経営に関する相談、講習会等の実施、部会活動、地域カードの発行、創業支援施設やアンテナショップの運営など様々な活動を行っています。
3	株式会社 秋月電子通商	〒158-0095 世田谷区瀬田 5-35-6	四大卒	電子部品（主としてコンピュータパーツ）、及び制御コンピュータ用応用機器製品の販売、電子工作用各種製品開発セット、製作、直接販売。 世界各国の最新機器の日本への紹介。
4	有限会社 飯吉製作所	〒124-0023 葛飾区東新小岩 5-14-22 03-3697-5645	—	金属プレス加工業を昭和 24 年創業、昭和 37 年会社設立後、永年培った技術を活用し、アルミ押し出し型材のプレス加工金型の設計製作を始め、各種プレス金型分野に進出、傍ら自社ブランドのキャスターを開発、製造販売を始め、現在に至る。
5	株式会社 エイコー	〒124-0024 葛飾区新小岩 2-7-4 サンシティ新小岩	高校卒	昭和 35 年にビルメンテナンス業を創業。平成 13 年、同業他社に先駆けて「ISO9001」を取得。現在、ビルメンテナンスのみに留まらず総合管理業として、躍進しております。
6	エス・イー・シー エレベーター 株式会社	〒110-0016 台東区台東 3-18-3 03-5256-1171 https://secev.co.jp	高校卒 専修卒 短大卒 四大卒	エレベーター・エスカレーターの保守点検、新設・リニューアル工事・LED・サイネージ・環境事業等を行っています。
7	株式会社 開倫塾	〒326-8505 栃木県足利市堀込町 145 0284-72-5945 http://www.kairin.co.jp	四大卒 大学院卒	創業 40 周年の学習塾。小学生・中学生・高校生を対象とします。北関東 3 県（栃木・群馬・茨城県）と東京都川の手地区（墨田・荒川・葛飾・足立区）に展開。自己学習能力の育成を教育目標とします。毎年 5 月、全国模擬授業大会を開催。NIE に力を入れています。
8	株式会社 カナック企画	〒125-0054 葛飾区高砂 1-21-4	高校卒 短大卒 四大卒 大学院卒	弊社はメイン事業であるカー AV 取付キットビジネスで市場シェア約 6 割を占めており、オールインワン企業としてカーライフ事業を開拓し続けるリーディングカンパニーです。最近ではカーナビの大画面化が進み、益々弊社の重要性が高まり AV メーカーと車メーカー、それとユーザーの皆様のニーズに応えるべき商品の開発に力を入れています。もう一つの事業である鉄道グッズ事業では、大人でも使える新幹線をモチーフにした USB メモリや子供用のリュックサック、自転車ヘルメットなど色々な商品ラインナップを繰り広げ、事業を展開しております。
9	亀有信用金庫	〒125-8508 葛飾区亀有 3-13-1 03-3603-0185 http://www.shinkin.co.jp/kameari/	短大卒 四大卒	当金庫は東京都東部、埼玉県南東部、千葉県松戸市に店舗を構える協同組織金融機関です。1920 年（大正 9 年）の設立以来、一度も合併することなく、事業を継続しており、令和 2 年 12 月に創立 100 周年を迎えました。金融機関の健全性や安定性を示す一つの指標である自己資本比率は都内信用金庫でトップクラスにあります。質の高い金融サービスをお客様に提供することにより、地域に愛され必要とされる信用金庫を目指して活動しています。
10	株式会社 川邑研究所	〒153-0063 目黒区目黒 1-5-6	専修卒 四大卒	固体被膜潤滑剤の研究・開発・製造・販売。

	企業会員名	所在地 / 電話 / URL	過去5年間の採用実績	企業の概要・特色
11	株式会社 キクチ	〒140-0013 品川区南大井 6-11-7 キクチビル 03-3767-0673 http://kikuchi-corp.com/	高校卒 専修卒 高専卒 短大卒 四大卒 大学院卒	ビルディングオートメーションシステムのメンテナンスサービス、設備管理サービス、電気計装工事、内装・補修工事、省エネソリューションビジネス。 キクチは、『人と地球と建物のより良い未来を切り拓く』ため、建物環境がいつでも安全・快適で省エネルギーであること、すなわち、『ビルの明日をまもる』ことを、企業使命と考えライフサイクルソリューションビジネスを展開しています。
12	株式会社 きらぼし銀行	〒106-0062 港区南青山 3-10-43	四大卒	きらぼし銀行は、2018年5月に東京都民銀行、八千代銀行、新銀行東京の3行が合併し、新たなスタートを切りました。 「首都圏における中小企業と個人のお客様のための金融グループとして、総合金融サービスを通じて、地域社会の発展に貢献します。」という経営理念を掲げ、お客さまの新しい価値を創造する“東京発プラットフォーム”として、さらなる飛躍を目指します。
13	株式会社 小葉印刷所	〒104-0042 中央区入船 2-7-4 https://www.kogusuriprinting.com	—	創業90年のお客様への「奉仕と信用」がモットーの印刷会社。 学術学会誌、研究紀要、教科書、講演会録、同窓会報、自費出版等も製作や学会誌事務局代行、製作物の発送業務等も承っています。 近年、エディトリアル・デザインやWeb用のデータ作成業務にも力を入れています。
14	株式会社 興銀不動産開発	〒125-0041 葛飾区東金町 5-7-6 03-5699-5353 https://www.kougin-fudousankaiatsu.co.jp	四大卒	平成2年創業以来30年、地元根を下ろし不動産に精通したスタッフが信用第一をモットーに営業活動し、若い力がデジタル化を進めています。
15	国光施設工業 株式会社	〒144-0041 大田区羽田空港 1-7-1 http://www.kokko-shisetsu.co.jp/	高校卒 専修卒	創立100周年を目指し、顧客の施設（電気・計装・空調・通信・太陽光）を計画段階から建設、メンテ及び設備取り壊しまで長期に亘り担当するエンジニアリング集団です。
16	三和電気計器 株式会社	〒101-0021 千代田区外神田 2-4-4	高校卒	1941年創業、従業員70名の現場用電子計測器の専門メーカーです。 高品質のアナログテスタ、デジタルマルチメータ、クランプメータ、絶縁抵抗計などを製造し、日本国内はもとより世界74ヶ国以上に輸出し、SANWAブランド製品として高い信頼を得ています。
17	三和電気工業 株式会社	〒102-8140 千代田区富士見 1-6-1 03-5213-3035 http://www.snwd.co.jp/	専修卒 四大卒 大学院卒	1947年に電気通信部品メーカーとして発足しました。光コネクタのパイオニアメーカーのひとつです。光コネクタのメーカーとしては日本及び海外のお客様に製品を提供しており、5G用製品など、現代社会の高度情報化の発展に寄与しています。近年は信頼性の高さから、通信分野以外（新幹線等）で光トランシーバーが好評を博しております。今後も通信技術の革新が進んでいく中で、当社のコアコンピタンスを活かして、色々な業界で世界中のお客様のニーズに寄り添う形で、時代をリードする製品を開発・提供していきます。
18	実教出版 株式会社	〒102-8377 千代田区五番町 5 03-3238-7777 https://www.jikkyo.co.jp/	四大卒 大学院卒	高等学校用教科書・教材類・専門図書等の出版・販売および不動産賃貸業を展開。情報・実業科目に強み。情報教育・情報処理検定試験等にも注力している。1941年創業、従業員150名。
19	株式会社 昭和製作所	〒143-0015 大田区大森西 2-17-8 03-3764-1621 http://www.showa-ss.jp	高校卒 四大卒	弊社は、昭和27年創立、現社長は3代目になります。インフラ等で用いられる材料の性質を調べるために様々な工作機械を用いて製作する「材料試験片」と、インフラそのものを壊さないで調べるための「非破壊試験片」を主として製作しています。その他に、工作機械加工以外の様々な社外技術を利用する試作品や特殊部品の製作も行います。2015年にISO9000、JISQ9100の資格を取得し、2020年に基準適合事業主（ユースエール）認定を受けています。
20	株式会社 鈴木塗装工務店	〒120-0022 足立区柳原 2-30-14 03-3882-2828 http://www.suzukitosou.com	高校卒 専修卒 短大卒 四大卒	鉄道橋梁の塗装工事を発祥とし、創業85年以上の歴史があります。現在は、全国主要都市に支店・営業所を構え、ビル・マンションや工場等のリフォーム工事から橋梁などの大型構造物の塗装工事まで、様々な建造物の改修工事を行っています。また、安全・品質・環境・美観対策に効果的な工法を積極的に取り入れた施工を行い、お客様のご要望にお応えしております。

	企業会員名	所在地 / 電話 / URL	過去5年間の採用実績	企業の概要・特色
21	青和信用組合	〒125-0054 葛飾区高砂 2-40-4	高校卒 四大卒	「限定地域主義」の方針のもと、葛飾区の八町、江戸川区の二町、足立区の五町に居住される皆様と、地域内で事業を営まれる中小企業、並びにそこに勤務される方々を対象に営業しております。
22	第一科学 株式会社	〒113-0021 文京区本駒込 5-28-5	高校卒	小学校、中学校、高校、大学、官公庁（都内）への理科機器、コンピュータ、教育用機材の販売。
23	株式会社 第一成和事務所	〒103-8214 中央区日本橋久松町 11-6 日本橋 TS ビル 8F 03-3669-2831 http://www.d-seiwa.co.jp	四大卒	1957 年創業以来保険代理店として、お客様に適切な保険の提供を通して「安心と安全」な生活と経営の実現に貢献することを目指しています。皆様に安心してキャリア形成いただけるよう「インターシップ・ボランティア等体験活動保険」を提供させていただいております。
24	株式会社 竹尾	〒101-0054 千代田区神田錦町 3-12-6 03-3292-3622 http://www.takeo.co.jp/	高校卒 短大卒 四大卒 大学院卒	1899 年の創業以来、「紙の専門商社」として、一般印刷用紙とファインペーパーの販売を通して環境と文化に貢献してきました。特にファインペーパーでは、メーカーと共同開発し、国内市場の 60% をシェアし市場を牽引してきました。ファインペーパーとは色合いや風合いで人間の五感に訴える紙であり、書籍、パッケージ、カタログ、カレンダーやタグ等数多くの場面で使われております。また、神田の見本帖本店、青山見本帖、大阪の淀屋橋見本帖及び福岡見本帖にて紙の販売の他、紙、デザインとテクノロジーに関する情報を発信しています。
25	株式会社 チバダイス	〒125-0054 葛飾区高砂 1-26-2 03-3696-4441 http://www.chibadies.co.jp	高校卒 高専卒 専修卒 四大卒	プラスチック歯車の金型や金属の歯車を製作。自社歯車の開発や、研究所ではトライボロジーの研究も行っています。売上げの 3 割は海外との取引です。
26	株式会社 ツバサ・ 翼学院グループ	〒125-0054 葛飾区高砂 8-28-12	高校卒 専修卒 高専卒 短大卒 四大卒 大学院卒	発達障害のお子様をはじめとして約 400 名の塾生の学習指導を行なっています（青砥駅前校、青砥北口校、青砥西口校、高砂校、水元校）。児童発達支援・放課後等デイサービス、相談支援事業所、カウンセリングルームを併設。また第一薬科大学付属高校学習センター、ベネッセと連携した英語教室などを運営しています。「発達障害・グレーゾーンの子の受験を突破する学習法」（あさ出版）はアマゾン教育書ランキング No1 を獲得。第 7 回日本でいちばん大切にしたい会社実行委員会特別賞、平成 28 年東京都経営革新奨励賞受賞。
27	鉄道機器 株式会社	〒103-0021 中央区日本橋本石町 4-6-7 03-3271-5341	高校卒 高専卒 四大卒	大正 3 年創業。昭和 62 年の国鉄民営化までは日本国有鉄道の指定工場として鉄道分岐器を専門に製作し、民営化後は JR 各社をはじめ私鉄各社、各都市交通局等向け分岐器の設計・製作・販売を全国的に展開してきました。近時は特に東北新幹線、九州新幹線、北陸新幹線、北海道新幹線用の高速分岐器の納入実績があり、海外にも輸出をしております。
28	東京ガス 株式会社	〒105-8527 港区海岸 1-5-20	高校卒 高専卒 四大卒 大学院卒	東京ガスグループは 1885 年の創業以来 135 年余りにわたり、首都圏を中心とした地域への都市ガス供給を通じて、お客さまの豊かな暮らしや社会の発展を支えてまいりました。エネルギー業界も変革の時代を迎えており、東京ガスも電力・海外・新規サービス等、多様な事業を展開し、様々な側面から「豊かで潤いのある暮らし、活力に溢れ競争力のある産業、環境に優しい安心できる社会」の実現に貢献してまいります。
29	東京商工会議所	〒100-0005 千代田区丸の内 3-2-2 6F https://www.tokyo-cci.or.jp/	四大卒	東京商工会議所は東京 23 区内の会員（商工業者）で構成される民間の総合経済団体です。1878 年に設立され、商工業の総合的な発達と社会一般の福祉の増進を目的に、経営支援活動、政策活動、地域振興活動の 3 つを柱として活動しています。
30	東京書籍 株式会社	〒114-8524 北区堀船 2-17-1 https://www.tokyo-shoseki.co.jp/	四大卒 大学院卒	1909（明治 42）年創業。「教育と文化を通じて人づくり」を企業理念とし、新しい時代に挑戦する個性的、創造的な人材の育成を目指す。小・中・高校教科書発行部数は業界首位。学習教材・指導用教材・学習参考書も発行。デジタル教科書やアプリなどのデジタルコンテンツの開発・販売、教育総合ポータルサイト運営などのインターネットサービス、学力・体力テストなどの各種評価事業、一般書籍・辞典等の出版に加え、日本語検定関連業務も行っている。

	企業会員名	所在地 / 電話 / URL	過去5年間の採用実績	企業の概要・特色
31	公益社団法人 東京都専修学校 各種学校協会	〒151-0053 渋谷区代々木 1-58-1 石山ビル 6F 03-3378-9601 https://tsk.or.jp	—	東京都内の専修学校各種学校を代表する唯一の団体です。会員校の連携、協力のもと専修・各種学校教育の改善発展に貢献し、職業教育の振興普及を図ることを目的としています。1961年に設立され2012年に公益法人認定を受けました。会員校数は317校（2022年11月現在）
32	有限会社 東京プリンテック	〒154-0023 世田谷区若林 1-23-4	—	“信頼を紙上に示す”をモットーに、お客様のご要望にきめ細かく対応することを心がけております。名刺・封筒・カタログ・冊子まで、便利な街の印刷屋さんを目指しています。
33	ドリームガーデンズ 株式会社	〒114-0003 北区豊島 8-1-1 03-3927-1123 http://www.angel-foods.com	四大卒 大学院卒	1965年創業、「あったらいいなを、明日の心ときめく暮らしに」を経営理念に幼稚園給食のリーディングカンパニーとして、一日3万食を提供しております。幼稚園給食としては日本一の製造数を誇っております。事業内容としましては、メイン事業のフードサービス事業、介護事業、教育事業、衛生事業、不動産賃貸事業があり、5つの事業を運営しています。
34	株式会社 日刊工業新聞社	〒103-8548 中央区日本橋小網町 14-1	四大卒 大学院卒	「モノづくり立国」「技術立国」「中小企業振興」を理念とする我が国唯一の産業総合紙。創刊は1915年（大正4）。国際ロボット展をはじめとするイベント事業も大きく展開する。
35	日本広告 株式会社	〒170-0001 豊島区西果嶋 4-19-1 03-3918-3161 http://nihon-ad.c.ooco.jp	高校卒 専修卒 四大卒	昭和20年創業。以来、電柱広告、交通広告をはじめとする屋外広告物の販売代理店として、永年にわたり地域の病院、質店、各種企業、商店等、幅広い業種の皆様の宣伝、誘導案内のお手伝いをしてきた会社です。
36	日本自動ドア 株式会社	〒165-0031 中野区上鷲宮 3-16-5	高校卒 専修卒 高専卒 短大卒 四大卒	日本自動ドアは、人々の暮らしの快適さと利便性の向上を目的とし、高品質の自動ドアエンジンと、迅速で信頼性の高いメンテナンスサービスを提供しています。
37	信川化学工業 株式会社	本社 〒124-0022 葛飾区奥戸 2-20-18 石岡工場 〒315-0002 茨城県石岡市柏原 18-1 0299-23-7181	高校卒	当社は、射出成形によるプラスチック製品の製造をしております。射出成形機を多数保有し、食品・医療・建設・機械・家電・自動車・日用品等様々な分野での実績がございます。現在は、特殊密閉容器製造に力を入れております。
38	株式会社 箸勝本店	〒101-0021 千代田区外神田 3-1-15	—	明治43年創業の割箸専門店です。国内、海外へ業務用から家庭用、粗品用を含め300種類以上の特徴あるお箸を揃えております。昭和25年より宮内庁に白木のお箸を納め始め、今も園遊会など各種行事に納入しております。
39	株式会社 ハチオウ (八嬰)	〒130-0004 墨田区本所 4-29-2 03-3625-8077 https://www.8080.co.jp	高校卒(予定) 高専卒(予定) 短大卒 四大卒 大学院卒	化学系廃棄物の処理、リサイクル、フロンガスの回収・破壊処理など、官公庁・大学・研究所・工場などからでる廃棄物の問題解決する会社です。化学系廃棄物処理というと、化学知識や専門性が必要と思われますが、文系出身社員も多数活躍していて、今後は高卒、高専卒も採用して行く所存です。私たちの仕事は、環境や人体を守ることに直接的に関係し、皆さんの生活にはなくてはならない存在です。ハチオウは化学物質の恩恵が、持続可能な社会と調和するために挑戦し続けます。
40	日野自動車 株式会社	〒191-8660 日野市日野台 3-1-1	中学卒	「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」を社会的使命として掲げ、企業活動と地球環境保全との調和を図るとともに、世界各地域の経済発展に貢献すべく、安全かつ効率のよい輸送を担うトラック・バスの開発・製造・販売・サービスに努めております。

	企業会員名	所在地 / 電話 / URL	過去5年間の採用実績	企業の概要・特色
41	株式会社 Five Rings	〒105-0004 港区新橋 3-9-10 天翔ビル 5F 03-6402-4402	—	資産形成コンサルタント業。100年時代という言葉をよく目にしますが、弊社では10年以上前から「人生計画」「資産計画」の必要性を感じ、会社の将来、また家庭や人生のコンサルティングを行ってきました。 【経営支援事業】 ①経営計画：理念、目的、方針、PDCA ②人材：組織研修、パートナー③リスクマネジメント：人、金、生損保、融資④マーケティング⑤社会貢献 【資金形成事業】仕事、家庭、お金、知識、健康を豊かなものにしていく 【エクスペリエンス事業】人生を豊かにする活動すべて
42	ベストワールド 株式会社 (休会中)	〒101-0047 千代田区内神田 1-7-4 03-3295-4111	四大卒	海外視察・研修旅行をお世話して50年。各教職員派遣をはじめ、業界別視察旅行、中高生対象の英語研修・ホームステイ、企業の社員旅行等を多数主催しております。また、オーダーメイド旅行も承ります。
43	山崎教育システム 株式会社	〒189-0003 東村山市久米川町 5-33-24	四大卒	全国中学校、高等学校オリジナル実習教材、教育用ソフトウェア企画、開発、販売（全国代理店350社）。
44	株式会社 読売新聞東京本社 (休会中)	〒100-8055 千代田区大手町 1-7-1	四大卒 大学院卒	「読売新聞」は1874年(明治7年)11月の創刊。全国紙として成長し、1994年に発行1000万部を達成した。発行部数は世界一。2011年に「読売 KODOMO 新聞」、2014年に「読売中高生新聞」を創刊した。
45	涼和総合法律事務所 弁護士 飯田 豊浩	〒105-0001 港区虎ノ門 2-2-5 共同通信会館 9 階 03-3586-2418 http://www.ryowa-law.com/	—	2003年に弁護士登録し、19年目を迎えました。 2011年以降、埼玉県内の地方自治体の教育委員会顧問として、学校や教育委員会からの様々なご依頼に対応すると共に、学校の法的対応に関する研修の講師も務めています。 学校で起る諸問題への対応のほかにも、企業からのご依頼（契約書の作成・確認、債権回収、労務対応等）、個人からのご依頼（遺言・相続、離婚、不動産取引等）に幅広く対応すると共に、遺言や相続に関する講演も行っています。
46	ミクニ化学工業 株式会社	〒124-0025 葛飾区西新小岩 5-7-20 03-3697-2121	—	透明石けん・化粧石けんの商品企画及び製造販売、トイレタリー製品の製造販売を行っています。培ってきた技術と次世代に求められる先進性で、「売る商品」ではなく「売れる商品」を提供できるよう開発から製品まで社員全員で努力してきました。 私たちが作り出す石けんが「健やかで清潔でありたい」というお客様の思いに、少しでも役立つように製品作りに日々励んでいます。
47	株式会社 スカイウエーブ	〒124-0025 葛飾区西新小岩 4-7-8 03-5670-3168	—	創立50余年、住宅関連の金属加工を主として高い技術と豊富な実績があります。特に機械設備が充実しており、機械加工、板金加工、プレス加工、溶接などの金属加工の一連の工程をワンストップで受注できる体制があります。 葛飾区に本社工場を構え、茨城県にも工場を展開しています。
48	ダイヤユーキ 株式会社	〒125-0053 葛飾区鎌倉 4-33-7 03-3671-2181	—	1978年の創業以来、一貫してアクリルとポリカーボネートの素材を扱っています。アクリルはプラスチックの中で、最も透明性が高く、ポリカーボネートは耐摩耗性に優れています。 これらの特性を生かした透明パイプ、丸棒、厚板、ブロック、半球ドーム等の製品の開発・販売をメインに、両素材を扱うプロの集団として、特色ある企業を目指しています。
49	有限会社 高橋木箱製作所	〒124-0022 葛飾区奥戸 2-7-7 03-3692-5111	—	昭和33年に各種プラント、精密機器、産業機械など木箱梱包会社として創業し、半世紀を超える歴史と経験を有しております。他社に先駆けてコンピュータソフトを導入し、梱包見積・設計システムを構築し、ソフトウェア事業を開発しました。梱包・包装技術の知見を活用してツーバイフォー住宅パネルの工場生産へと進化させています。
50	株式会社 坂井電気	〒124-0023 葛飾区東新小岩 2-22-1 03-5698-6426 (代表) http://www.sakai-denki.com	高校卒 短大卒 四大卒	設立1979年 本社は葛飾区。支店は埼玉県さいたま市、千葉県佐倉市。電気通信工事業、電気工事業、電気定期調査 企業様との直接取引において長期の信頼関係を築いています。 経営理念は『社員のしあわせ』 能力や、やる気もある残念な人(もったいない人)をなくすため、それぞれの潜在力を発揮できるように考えます。

	企業会員名	所在地 / 電話 / URL	過去5年間の採用実績	企業の概要・特色
51	株式会社 日之出製作所	〒125-0052 葛飾区柴又 3-21-8 03-3607-1843	—	昭和33年創業、オイルシール及び工業用パッキンを主力にゴム成型加工、樹脂製品、機械加工の設計、製作を自社一環の生産体制のもとで、豊富な経験から技術を開発し、新しいニーズに着実に応えてきました。近年業界は益々多様化をたどり、適格な対応を必要とされています。生産現場から出る技術と開発力を生かし、徹底した品質管理の元でユーザーの立場に立って考える小回りのきくメーカーとして歩み続けます。
52	株式会社 関口製作所	〒124-0025 葛飾区西新小岩 5-15-1 03-3692-0357	—	堅実経営を信条に皆様と共に歩み、刻々と変わる社会、経済、環境の中で『顧客が満足する物作りを通じ社会に貢献する』ことを経営理念に「高品質、短納期、低コスト」の実践で、当社の金属加工・製品に厚い信頼をいただいております。
53	松川電気 株式会社	〒124-0023 葛飾区東新小岩 3-16-6 03-3691-8611 http://www.matsukawa-denki.co.jp	高校卒 四大卒	機械装置メーカー及び自動車メーカーの生産設備の電気工事・計装工事及び機械装置・試験装置をコントロールする制御盤の設計・制作を行っています。事業所として川崎営業所・相模原営業所及び本社工場があります。制御盤の制作については ISO9001 を平成17年に取得し現在まで継続しています。お客様の要望を的確に捉え対応することにより信頼を得ています。
54	有限会社 光永ビルサービス	〒125-0062 葛飾区青砥 6-4-9 03-3838-0341 https://koei-bs.com/	高校卒 四大卒	葛飾区で清掃業を営んでおります。突然ですが、健康を守るためにキレイにすべきものは何でしょうか？弊社ではそれを「環境・カラダ・心」と考えています。そして清掃のプロとして環境をキレイにすることで、カラダと心をキレイにし健康に繋げていく。ただ目の前にある汚れをとるだけでなく、その先にある人々の健康や幸せを守ることこそが我々の仕事です。
55	株式会社 セイブ 東京本店	〒140-0013 品川区南大井 6-10-16 03-5471-5971	高校卒 四大卒	都内、神奈川県内の電気設備工事施工会社で社員数50名、創立60周年を迎える会社です。オフィスビルや商業施設などの受変電設備、照明設備、動力設備等をご要望に応じて技術力と機動力で新築からリニューアル工事まで施工をしており「信頼」と「実績」と「情熱」で全社一丸となり100年企業を目指していきます。大型再開発プロジェクト、学校、病院、テーマパーク等施工実績多数あり。国家資格の電気工事士、施工管理技士等の資格取得も入社後は全面バックアップしております。
56	株式会社 杉野ゴム 化学工業所	〒125-0063 葛飾区白鳥 1-4-9 03-3691-2950 http://www.sugino-gomu.co.jp	—	個人・法人のお客様向けに、独自の技術を用いた高性能のゴム製品を開発・製造・販売している、東京都葛飾区の町工場（まちこうば）です。一般のお客様には、「ラバー君（熱を加えるとゴムになる、不思議な粘土）」「地震耐蔵（家具などの下に敷いて、地震の時に動いたり倒れたりするのを抑える製品）」などの自社製品を開発・製造・販売しています。事業者様向けには、防振ゴム、電気関連ゴム、その他各種のゴム製品を開発・製造・販売している他、ゴム製品に関わる、各種の技術的相談・技術指導も承っております。

私立高等学校会員名簿 (16)

50 音順

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和 5 年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
1	愛国高等学校 〒 133-8585 江戸川区西小岩 5-7-1 https://www.aikokugakuen.ac.jp/senior-high/	全	普通科 (160) 商業科 (80) 家政科 (80) 衛生看護科 (40) 衛生看護専攻科 (40)	昭和 13 年創立以来「親切正直」の校訓の下で女子教育を行っている。普通科・商業科の新入生は 1 年次は同一カリキュラムで学び、2 年進級時に普通科 A (一般教養)・B (進学)、商業科「会計」・「情報処理」の 4 コースから学科・コースを選択する。また卒業時に家政科は調理師資格を、衛生看護科は准看護師受験資格・衛生看護専攻科 (2 年課程) は看護師受験資格を取得する。上級学校には上記衛生看護専攻科の他に大学 (人間文化学部)・短期大学 (家政科・栄養士資格)・保育専門学校 (幼児教育科幼稚園教諭免許・保育士資格) がある。
2	安部学院高等学校 〒 114-0005 北区栄町 35-4 https://www.abe-gakuin.ed.jp/index.html	全	商業科 (200)	1940 年 (昭和 15 年) に創立して以来、一貫して「商業科のみの女子高校」として歩み続け、今年、満 81 年を迎えました。在校生には、「5 つの挨拶」「資格取得」に力を入れて指導しています。令和 4 年度 (2022 年度) の新入生から、小型ノートパソコンを導入し、授業の中で活用しています。2 年生からは簿記や秘書検定など、興味・得意分野に分かれて授業を選択出来る「科目選択制」になります。商業科等の検定試験で資格を取得し、さらに上級を目指します。卒業後の進学や就職にも取り組みながら、家庭的な校風の中で過ごします。
3	岩倉高等学校 〒 110-0005 台東区上野 7-8-8 https://www.tky-iwakura-h.ed.jp	全	普通科 (300) 7 限制 (100) 6 限制 (200) 運輸科 (120)	我が国初の鉄道学校として明治 30 年に創立。多くの卒業生が鉄道・運輸業界で活躍している。平成 26 年度から「男女共学」、「普通科・運輸科の 2 科システム」を実施し、学校の変革を進めている。令和 4 年度に普通科を 7 限制・6 限制と改編し、進学教育に注力している。「正心第一」の校訓のもと、「仲間とともに、主体的に学び、考え、創造し、そして行動していく力を身につける」という教育目標を達成するため、充実した環境で多様な教育活動を展開している。
4	NHK 学園高等学校 〒 186-8001 国立市富士見台 2-36-2 https://www.n-gaku.jp/sch/	通	普通科 (3475)	昭和 38 年 (1963 年) にわが国で初めての広域通信制高等学校として開校しました。学習に放送 (NHK 高校講座) を全面的に取り入れ、どこでも学べる学校として多様な生徒への学びを提供しています。不登校傾向の生徒に向けた登校回数の少ないコースから、週 3 日登校のコースまで生徒の個に応じた学び方を用意しています。
5	大森学園高等学校 〒 143-0015 大田区大森西 3-2-12 https://www.omori-gakuen.ed.jp	全	普通科 (280) 特選コース (40) 選抜コース (80) 総進コース (160) 英語コース (2 年次より) 工業科 (80) 機械技術コース 電気技術コース 情報技術コース	昭和 14 年大森地区中小機械業者 62 工場主により大森機械工業徒弟学校を創立。平成 17 年に普通科を設置し大森学園高等学校と現在の校名に変更。現在普通科は 4 コース。特選コースは 6 教科 8 科目に対応するカリキュラムで国公立大学、選抜コースは難関私立大学、総進コースは有名私立大学への進学を目指す。また英語コース (総進コースより 2 年次から選択) はグローバル社会で活躍できる人材の育成を目指す。工業科は 1 年次に工業各分野の基礎を学び、2 年次より機械・電気・情報の 3 コースに分かれ、各種資格も取得しながら専門的技術と知識の習得を目指す。
6	科学技術学園高等学校 〒 157-8562 世田谷区成城 1-11-1 https://tsushin.kagiko.ed.jp/	通	普通科 (2,750) 電気科 (900) 機械科 (600)	昭和 39 年に広域通信制工業高等学校として創立し、昭和 52 年現校名に変更する。企業内訓練校を中心とした技能連携コースと個人を対象とした単位制コースがあり、単位制コースは、登校日数を選んで登校する「通学型クラス」、インターネットでスクーリングを受ける「e ラーニングコース」があり、生徒個々人のライフスタイルに合わせた学習環境を選べるコースを設置している。また、様々な分野で海外へ留学する生徒も多数在籍している。
7	蒲田女子高等学校 〒 144-8544 大田区本羽田 1-4-1 https://www.kanno.ac.jp/	全	普通科 特別進学コース (25) キャリアコース (145) 幼児教育コース (80)	漢学者・教育者である学祖簡野道明の「子どもの教育にとって最も大切なのは母親であり、その母親となる女性の教育こそ教育の根本である」「人間生活を律する根本の筋金は道徳なり」との教育理念に基づき昭和 16 年に夫人の信衛によって設立。特別進学コースは、生徒一人ひとりに的確な学習計画を提供し、合格まで担当教員全員でサポート。個別指導でわかるまで徹底的に指導。キャリアコースは、14 パターンのカリキュラムの中から学びたい授業展開を選択可能。幼児教育コースは、保育者に必要な知識・技術を学び幼稚園教諭と保育士資格の同時取得を目指す。
8	京華商業高等学校 〒 112-8612 文京区白山 5-6-6 https://www.keika-c.ed.jp/	全	商業科 (150)	創立者磯江潤が「豊かな実務知識をそなえた経済人の養成」を目的として 1901 年に設立された学校です。その精神を永きにわたり実践し、多くの優秀な人材を輩出してきました。生徒個々の可能性を大切に個性を伸ばすことはもちろん、資格取得に対応したカリキュラムの編成や放課後講習・夏期講習等を実施しています。自己肯定感を育てながら、進学実績も年々増加しています。実学教育を中心として人間形成に重きを置き、人生の宝物の獲得に主眼を置いた三年間は、卒業生たちの高い満足感に繋がっています。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和5年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
9	昭和第一学園高等学校 〒190-0003 立川市栄町 2-45-8 https://www.sdg.ed.jp	全	普通科 (554) 特別選抜コース (34) 選抜進学コース (120) 総合進学コース (400)	1940 (昭和 15) 年昭和第一工業学校として創立。1989 (平成元) 年より昭和第一学園高等学校と改称し、男女共学、普通科・工学科の総合学園となる。2018 (平成 30) 年 4 月より普通科に新たなコースを設置、グローバル化に対応できる人材の育成を目指す。工学科は 2017 (平成 29) 年度よりコースを統合。他分野を総合的に学びつつ進路希望に合わせて履修科目を選択できる。高大専連携により大学等の実習機材でデジタルなものづくりを学ぶ。進学支援センターによる学習支援、キャリアカウンセラーによる相談、資格取得支援により「確かな学力と豊かな人間性に支えられた人間力の育成」を目指す。
10	昭和鉄道高等学校 〒170-0011 豊島区池袋本町 2-10-1	全	鉄道科 (200)	校名に「鉄道」を冠した、日本で唯一の高校である。昭和 3 年 (1928 年) 創立、以来一貫して、鉄道・交通を中心とする産業教育をすすめる。現在まで 20,000 名以上の卒業生を鉄道界を中心に送り出している。社会情勢に鑑み、平成 16 年 (2004 年) に男女共学とした。鉄道科のみを設置している。
11	大成高等学校 〒181-0012 三鷹市上連雀 6-7-5 https://www.taisei.ed.jp/	全	普通科： 特別進学コース (75) 文理進学コース (290) 情報進学コース (40)	1897 年大成学館尋常中学校として創立以来、校名由来である「大器晩成」を教育理念とし、生徒の個性や可能性をさらに磨き、将来社会に役立つ人間として大きく成長するように、一人ひとりを丁寧に育てる教育方針のもと発展している高等学校です。特に学んだことを活かすための知力を育て、人としての徳を重んじ、課題発見力、問題解決力を身につける教育および何事にも積極的にチャレンジしていく心の教育により、時代に合った人材育成を行っています。情報進学コースは時代を先取りしたカリキュラムが組み込まれているコースです。
12	中央学院大学中央高等学校 〒136-0071 江東区亀戸 7-65-12 http://www.cguch.ed.jp/index.php	全	普通科 (50) 商業科 (50)	本校は令和 2 年に 120 周年を迎えました。永い歴史と伝統の中で、「誠実に謙虚に生きよ 温かい心で人に接し 奉仕と感謝の心を忘れるな 常に身を慎み 反省と研鑽を忘れるな」の建学の精神の下「倫理観」を持った誠実な人間の育成を指導理念として、人格教育を実施しています。生徒一人ひとりの興味・関心・能力を見極め、秘めた可能性を引き出すことに力を注いだ教育活動に励んでいます。全生徒がタブレットを持ち、電子黒板兼用プロジェクターを活用した ICT 教育を実施し、進学においても中央学院大学への優先入学とともに、幅広い進路に配慮した指導をおこなっています。
13	東京実業高等学校 〒144-0051 大田区西蒲田 8-18-1 https://www.tojitsu.ed.jp/	全	機械科機械システムコース (135) 電気科電気システムコース (45) 電気科ゲーム IT コース (45) 普通科探究コース (45) 普通科総合コース (135) 普通科ビジネスコース (90)	1922 年創立の総合学園として、各科各コースの生徒は目的を持って学校生活を送っています。また、未来を見据えたキャリア教育である「フェニックスプログラム」を独自開発し、生徒一人ひとりの輝ける未来を支えつつ「探究学習」を推進して、目的意識の高い進路実現を果たします。
14	日本工業大学駒場高等学校 〒153-8508 目黒区駒場 1-35-32 http://nit-komaba.ed.jp/	全	普通科： 特進コース (35) 理数特進コース (35) 総合進学コース (105) 文理未来コース (70)	明治 40 年創立の本校は工業教育一筋に運営して来ましたが、平成 20 年に普通科 3 コース (特進・理数特進・総合進学) を併設して中堅進学校を目指す方途を選びました。この 10 年間の普通科運営の成果を基礎に 3 コースに加え“つくる喜びの体験”を大切に「文理未来コース」を設け、令和 3 年度より普通科専一校として新たな目標に向かってスタートを切りました。「高い自己目標の実現と楽しい学校生活の調和」を目指すこと、周りには優しく、自己には厳しく律する勁い心を育む努力を続けること、を掲げ日々、生徒と向き合っています。
15	日野工業高等学園 〒191-8660 日野市日野台 3-1-1 http://www.hino.co.jp/hinogakuen/	通	(60)	日野自動車株式会社にある、「モノづくり」のリーダーの育成を目指す企業内訓練校です。科学技術学園高等学校と連携し、高等学校教育を学びながら専門技能の習得を行います。授業、実習、クラブ活動、様々な学校行事があり、生産職場での実習も行います。知識・技能だけでなく、心の育成にも重点をおき、心技体のバランスのとれた人材を育成し、卒業後は各職場で活躍しています。
16	広尾学園小石川高等学校 〒113-8665 文京区本駒込 2-29-1 https://hiroo-koishikawa.ed.jp/	全	普通科 インターナショナル (AG) (40) インターナショナル (SG) (40) 本科 (40)	2021 年 4 月より校名を広尾学園小石川高等学校と変更し、新しい一歩をスタートしました。現代のグローバル化が進み多様性が求められる時代を生きる、これからの生徒たちのために、知識だけではなく、ものごとの本質を探究する学びを提供します。インターナショナルコースは、各分野の外国人教員が英語で授業を行う AG と、入学してから英語力を伸ばしていく SG が融合してクラスを構成。お互いに刺激しあいながら成長します。本科コースは、1 年から本格的キャリア教育プログラムを経験して視野を広げ、学習習慣を確立します。

都立高等学校会員名簿(63)

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和5年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
農業に関する学科				
1 1 1	都立園芸高等学校 〒158-8566 世田谷区深沢 5-38-1 https://www.metro.ed.jp/tokyo.jp/	全	園芸科 (70) 食品科 (35) 動物科 (35)	1908 年(明治 41 年)に創立し 114 年の歴史を有する、全国農業系高校の中心校です。100 年前に日本からサクラを送ったお礼に米国から頂いた「ハナミズキ」が我が国で唯一現存しており、107 年の樹齢を重ねています。さらに、徳川三代将軍家光公遺愛の松の盆栽など歴史的財産が校内随所にあります。全日制は園芸科、食品科、動物科があり、「体験・体感」を重視し、生徒の多様な進路を実現しています。進学が 9 割、就職が 1 割で、生徒の第一志望の実現を図っています。スマート農業に関する先端技術の学習にも力を入れています。
1 2	都立園芸高等学校 〒158-8566 世田谷区深沢 5-38-1 https://www.metro.ed.jp/engei-he/	定	園芸科 (30)	1908 年(明治 41 年)に創立し 114 年の歴史を有する農業高校です。1 学年 1 クラスです。学校の雰囲気は落ち着いていて、安心・安全な学校生活を送ることができます。地域と連携した活動や近隣の官公署への花壇植栽などを行っています。農業実習とともに基礎学力の定着と向上を重視したカリキュラムと地域連携による進路指導が充実しています。卒業までに国家資格、造園技能士 3 級またはフラワー装飾技能士 3 級の取得を目指します(合格実績 100%)。三年修業制とともに大人を対象とした園芸技術専修生制度もあります。
2 1	都立農業高等学校 〒183-0056 府中市寿町 1-10-2 http://www.nogyo-h.metro.tokyo.jp/	全	【農業に関する学科】 都市園芸科 (35) 緑地計画科 (35) 食品科学科 (35) 【家庭に関する学科】 服飾科 (35) 食物科 (35)	全日制課程は、『夢を創造する農業・家庭のプロフェッショナル』を未来の生徒像として、普通科教育並びに農業・家庭に関する専門教育を通じて、個性豊かで想像力あふれ、豊かな感性と思いやりの心をもつ人材を育成する。農業に関する学科(都市園芸科、緑地計画科、食品科学科)では、都立高校初の東京都 GAP 認証取得や、府中市と連携した環境保全活動に取り組んでいる。都立高校唯一の学科である家庭に関する学科の服飾科と食物科(調理師免許が取得できる)では、ファッションクリエイターや食生活の充実に貢献する調理師を育成している。
2 2	都立農業高等学校 〒183-0056 府中市寿町 1-10-2 http://www.nogyo-h.metro.tokyo.jp/	定	食品化学科 (30) 普通科 (30)	定時制課程では、「他者への思いやりをもって、未来を切り拓く人間の育成」を達成するため、普通科および食品化学科としての特色ある教育活動を展開し、将来のスペシャリストとして必要な基礎・基本を身に付けるとともに規範意識を向上させ、一人ひとりの進路実現を目指している。
3 1	都立農芸高等学校 〒167-0035 杉並区今川 3-25-1 http://www.nogei-h.metro.tokyo.jp/	全	園芸科学科 (35) 食品科学科 (70) 緑地環境科 (35)	明治 33 年創立。都立農業系高校の中で一番歴史のある学校です。都心の住宅地において、緑に囲まれた校舎と実習棟や農場など広大な校地を有し、生徒は夢の実現に向けて伸び伸びと学習しています。「環境教育実践宣言校」として、都市及び自然環境、食環境などの創造とゴミの減量・節電等に取り組み、持続可能な産業社会を担う人材の育成を目指しています。都庁前広場や地元阿佐ヶ谷駅前の花壇作り、保育園・小学校等の児童との農場体験活動など、普段の学習を生かせる場も多く、生徒は主体性と自己有用感を育んでいます。都立高校唯一の馬術部を設置。東京都 GAP、JGAP 認証取得。
3 2	都立農芸高等学校 〒167-0035 杉並区今川 3-25-1 http://www.nogei-h.metro.tokyo.jp/	定	農芸科 (30)	定時制課程農芸科は昭和 23 年 4 月に生徒定員 4 学級 160 名として全日制課程に併設され、昭和 48 年 4 月に 4 学級 120 名に改組され、令和 2 年に創立 70 周年を迎えました。都心の住宅地において、緑に囲まれた校舎と実習棟や温室、農場などを有しており、生徒は落ち着いた雰囲気の中で、夢の実現に向けて伸び伸びと学習しています。学習面では普通科目とともに園芸・食品分野の農業の専門科目を少人数で学習し、知識・技術を確実に身に付けています。また、「時を守り、場を清め、礼を正す」の農芸三訓のもとで、基本的生活習慣を身に付けています。さらに、点字図書館と連携した地域貢献活動にも取り組んでいます。
4 1	都立農産高等学校 〒124-0002 葛飾区西亀有 1-28-1 https://www.metro.ed.jp/nosan-h/	全	園芸デザイン科 (70) 食品科 (70)	東京都東部にある唯一の農業高校で、「食と緑と農を創造する学校」として地域に根ざした教育活動が行われている。全日制では、2 学科 4 クラスを設置している。園芸デザイン科では、草花や野菜の栽培、バイオテクノロジー、フラワーデザイン、造園など、食品科では食品の原材料の栽培から加工・流通、食品化学実験、食品デザインまで幅広く関連分野を体験しながら学んでいる。キャリア教育の充実や農業の 6 次産業化を踏まえた実践的な学習、学校農業クラブ活動の充実、FFJ 検定の実施、アグリマイスター顕彰制度への取り組みなどをおして自己の可能性を伸長させるとともに、農業関連分野を中心とした生徒の第一志望の実現を図る教育活動を展開している。
4 2	都立農産高等学校 〒124-0002 葛飾区西亀有 1-28-1 https://www.metro.ed.jp/nosan-he/	定	農産科 (30)	定時制は、農産科を擁し、園芸系と食品系の両方を学べる農業高校として、農業の 6 次産業化を踏まえた実践的な学習など、農業関連分野を中心とした生徒の第一志望の実現を図る教育活動を展開しています。園芸系は、野菜分野では有機無農薬栽培や不耕起栽培を大きな特長としており、また、草花分野では花卉の栽培やフラワーアレンジメントなどを学びます。食品系は、食品の素材の特性を生かした、パン・和洋菓子・ジャム・味噌・ソーセージなどの日常的な食品の加工を中心に学んだり、食品の分析(定性・定量)などを学習します。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和5年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
5 1	都立瑞穂農芸高等学校 〒190-1211 西多摩郡瑞穂町石畑 2027 https://www.metro.ed.jp/mizuhonogei-h/	全	畜産科学科 (35) 園芸科学科 (35) 食品科 (35) 生活デザイン科 (70)	生命（いのち）に学ぶ学校～生命（いのち）に学び夢を叶える～をキャッチコピーに、地域密着型の教育を推進している。園芸科学科の駅や町をはじめ都民広場での花壇作り。畜産科学科の移動動物園や動物ふれあい体験活動。食品科の江戸東京野菜を用いた「七色唐辛子」による地域活性化プロジェクト。生活デザイン科の高齢者施設や保育所等への訪問とボランティア活動などの取組みは、地域から大きく期待されている。
5 2	都立瑞穂農芸高等学校 〒190-1211 西多摩郡瑞穂町石畑 2027 https://www.metro.ed.jp/mizuhonogei-he/	定	併合科（普通・農業）(30)	校訓「至誠」「勤勉」「創造」をもとに、普通科の生徒も農業を学び、「生命（いのち）に学ぶ学校」としての特徴を發揮し、生命や環境についての学習を通して「知る」「わかる」「できる」「つかう」の4ステップで生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばすとともに、豊かな心をもつ自立した社会人を育成する学校を目指しています。里山保全への取組や瑞穂町ボランティア、農業ボランティアなど、地域密着型の教育を推進しています。

工業に関する学科

6	都立足立工業高等学校 (都立足立工科高等学校 令和5年4月から) 〒123-0841 足立区西新井 4-30-1 https://www.metro.ed.jp/adachikogyo-h/	全	総合技術科 (140)	本校は、昭和38年に開校した工業高等学校で、平成9年に学科改編し総合技術科となった。 令和4年度の新学習指導要領導入に伴い、教育課程を見直し、新たに機械コース・電気システムコース・制御システムコース・情報コミュニケーションコースの4コースに再編成を行い、2年生から各コースを選択する。2年生全員のインターンシップでは足立区内の企業を中心に実施し、地域密着と地域連携を推進している。 令和4年度より「防災教育研究指定校」、「TOKYO ACTIVEACTIVE PLAN for students」に基づき、「エンジョイススポーツプロジェクト」モデル事業指定。
7 1	都立荒川工業高等学校 (都立荒川工科高等学校 令和5年4月から) 〒116-0003 荒川区南千住 6-42-1 https://www.metro.ed.jp/arakawakogyo-h/	全	電気科 (35) 電子科 (35) 情報技術科 (70)	「進路指導重点主義」を教育理念とし、基礎的・基本的な知識・技術及び規範意識をもって自らの発言や行動を律することができる力を基盤として、ものづくりの楽しさを感じ、働くことの意義を理解し、様々な問題や課題の解決を図ることができる人材を育成します。 令和5年度より、「A-FUNS（東京 P-TECH）」事業に取組、IT人材育成のための新たな教育プログラムを開発・実施します。在学中は資格の取得や検定の合格を目指して、充実した高校生活へと導き、知・徳・体をバランスよく育成する学校を目指します。
7 2	都立荒川工業高等学校 (都立荒川工科高等学校 令和5年4月から) 〒116-0003 荒川区南千住 6-42-1 https://www.metro.ed.jp/arakawakogyo-he/	定	電気・電子科 (30)	本校は、都立学校唯一の電気系の専門学科のみを設置する夜間の工科高校です。電気科と電子科の二つの学科を設置し、1・2年生で基礎を学び、3・4年生では各分野の専門的な知識・技術を深めるなど、ゆっくり学ぶ学習環境の中で進路実現を図っています。 また、専門的な「学び」を生かして、荒川区と連携した「小学生電子提灯づくり」を実施するなど、地域連携を推進し社会貢献活動に取り組んでいます。
8	都立葛西工業高等学校 (都立葛西工科高等学校 令和5年4月から) 〒134-0024 江戸川区一之江 7-68-1	全	機械科 (35) 電子科 (35) 建築科 (70) デュアルシステム科 (35)	昭和38年に開校した本校は、東京都教育委員会よりデュアルシステム科設置の指定を受け平成30年度より新しくなりました。機械科・電子科・建築科・デュアルシステム科の4科5クラスの学校になりました。 ①地域産業と連携した授業を行っています。②施設が充実しており、設備拠点校実習を行っています。③地元の「ねぶた祭」とおして、小中学校と連携しています。④防災教育として地域の消防関係と連携しています。また、幼稚園の避難訓練をサポート等、様々な機関と連携し地域貢献をおとした、工業人・職業人の育成を目指しています。
9 1	都立北豊島工業高等学校 (都立北豊島工科高等学校 令和5年4月から) 〒174-0062 板橋区富士見町 28-1 https://www.metro.ed.jp/kitatoshimakogyo-h/	全	総合技術科 (140)	大正9年(1920年)に創設され、令和2年(2020年)に100周年を迎えた伝統ある工業高校です。機械系と電気系の総合技術科として工業に関する技術技能を広く学び社会に貢献できる人材育成に取り組んでいます。資格としても電気工事士、危険物取扱者、工事担任者など社会で役立つ資格取得に力を入れ、確かな進路実現を図り進路決定100%を堅持しています。東京都教育委員会よりデュアルシステム推進校としての指定を受け、企業と連携した人材育成も行っている。また、工業実習の設備拠点校としての指定も受けており、施設設備を整え近隣の工業高校と連携し、ものづくり技術技能の習得継承に力を入れている。現在までに2万人を超える卒業生を輩出している。
9 2	都立北豊島工業高等学校 (都立北豊島工科高等学校 令和5年4月から) 〒174-0062 板橋区富士見町 28-1 http://www.kitatoshimakogyo-h.metro.tokyo.jp/site/tei/	定	機械科 (30)	歴史は全日制と同様で100年を超えている。現在では機械科単科の定時制工業高校として生徒の育成を行っている。募集人員は学年1クラス、4学年で各学年30名の募集定員である。ものづくりの加工技術技能を習得し、確かな進路実現を目指し人材育成に取り組んでいる。少人数での教育を行い、基礎学力定着を図り、近年では進路決定100%、定着率も90%以上と非常に上がっている。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和 5 年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
10 1	都立蔵前工業高等学校 (都立蔵前工科高等学校 令和 5 年 4 月から) 〒 111-0051 台東区蔵前 1-3-57 https://metro.ed.jp/kuramaekogyo-h/	全	機械科 (70) 建築科 (35) 電気科 (35) 設備工業科 (35)	創立 90 年を超える伝統に裏打ちされた教育活動により、多くの卒業生が産業界で活躍し、日本の工業界をリードしている。 産業界における技術革新や DX 等に対応できるスペシャリストの育成を目指したものづくり人材育成教育を実践している。令和 5 年度より機械科に「ロボティクスコース」を新設し、将来のロボット Sier の育成を進める。進路指導では、就職希望者は高度な技術・技能と資格取得により企業で即戦力となる人材、進学希望者は理工系大学へ進学する学力を確実に身に付ける指導を実践している。
10 2	都立蔵前工業高等学校 (都立蔵前工科高等学校 令和 5 年 4 月から) 〒 111-0051 台東区蔵前 1-3-57 https://metro.ed.jp/kuramaekogyo-he/	定	建築工学科 (30)	創立 90 年を超える伝統に裏打ちされた教育活動により、多くの卒業生が産業界で活躍し、日本の工業界をリードしている。 都内の定時制課程で唯一「建築と設備工業」の専門を学べる。学修方法によっては、3 年間で卒業も可能。学外単位の履修も弾力的に認定し、学ぶ側に立った教育活動を展開している。
11 1	都立工芸高等学校 〒 113-0033 文京区本郷 1-3-9 http://www.kogei-h.metro.tokyo.jp/	全	マシクラフト科 (35) アートクラフト科 (35) インテリア科 (35) デザイン科 (35) グラフィックアーツ科 (35)	本校は、100 年を超える伝統と実績をもつ都内で唯一の工芸・デザイン系の専門高校です。Only One のものづくりを通して個性と創造力を伸ばし、心豊かな人間性のある生徒を育てています。 開校以来 2 万人を超える卒業生の中には、人間国宝の方・文化勲章受章者も多く、デザイナー、ディレクター、作家、エンジニアなど社会で幅広く活躍しています。 また、在校生の活躍もめざましく、高校生ものづくりコンテスト全国大会での優勝や大学生を対象としたコンペで大賞を受賞するなど各種の競技で常に上位入賞を果たし、ものづくり・デザイン等における生徒の実力、教育実践は全国のトップクラスで内外から高く評価されています。 卒業後の進路は、進学の割合が多く美術系の国公立大学を中心に幅広い分野へ進学しています。
11 2	都立工芸高等学校 〒 113-0033 文京区本郷 1-3-9 https://www.metro.ed.jp/kogei-he/	定	マシクラフト科 (30) アートクラフト科 (30) インテリア科 (30) グラフィックアーツ科 (30)	本校は、明治 40 (1907) 年京橋区に誕生し、昭和 2 (1927) 年に水道橋に移転しました。そしてその後 100 年を超える歴史と輝かしい伝統を受け継いで、今日に至っています。本校の校訓は「誠実・元気・信愛・規律」です。工業・デザイン系高等学校の特色ある授業内容を全都から多くのものづくりに興味のある生徒たちが通学し、創作活動を続けています。4 年間しっかり努力した生徒には大学、短大、専門学校へ進学する道も開かれています。充実した学校生活を送ることができる全国でも有数のスクールです。
12	都立小金井工業高等学校 (都立小金井工科高等学校 令和 5 年 4 月から) 〒 184-0004 小金井市本町 6-8-9 http://www.koganeikogyo-h.metro.tokyo.jp/site/tei/	定	機械科 (30) 電気科・電子科 (30)	平成 22 年 3 月に全日制課程が閉課程となり、平成 22 年度から多摩地区唯一の定時制単独の工業高校です。 思いやりをもって他者と協働し、その時代に貢献できる社会人の育成を目指して、授業だけでなく資格の取得に向けて様々な講習会を行っています。
13	都立杉並工業高等学校 (都立杉並工科高等学校 令和 5 年 4 月から) 〒 167-0023 杉並区上井草 4-13-31	全	機械科 (70) 電子科 (35) 理工環境科 (35)	本校は、「学ぶ・創る・考える 未来のスペシャリストを目指して」「ものづくりの心をもって 将来を切り拓く、無限なる可能性」2 つのスローガンを掲げ、58 年の伝統の上に新しい伝統の上に新しい取り組みを重ね一人一人の夢の実現に向けた教育活動を行っています。 「課題研究」を柱に普通教科と専門教科を融合体系化した教育課程を実践し、授業を通じて生徒の学力を伸ばしています。そして、部活動・特別活動を通じて、心身を鍛え、思考力・判断力・表現力を磨き、人間力を磨いています。
14 1	都立墨田工業高等学校 (都立墨田工科高等学校 令和 5 年 4 月から) 〒 135-0004 江東区森下 5-1-7 http://www.sumida-th.metro.tokyo.jp/	全	機械科 (35) 自動車科 (35) 電気科 (70) 建築科 (35)	令和 4 年に創立 122 年目を迎えた都内有数の伝統校である。専門学科に機械、自動車、電気、建築の 4 学科を設置した工業高校として、自治・勤労・敬愛を校訓に掲げ、技術力を身につけた社会に役立つ人材の育成を行っている。資格取得や各種検定試験の合格に向けた指導に力を入れるほか、関連企業や外部人材を活用した実践的な教育に取り組んでいる。さらに、都内トップの求人倍率を誇り進路希望達成率 100% を維持している。これまでに、多くの卒業生が産業界をはじめ各方面で活躍しており、国内はもとより海外でも活躍の場を広げている。
14 2	都立墨田工業高等学校 (都立墨田工科高等学校 令和 5 年 4 月から) 〒 135-0004 江東区森下 5-1-7 http://www.sumida-th.metro.tokyo.jp/	定	総合技術科 (30)	定時制は、総合技術科として括り募集を行い、1 学年 2 学期より機械、電気、自動車、建築・大工の 4 コースに分かれ、より深く専門科目を学ぶ。始業前 10 分間の基礎学習時間を設け、基礎学力の定着を図るとともに、放課後等の時間を活用し資格取得指導にも力を入れている。キャリア教育の一環としてインターシップを 3 学年で実施し、全日制同様進路希望達成率 100% を実現している。さらに、外部人材を活用するなど生徒一人一人に応じた実践的教育にも取り組んでいる。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和5年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
15 1	都立総合工科高等学校 〒157-0066 世田谷区成城 9-25-1 https://www.metro.ed.jp/sogokoka-h/	全	機械・自動車科 (35) 電気・情報デザイン科 (70) 建築・都市工学科 (70)	平成18年に2つの工業高校を発展的に統合して開校した。東京ドーム1.2個分の敷地を持つ恵まれた環境な環境の中で、全日制は、理工系大学進学を目指した教育課程を編成し、3年次には多数の選択科目を設定することで多様な希望進路実現を図る。部活動も活発で、運動系11、文化系12の団体が活動している。令和5年4月から産業DXへ対応した先端技術の学習が始まります。
15 2	都立総合工科高等学校 〒157-0066 世田谷区成城 9-25-1 https://www.metro.ed.jp/sogokoka-he/	定	総合技術科 (30)	平成18年に2つの工業高校を発展的に統合して開校した。東京ドーム1.2個分の敷地を持つ恵まれた環境の中で、充実した教育活動を実施している。「面倒見のよい総工」を合言葉に、定時制は、資格取得を中心に、2年次から自動車、電気、建築コースの3コースが選択できる教育課程を編成している。部活動は全員加入、進路実現率は8年連続100%である。自校調理で、安価で毎日温かく美味しい給食を提供。
16	都立田無工業高等学校 (都立田無工科高等学校 令和5年4月から) 〒188-0013 西東京市向台町 1-9-1 http://www.tanashikougyo-h.metro.tokyo.jp/site/zen/	全	機械科 (70) 建築科 (70) 都市工学科 (35)	本校は昭和37年12月に開校し、創立60年目を迎えた工業高校である。設置学科は機械・建築・都市工学の3学科からなり、都市工学科は全国でも数少ない学科である。また建築科は多摩地区では本校のみに設置されている。「地域との連携」「資格取得」に重点を置いた教育が本校の特色である。「デュアルシステム」を導入し体系的なキャリア教育を実践することで、多くの卒業生が地域産業の技術者として活躍している。Tokyo2020レガシーとして「ものづくり」を通じた障害者・高齢者理解教育の推進にも取り組んでいる。
17	都立多摩工業高等学校 (都立多摩工科高等学校 令和5年4月から) 〒197-0003 福生市熊川 215 http://www.tamakogyo-h.metro.tokyo.jp/	全	機械科 (70) 電気科 (35) 環境化学 (35) デュアルシステム科 (35)	本校は、都立工業高校モデル校として、平成30年度より機械・電気・環境化学の3科すべてを学べるデュアルシステム科を開設した。地域企業の求める人材の育成につながり、産業界から評価されている。各科とも資格取得に向けて積極的に指導が実践され成果を出している。多くの部活動で本校が会場校になるなど、活発に活動し大きな成果をあげている。
18 1	都立中野工業高等学校 (都立中野工科高等学校 令和5年4月から) 〒165-0027 中野区野方 3-5-5 https://www.metro.ed.jp/nakanokogyo-h/	全	キャリア技術科 (140)	全日制課程は、工業の専門高校としては2校目のエンカレッジスクールです。可能性はありながら力を発揮しきれずにいる生徒が、3年間を通して社会人として必要な基礎・基本を身に付けます。また、ものづくり（食品工業、工業化学、機械）を通して自己の在り方生き方を見つめ、社会人として自立していく力を培うために自らの可能性を信じてチャレンジする学校です。
18 2	都立中野工業高等学校 (都立中野工科高等学校 令和5年4月から) 〒165-0027 中野区野方 3-5-5 https://www.metro.ed.jp/nakanokogyo-he/	定	総合技術科 (30)	定時制課程では、総合技術科において、1年次後半から「機械類型」、「食品工業類型」を選択して本格的に専門分野を学習します。機械類型では、ものづくりを通して、総合的な機械操作と技能を学び、機械製作の基本を学ぶことができます。食品工業類型は、都立の工業高校で唯一学べます。食品工業に関する専門的な技術や知識を学ぶことができます。
19	都立練馬工業高等学校 (都立練馬工科高等学校 令和5年4月から) 〒179-8909 練馬区早宮 2-9-18 https://www.metro.ed.jp/nerimakogyo-h/	全	キャリア技術科 (175)	平成18年度から、生徒の「やる気」を応援し頑張りを励ます学校として、工業高校初のエンカレッジスクール「キャリア技術科」をスタートさせました。基礎の基礎から学び直すことができ、工業分野の幅広い知識・技術を体験的に学びながら適性を見つけ、それを将来の進路選択に生かせる学校です。就業体験や資格取得にも力を入れ、3年生では5系列（機械加工技術、自動車技術、電気設備技術、電子コンピュータ技術、デザイン工芸技術）から選択して、より専門的な学習を行います。令和4年度からは、学校法人小山学園（3つの専門学校）と高専連携（教育課程による授業連携）をスタートしています。
20	都立府中工業高等学校 (都立府中工科高等学校 令和5年4月から) 〒183-0005 府中市若松町 2-19-1 https://www.metro.ed.jp/fuchukogyo-h/	全	機械科 (35) 電気科 (70) 情報技術科 (35) 工業技術科 (35)	・第一種電気工事士17名、第二種電気工事士98名の合格者を輩出した。ITパスポート、DD2種等の合格者も増加し、実務に即した資格を取得させる教育活動を展開している。 ・部活動では、インターハイ出場の陸上競技部、都大会ベスト16の硬式野球部、パフォーマンスロボット全国大会出場のコンピュータ部をはじめ、サッカー部、卓球部、剣道部、バスケット部、軽音学部、自動車整備部等が活発に活動し、地域交流活動も含めて実績を上げている。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和 5 年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
21	都立本所工業高等学校 (都立本所工科高等学校 令和 5 年 4 月から) 〒 125-0035 葛飾区南水元 4-21-1 https://www.metro.ed.jp/honjokogyo-he/	定	総合技術科 (30)	- 本校は、80年以上の伝統ある夜間定時制の工業高校です。1学年では、総合技術科として工業の基礎全般を学び、2学年からは機械・電気・電子の各類型に希望で分かれて専門知識や技術を学習します。 4年間にわたるキャリア教育を充実させ、生徒の意欲を引き出し進路実現に繋げる「面倒見のよい学校」です。 - 基礎学力の充実とものづくりの技術力向上を推進し、きめ細かい専門教育や生活指導、資格取得の推奨、校外学習、奉仕体験活動、文化祭、防災活動、インターンシップなど、地域連携を行いながら交流を深めていく学校です。
22	都立町田工業高等学校 (都立町田工科高等学校 令和 5 年 4 月から) 〒 194-0035 町田市忠生 1-20-2 http://www.machidakogyo-h.metro.tokyo.jp/site/zen/	全	総合情報科 (175)	本校は、きめ細かな指導体制と充実した施設・設備を備えた都立で唯一の「総合情報科」の工業高校です。1年生では工業基礎科目を学習し、2・3年生では興味・関心、進路希望に基づき「情報デザイン」「情報テクノロジー」「電気システム」「機械システム」の4系列の中から一つに所属します。 また、令和3年度からIT企業3社と専門学校と連携した日本初のIT人材育成のための教育プログラム「Tokyo P-TECH」を実施しており、企業等との連携を通して専門性を深めるとともに社会人基礎力を高め「Society5.0」で活躍できる技術者の育成を目指しています。

工業に関する学科 (単位制)

23 1	都立六郷工科高等学校 〒 144-8506 大田区東六郷 2-18-2 http://www.rokugokoka-h.metro.tokyo.jp/	全	プロダクト工学科 (35) オートモビル工学科 (35) システム工学科 (35) デザイン工学科 (35) デュアルシステム科 (35) ※在京外国人生徒選抜全学科 (各3名)	平成16年4月に開校し、全国初の東京版デュアルシステム、夜間定時制課程を設置しています。将来のものづくりを担う人材育成に向けて、地域企業と連携を行いながら取り組んでいます。令和2年度より日本工学院専門学校との教育連携によるAIシステム・eスポーツ等の先端技術を学べる新規講座を開設しました。先端技術を駆使した教育活動が学べる学校です。定時制は、3修制を取り入れた生産工学科と普通科があり、地域商店街や他校と連携した“ねぶた祭り”に取組、16年の伝統を持つ学校行事です。
23 2	都立六郷工科高等学校 〒 144-8506 大田区東六郷 2-18-2 http://www.rokugokoka-h.metro.tokyo.jp/	定	普通科 (30) 生産工学科 (30)	平成16年4月に開校し夜間定時制課程を設置し、将来のものづくりを担う人材育成に向けて、地域企業と連携を行いながら取り組んでいます。 3修制を取り入れた生産工学科と普通科があり、地域商店街や他校と連携した“ねぶた祭り”の取組は17年の伝統を持つ学校行事となっています。

科学技術科

24	都立科学技術高等学校 〒 136-0072 江東区大島 1-2-31	全	科学技術科 (210)	平成13年に都立高校で初めて「科学技術科」を設置した進学型専門高校です。開校以来、科学技術教育を通じて、創造性、問題解決能力、コミュニケーション能力を養い、将来の科学技術者、研究者として活躍できる人材の育成を目指しています。機械・制御工学系、電子・情報工学系、化学・バイオ系などの科学技術分野の基礎的な幅広い学習と、理系大学に必要な数学、英語、理科などの普通教科の学習に力を入れています。令和6年度から科学技術科の一部を「理数に関する学科」に改編して、自らの得意分野を生かしながら協働してイノベーションを生み出す人材の育成も目指していきます。
25	都立多摩科学技術高等学校 〒 184-8581 小金井市本町 6-8-9 http://www.tama-st-h.metro.tokyo.jp/	全	科学技術科 (210)	理系大学進学を前提とした進学型専門高校です。将来、理学、工学、薬学、医療など様々な分野で科学技術者として活躍することを目指し、科学への視野を広め、基礎力と基礎学力を高める。インフォメーションテクノロジー、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、エコテクノロジーなど先端科学技術の基礎に関する幅広い学習と、大学入試に備えた数、英、理を中心とした普通教科学習に力を入れています。

商業に関する学科

26	都立足立高等学校 〒 120-0011 足立区中央本町 1-3-9 https://www.metro.ed.jp/adachi-he/	定	普通科 (30) 商業科 (30)	- 令和4年度の学級数は10 - 在籍生徒数約120名。規模の大きな夜間定時制課程 - 普通科と商業科を設置しているのが特長 - 商業科は各学年に1学級ずつ - 定時制専用の情報処理教室があり令和2年度に更新されたばかり - 学校規模を生かした定時制単独の学校行事(文化祭等)を実施 - 部活動は運動・文化系問わず盛んで各種大会に出場
27 1	都立葛飾商業高等学校 〒 125-0051 葛飾区新宿 3-14-1 https://www.metro.ed.jp/katsushikashogyo-h/	全	ビジネス科 (210)	全日制では、個人の自由と尊厳を重んじ、自発的、自主的精神に富み、社会連帯性の上によく協調し得る人材や、創造的精神に富み、勤労を尊び、産業と文化の発展に貢献する人材の育成を教育目標として、基本的生活習慣・規範意識の定着、基本的なビジネススキルの習得等を通じて、豊かな人間性と社会に求められる人材を育成します。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和5年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
27 2	都立葛飾商業高等学校 〒125-0051 葛飾区新宿 3-14-1 https://www.metro.ed.jp/katsushikashogyo-he/	定	普通科 (30) 商業科 (30)	定時制では、ルールやマナーを守り社会に適応できる人材の育成を実現するため、基礎学力の定着、他者と共同し情報を収集・分析して問題解決に向かう力、コミュニケーションスキルの醸成を通して、働く権利や義務を理解し正しい勤労観や職業観と自尊心や自己決定力を持った人間を育てます。
28	都立江東商業高等学校 〒136-0071 江東区亀戸 4-50-1 https://www.metro.ed.jp/kotosyogyo-h/	全	ビジネス科 (175)	本校は創立117年、都立商業高校として伝統と革新をキーワードとして「人材育成」に力を入れている歴史ある伝統校です。ビジネス三言語（IT、会計、英語）を重視して、実践的なビジネス教育に取り組んでおり、社会人としてのマナーを身に付け、充実した学校生活を目指しています。生徒に愛され、地域から親しまれ、都民の皆様に信頼される学校として、教職員が一丸となって教育活動を推進しています。
29	都立芝商業高等学校 〒105-0022 港区海岸 1-8-25 https://metro.ed.jp/sibasyogyo-h/	全	ビジネス科 (175)	創立98周年を迎えた東京都の商業高校の拠点校です。グローバル化する社会環境の中で自立することのできる人材を育成するために、1年生全員のインターンシップ、浜松町・竹芝地区の企業等との連携、福井県池田町との交流等、特色ある教育活動を展開しています。また、資格取得やマナー指導にも定評があり、これらの取組が評価され平成30年度にはキャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰を受賞しました。JR 浜松町駅・都営地下鉄大門駅・ゆりかもめ竹芝駅徒歩5分に位置する、ビジネス教育には最適な環境にある伝統校です。
30	東京都立第一商業高等学校 〒150-0035 渋谷区鉢山町 8-1 https://www.metro.ed.jp/daiichishogyo-h/	全	ビジネス科 (210)	学校創立100年を超える商業の伝統校。東京都の商業高校のリーダーとして、簿記部や珠算部など毎年多くの商業系部活動が全国大会に進出している。令和3年度から4か年計画で、東京都教育委員会から地域探究推進校に指定され、國學院大学研究開発センターと連携し、同大が実施する「渋谷学」を導入して渋谷・代官山地域に関する探究学習を推進することで注目を集めている。大学・専門学校への進学者が約6割と商業高校でありながら進学希望者の多い学校としても知られている。
31 1	都立第三商業高等学校 〒135-0044 江東区越中島 3-3-1 http://www.daisanshogyo-h.metro.tokyo.jp/	全	ビジネス科 (175)	多くの卒業生が実業界や経済界の中枢で活躍しています。まさに校歌に謳われるように「日本の富を担う」学校です。「生徒一人ひとりが光り輝く学校『SUN 商』というコンセプトに基づき、生徒の思いや願いを実現するため、次の Mission Statement（使命宣言）を約束します。 ①充実した商業科目の学習により、将来に役立つ資格取得を応援します。 ②習熟度別による丁寧な指導により、数学・英語の基礎学力を向上させます。 ③卒業後の進路実現100%を目指します。 ④地域と連携し、地域から愛される学校を目指します。
31 2	都立第三商業高等学校 〒135-0044 江東区越中島 3-3-1 http://www.daisanshogyo-h.metro.tokyo.jp/	定	商業科 (30)	創立以来、健康明瞭で勤労を貴び、良識ある人物の育成を目指し生徒一人ひとりの人権を尊重しながら、心身とも健全な人物の育成を図っている。 このことを踏まえ、日常の教育活動を充実させつつ、生徒の満足、保護者の信頼、地域の応援、教職員の充実が達成できる学校づくりを進めている。
32	都立第四商業高等学校 〒176-0021 練馬区貫井 3-45-19 http://www.daiyonshogyo-h.metro.tokyo.jp/site/zen/	全	ビジネス科 (175)	～マナーの四商、資格の四商、実学の四商～ ビジネス基礎・会計・情報処理・マーケティング・マネジメントの各分野を系統的に学び、外部機関と連携して、調べ学習・調査研究から課題解決を図る探究的な学びを推進しています。検定資格取得のほか、JRC、NIE、SDGsに関する教育を活用し、思いやりの心をもち、社会情勢を正しく理解して、自分ごととして考え・行動できる人材の育成を目指しています。部活動では、アーチェリー部、硬式野球部、サッカー部、バスケットボール部、吹奏楽部、茶道部、フラ部等が活躍しています。
33 1	都立第五商業高等学校 〒186-0004 国立市中 3-4-1 http://www.metro.ed.jp/daigoshogyo-h/	全	ビジネス科 (210)	昭和16年に開校し、伝統に支えられた、多摩地区唯一の商業高校です。文武両道と地域に根ざした教育を実践して、卒業生2万8千名余りの有能な人材を輩出し、各方面で活躍しています。ビジネス科として、「東京のビジネス」「ビジネスアイデア」「課題研究」を柱とし、高度資格取得指導、高大連携や地域連携等の充実を図っています。ビジネス教育の推進をととして、大学進学と都立高校屈指の就職実績にもさらに磨きをかけていきます。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和 5 年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
33 2	都立第五商業高等学校 〒 186-0004 国立市中 3-4-1 http://www.metro.ed.jp/daigoshogyo-he/	定	商業科 (30)	定時制課程は、「基礎・基本の学習を徹底」「楽しい行事がたくさん」「ていねいな資格支援」「夢が実現する進路」「充実した施設設備」の 5 つを特色とし、「少人数制」や「ティームティーチング」の授業を取り入れながら、生徒一人一人の能力に応じた指導・支援をしています。その成果として基礎学力が身に付いています。また落ち着いた環境で学ぶことができます。過去においては、パソコン部が全商ワープロの全国大会に 4 年連続出場を果たしています。

ビジネスコミュニケーション科

34	都立千早高等学校 〒 171-0044 豊島区千早 3-46-21 http://www.chihaya-h.metro.tokyo.jp/	全	ビジネスコミュニケーション科 (210)	- 英語とビジネス教育に重点をおいた進学型専門高校。 「使える英語」を目指して学校設定科目「多読と発表」を授業に取り入れている。英会話もイングリッシュキャンプ (1 年)、海外修学旅行 (2 年)、海外ビジネス研修 (希望者)、海外語学研修 (希望者) などの学校行事で実践。 - 新しいビジネス教育分野に NPO/NGO を学ぶ学校設定科目として「コミュニティデザイン」を設置。また、SDGs や外部機関との連携の取組を展開している。ビジネスで社会を学び大学卒業後を見据えた 7 年間の進学指導が特色。
35	都立大田桜台高等学校 〒 143-0027 大田区中馬込 3-11-10 http://www.oota-sakuradai-h.metro.tokyo.jp/	全	ビジネスコミュニケーション科 (175)	グローバル社会で主体的に生き抜く基礎的な学力と素養を育成することを理念とした専門高校です。コミュニケーション手段としての英語力と社会生活に必要なビジネス力を育成します。英語教育は、「多読・多聴」の他、英語を使う場面を多数用意し英語を英語で理解することを目指します。ビジネス教育は、簿記や経済活動に関する基礎的な知識・技術を習得する他、コンテストへの出場や企業連携を通してマーケティングやプランニングを実践的に学びます。この他、発表活動や資格取得に力を入れ、自分の意見を適切に表現できる人材を育成します。

家庭・福祉に関する学科

36	都立忍岡高等学校 〒 111-0053 台東区浅草橋 5-1-24 http://www.shinobugaoka-h.metro.tokyo.jp	全	普通科 (160) 生活科学科 (70)	普通科と生活科学科を併置する全日制・単位制の学校として、平成 18 年度に改編された。生活科学科の目標は、「大学進学希望の実現」と「将来のスペシャリストとして必要な資質・能力の育成」である。単位制を活用した、多様な選択科目を設置するとともに、大学や専門学校と連携した模擬授業や大学教授・特別専門講師による専門性の高い授業を展開している。7・8 限の自由選択科目では、茶道、華道、将棋、日本舞踊などの「日本の伝統文化」、中国語、フランス語、韓国語などの「語学」、「自己表現」力を高める朗読、モダンバレエなどの特色ある講座を設置している。
37	都立野津田高等学校 〒 195-0063 町田市野津田町 2001 https://www.metro.ed.jp/nozuta-h/	全	福祉科 (35)	【福祉科の概要】平成 8 年度より普通科看護福祉コースとしてスタートし、平成 18 年度から学科改編をおこない、東京都として初の福祉科を設置した。福祉科は、国家資格である介護福祉士の養成校として、多くの合格者を輩出している。 【特色】・介護、福祉、医療などの専門的な知識・技術の習得。 - ボランティア活動による地域との交流。 - 福祉施設実習を通しての実践的な学習。
38	都立赤羽北桜高等学校 〒 115-0056 北区西が丘 3-14-20 https://www.metro.ed.jp/akabanehokuo-h/	全	家庭学科：保育・栄養科 (140) 家庭学科：調理科 (35) 福祉学科：介護福祉科 (35)	本校は、幼児教育・保育系や栄養・健康系の上級学校への進学を目指す「保育・栄養科」、調理師資格の取れる「調理科」、介護福祉士国家試験受験資格を得られる「介護福祉科」の 3 つの科を併せもつ専門高校です。3 科ではそれぞれ、家庭分野、福祉分野のスペシャリストを目指して、基礎的・基本的な学力と専門的な知識や技術の定着と伸長を図る学習に取り組んでいます。また、探究活動の充実を図り、地域との連携をとおして、学んだことを生かして地域社会のために生かそうとする使命感と社会貢献しようとする志を育んでいます。

水産に関する学科

39	都立大島海洋国際高等学校 〒 100-0211 大島町差木地字下原 996-1 http://www.metro.ed.jp/osimakaiyokokusai-h/	全	海洋国際科 (70)	「海に学び、未来を拓く。」というコンセプトの下、都内で唯一、水産・海洋関連分野を学ぶことができる学校です。2 年次より、「船舶運航系」「海洋生物系」「海洋産業系」「海洋探究系」に分かれ、大学進学に向けたカリキュラムを編成しています。また、大型実習船「大島丸」で航海実習を行い、小型船舶操縦士や潜水関係の資格を取得することもできます。寄宿舎 (ドミトリ) では、集団生活を通して協調性や規範意識、コミュニケーション能力を育成し、夜は「宅習」において、目標とする進路に向けた学習に取り組んでいます。
----	--	---	------------	---

併合科

40	都立大島高等学校 〒 100-0101 大島町元町字八重の水 127 https://www.metro.ed.jp/oshima-h/	全	普通科 (80) 併合科 (農林・家政) (35)	併合科では、専門科目の基礎から応用まで実習を通して実践力を身に付けます。農林では野菜・畜産・草花・地域資源活用分野で地域産業振興を重視した学習活動を行います。特産のツバキに関しては、世界水準の学校椿園 (平成 28 年 ICS 優秀つばき園認定) での研究も可能です。家政は生活産業のスペシャリスト育成に向けて、家庭科にかかわる内容を深く学び、より専門的な知識と高度な技術を身に着けます。全校の取組として、グローバル社会に対応できる人材育成や地域社会に貢献できる意識を涵養する活動もあります。
		定	普通科 (30)	

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和5年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
41	都立八丈高等学校 〒100-1401 八丈町大賀郷 3020 https://www.metro.ed.jp/hachijo-h/	全	普通科 (80) 併合科 (園芸・家政) (35)	教育目標は全日課程「誠実」「慈愛」「自立」、定時制課程「自主」「健康」「民主」で70年の歴史のある伝統校です。八丈町はハワイと姉妹都市で、黄八丈、八丈太鼓と歌や踊り、海洋文化など、歴史と伝統、文化の町です。全・定ともに島留学生を受入れています。町や小・中学校との連携を大切にした系統的な学習を行う少人数授業が特色で、国公立大学等の受験から基礎基本の習得を目指す生徒まで、きめ細かく丁寧指導します。「わかりやすい授業」から「生徒が自ら学びたい授業」を学校全体で目指しています。生徒の卒業後の進路は、国公立大学をはじめとする進学や、公務員を含む就職と多様です。生徒会活動や、全・定合同の八高祭などの学校行事も盛んです。詳細は本校ホームページやTwitterを御覧ください。
		定	普通科 (30)	
42	都立三宅高等学校 〒100-1211 三宅村坪田 4586 http://www.miyake-h.metro.tokyo.jp/site/zen/	全	普通科 (40) 併合科 (農業・家政) (35)	併合科は、農業科または家政科の専門科目を中心に学び、食の生産や加工、生活の改善などに積極的に取り組む能力を身につけさせる学習を行っている。少人数の長所を生かし、生徒一人ひとりの個性・能力を伸ばす指導を実践している。

産業科

43 1	都立橋高等学校 〒131-0043 墨田区立花 4-29-7 https://www.metro.ed.jp/tachibana-h/	全	産業科 (210)	本校は、都立向島工業高校と都立向島商業高校を発展的に統合し、平成19年4月に開校しました。生産から流通・消費までを総合的かつ実践的に学ばせる、わが国初の産業科高校です。従来の工業、商業という枠を超えた幅広い専門教育を展開することで、多様化・複雑化する産業社会に対応して活躍する人材の育成を目指しています。また、令和4年度から「伝統工芸教育推進校」として、陶芸、ガラス工芸、彫金、染織などの伝統工芸に対して興味・関心を高める教育を本格的に進めております。
		定	産業科 (30)	
44	都立八王子桑志高等学校 〒193-0835 八王子市千人町 4-8-1 http://www.hachioji-soushi-h.metro.tokyo.jp/	全	産業科 : デザイン分野 (70) : クラフト分野 (35) : システム情報分野 (35) : ビジネス情報分野 (70)	日本初の産業科高校として、高度な資格や検定及び大学等への進学に力を入れ、「未来の産業人」を育てる学校です。45分7時間授業により、専門教科の学習とともに、普通教科の学習を充実させることで大学進学に対応しています。進学者は約8割で令和3年度の合格者は、MARCH12名、日東駒専17名、多摩美術6名、武蔵野美術7名等です。また、全ての就職希望者が就職することができました。産業界との連携にも力を入れ、商工会議所、織物工業組合、青年会議所、地元の商店等と連携した事業を展開しています。

情報科 (単位制)

45	都立新宿山吹高等学校 〒162-8612 新宿区山吹町 81 http://www.yamabuki-hs.metro.tokyo.jp	定	普通科 (100) 情報科 (65)	各自が興味・関心・進路等に基づき科目を選び、幅広く、深く、学習するので、基本的に一人一人時間割が異なります (単位制)。定時制 (普通科・情報科) と通信制 (普通科) があり、どちらも、努力次第で3年間で卒業ができます (三修制)。定時制は、朝から夜まで、四つの部に分かれます (4部制)。情報科は、東京都唯一の「情報」の専門学科です。29～31年度はSPH (スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール) に指定されました。通信制は、自宅でレポート作成を行い、土曜日はスクーリングで本校に登校し授業を受けます。教員相互の授業見学を全教員で行い授業力高め、夏期講習等も行っています。昨年度は、国公立大や、早慶上理大・GMARCH等の難関私大に定通合わせて現役で30名以上が合格しています。
		通	普通科 (50)	

総合学科

46	都立王子総合高等学校 〒114-0023 北区滝野川 3-54-7 https://www.metro.ed.jp/oujisogo-h/index.html	全	総合学科 (236)	平成23年度開校、全日制総合学科高校 ○“Design your Dream” (自分らしく生きるために) をキャッチフレーズとしている。自己の進路への自覚を深め、自ら夢を描き、その実現に向けて意欲的に計画し、実行する行動力と態度を身に付けます。 ○「国際・ビジネス」「文化・芸術」「メディア・ネットワーク」「サイエンス・テクノロジー」「スポーツ・健康」の5つの系列があります。
47 1	都立青梅総合高等学校 〒198-0041 青梅市勝沼 1-60-1 https://www.metro.ed.jp/omesogo-h/	全	総合学科 (236)	本校は「自分でつくる、自分の未来」を合言葉に教育活動を推進する総合学科高校。多彩な選択科目から自分だけの時間割を自分でつくり、なりたい自分に向けて学習し、自分の未来を切り拓くことができる。緑豊かな環境と多彩な設備を活かし「農業」についても学び、その活動を通じて命の尊さを実感することができる学校。一方で、国際交流リーディング校として、グアム修学旅行やドイツへの短期留学を実施。すべての教育活動で「やり抜く力」を育成することを目標としています。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和 5 年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
47 1 2	都立青梅総合高等学校 〒 198-0041 青梅市勝沼 1-60-1 https://www.metro.ed.jp/omesogo-h/	定	総合学科 (90)	本校は「自分でつくる、自分の未来」を合言葉に教育活動を推進する総合学科高校。多彩な選択科目から自分だけの時間割を自分でつくり、なりたいたい自分に向けて学習し、自分の未来を切り拓きます。緑豊かな環境と多彩な設備を活かし「農業」についても学び、その活動を通じて、命の尊さを実感することができる学校です。すべての教育活動で「やり抜く力」を育成することを目標としています。夜間定時制ですが、3 修制が生徒の意志で選択でき、約半数の生徒が毎年 3 年間で卒業していきます。
48	都立葛飾総合高等学校 〒 125-0035 葛飾区南水元 4-21-1 https://www.metro.ed.jp/katsushikasogo-h/	全	総合学科 (196)	平成 19 年度に東京東部地区に開校した全日制総合学科高校。平成 29 年度入学生から、国際コミュニケーション、スポーツ福祉、生活アート、サイエンス・テクノロジーの 4 系列を配置している。ゼミナールと同様の講座を開設して課題研究に取組ませ、卒業生全員に 1 万 2000 字の論文作成を課している。生徒の興味関心に応じた幅広い選択科目から「自分だけの時間割」を作成させる指導など系統的なキャリア教育により、社会で有用となる基礎的汎用的能力を育成し、生徒個々の進路実現を目指している。
49	都立杉並総合高等学校 〒 168-0073 杉並区下高井戸 5-17-1	全	総合学科 (216)	平成 16 年 4 月に、東京都で 3 番目の総合学科高校として開校。学校のキャッチフレーズは、「志を世界に繋ごう 自己実現・国際人・生涯学習」。国際理解教育に特に力を注いでおり、第二外国語の必修化 (1 年次で中国語かハンガール)、台湾修学旅行、姉妹校交流 (オーストラリアのフォートストリート高校、台湾の内思高級職業高等学校、韓国の美林女子情報科学高等学校)、年間 5 回程度の海外訪問団受け入れ、年間 5 名程度の留学生の受け入れ、交換留学 (オーストラリアとフランス) 等の実施、トビタテ留学ジャパンで海外に派遣、次世代リーダー育成道場で毎年 2 人程度が 1 年間の海外留学をしている。個人で留学する生徒は年々増えている「人間・社会、科学・環境、メディア・文化、ビジネス、国際コミュニケーション」の 5 系列を持つ。
50	都立世田谷総合高等学校 〒 157-0076 世田谷区岡本 2-9-1 http://www.setagaya-sogo-h.metro.tokyo.jp/site/zen/index.html	全	総合学科 (236)	○平成 20 年 4 月開校。 ○令和 3 年度より、ものつくりをベースに国際交流を中心とした学校の特色化を推進中。 ○生活マナー (身だしなみ、頭髮等) を重視し、自主・自律の態度を育成するために、ノーチャイム、ノー放送を展開。男女ともに制服を決め、毎日校門指導を実施。女子制服には、パンツスタイルも採用。 ○「宝のカギが見つかる場所」の学校キャッチフレーズの下、魅力的な学校生活の創出に教職員が丸となり尽力中。
51	都立つばさ総合高等学校 〒 144-8533 大田区本羽田 3-11-5 http://www.tsubasa-h.metro.tokyo.jp/	全	総合学科 (236)	平成 14 年に開校した都立 2 校目の総合学科高校である。美術・デザイン系列、科学・技術系列、国際・コミュニケーション系列、スポーツ・健康系列、生活・福祉系列の 5 系列を配備し、生徒が適性・能力・興味・関心・進路希望等に応じて『自分だけの時間割』を編成して学習を進め、大学進学を中心とした希望進路を実現している。ISO14001 (国際環境認証) を取得し、環境教育に力を入れ、平成 21 年度「文部科学大臣賞」、平成 30 年度「都教委オリンピック・パラリンピック教育・環境部門アワード」等を受賞している。恵まれた施設のもと部活動も盛んであり、様々な地域連携活動を通して地域に愛され親しまれている学校である。
52	都立晴海総合高等学校 〒 104-0053 中央区晴海 1-2-1 http://www.harumisogo-h.metro.tokyo.jp/	全	総合学科 (276)	東京都の総合学科高校のパイオニア校として平成 8 年に開校。近代的で充実した校舎・設備を持ち、「産業社会と人間」や「課題研究」によりキャリア教育を充実させている。情報システム、国際ビジネス、語学コミュニケーション、芸術・文化、自然科学、社会・経済の 6 系列に多様な選択科目を設置し、国公立大学進学も視野に入れた生徒の学力向上と進路実現を図れる学校である。「青い海 潮風の中 自分探しの旅に出よう!」のキャッチフレーズのとおり、「自分だけの時間割」によって、未来を切り拓き、夢の実現を目指す生徒を育成する高校である。
53 1 1	都立東久留米総合高等学校 〒 203-0052 東久留米市幸町 5-8-46 http://www.higashikurume-sogo-h.metro.tokyo.jp/	全	総合学科 (236)	平成 19 年度開校、全日制・定時制併置の総合学科高校 総合学科高校として、多様な選択科目から選ぶ「自分でデザインする時間割」で『25 歳の自分創り』というコンセプトのもと、未来の自分をイメージし、夢を探し求めていく 3 年間の学びを通して、生徒の可能性を最大限に高め、自立した人間として多様な人々と協働し、より良い社会づくりに参画する人材を育成します。
53 2 2	都立東久留米総合高等学校 〒 203-0052 東久留米市幸町 5-8-46 http://www.higashikurume-sogo-h.metro.tokyo.jp/	定	総合学科 (60)	平成 19 年度開校、全日制・定時制併置の総合学科高校 総合学科高校の良さである、未来の自分をイメージできる充実した「キャリア教育」と普通科にはない多様な選択科目から選ぶ「自分でデザインする時間割」で、夢を探し求める生徒の可能性を最大限に高め、判断力、想像力、実践力のある人材を育成します。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和5年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
54	都立若葉総合高等学校 〒206-0822 稲城市坂浜 1434-3 https://www.metro.ed.jp/wakabasogo-h/	全	総合学科 (236)	平成17年度に開校した、多摩地区最初の総合学科高等学校。自らを「進路指導充実校」と名づけ、多彩な教育活動により生徒の意欲と力を伸ばし、進路実現を目指す。人間探究・芸術表現・伝統継承・情報交流の4系列を持つ。開校以来、「原石を宝石に、君の個性に輝きを！」をスローガンとして掲げ、生徒一人ひとりの個性を伸ばす教育活動に取り組んでいる。
55	都立町田総合高等学校 〒194-0037 町田市木曽西 3-5-1 http://www.machida-sogo-h.metro.tokyo.jp	全	総合学科 (236)	○平成22年度4月開校、全日制総合学科高等学校。 ○校訓「創」;「自分創り」に取り組み、「社会創り」の基礎を身に付け、「未来創り」に備える。 ○「暮らし」「ひと」「まち」「自然」の4つの系列、国際理解教育の基礎を成す「日本文化」の授業、社会と連携した体験を重視した教育活動。 ○「キャリア教育」を根幹に据えた進路指導、探究活動の推進。 ○国際理解教育の推進 ○東京都教育委員会指定「地域探究推進校」

総合学科 (チャレンジスクール)

56	都立大江戸高等学校 〒135-0015 江東区千石 3-2-11	定	総合学科 (170)	平成16年4月開校の三部制・単位制・総合学科の高校です。「伝統・文化」「情報・ビジネス」「生活・福祉」の三系列があり、地域に根ざした特色ある教育活動を行っています。体験学習や実習、行事などを重視し、少人数の授業で、丁寧な指導に取り組んでいます。「チャレンジする人間」「創造的な人間」「信頼される人間」の教育目標の下、様々な専門家の支援を受け、一人一人の自立を支えています。
57	都立桐ヶ丘高等学校 〒115-0052 北区赤羽北 3-5-22 https://www.metro.ed.jp/kirigaoka-he/	定	総合学科 (170)	平成12年度に開校した、最初のチャレンジスクール（総合学科、単位制、昼夜間開講三部制の定時制高校）です。『夢・挑戦・感動』を校訓に「福祉教養」「情報ビジネス」「アート・デザイン」の3系列で①多様な教科・科目を設置した総合学科②基礎・基本の重視③単位認定の弾力化④体験学習の重視⑤充実した相談体制など、特色ある教育活動を展開しています。
58	都立世田谷泉高等学校 〒157-0061 世田谷区北鳥山 9-22-1 http://www.setagayaizumi-h.metro.tokyo.jp/site/tei/	定	総合学科 (170)	「学ぶ時間帯」を選べる三部制、「学ぶ計画」を選べる単位制、「学ぶ科目」を選べる総合学科のチャレンジスクールといわれる定時制の学校です。「製作・技術」「生活・福祉」「創作・表現」の三系列があり、たくさんの選択科目や体験学習を用意しています。
59	都立稔ヶ丘高等学校 〒165-0031 中野区上鷺宮 5-11-1 https://www.metro.ed.jp/minorigaoka-he/	定	総合学科 (240)	三部制のチャレンジスクールで、静かな学習環境の中で学んでいます。学校設定科目「コーピング」でコミュニケーション能力の向上を図るとともに、商業科目では簿記やマーケティングなどを開設しています。
60	都立六本木高等学校 〒106-0032 港区六本木 6-16-36 http://www.roppongi-h.metro.tokyo.jp/site/tei/	定	総合学科 (170)	平成17年4月に開校したチャレンジスクール。小中学校において不登校を経験した生徒、高校を中退した生徒、これまでの教育の中では十分に力を発揮できなかった生徒が自分の夢に向かってチャレンジしています。教育目標は“見つけて 磨いて 未来を拓く”です。基礎力を身に付けさせる普通科目と3つの系列に属する特色のある学校設定科目で生徒の見つけて磨く力をサポートしています。丁寧な進路指導により生徒の未来を拓く力を伸ばし、進路実現を図っています。
61	都立小台橋高等学校 〒120-8528 足立区小台 2-1-31 https://www.metro.ed.jp/odaibashi-he/	定	総合学科 (230)	令和4年4月開校。スクールミッションを、これまでの学校生活で個性や能力等を十分に発揮できなかった生徒に対しても、一人一人が安心して学ぶことができる時と場の提供と、多様で柔軟な教育の実施により、不確定な未来を生き抜くための幅広く総合的な学力を身に付けた人材の育成としています。その実現に向けて、課題研究を中心として自分自身の興味・関心を深め将来像を明確化する「小台橋モデル」を学ぶの特色とするとともに、人間関係づくりを円滑にするための交流プログラムや相談体制を充実させています。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和 5 年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
--	-----------------	----	-----------------------	----------

普通教育を主とする学科

62 1	都立五日市高等学校 〒 190-0164 あきる野市五日市 894 http://www.itsukaichi-h.metro.tokyo.jp/	全	普通科 (159)	東京の最西部に位置する本校は、令和 4 年度から地域に根差した「特色のある普通科」として出発しました。1 学年 4 クラスの小規模であることを最大限生かして義務教育段階の学びなおしや特性に応じた指導など、きめ細かい教育を行っています。2 年生からアウトドア、マネジメント、アドバンスの 3 コースに分かれ、地域の特色を生かした教育活動を行います。近隣の自治体、大学や企業等と連携し、地域に密着したテーマや課題を中心とした探究活動を経験的に学ぶ「五日市メソッド」により地域に貢献できる人材を育成しています。
62 2	都立五日市高等学校 〒 190-0164 あきる野市五日市 894 http://www.itsukaichi-h.metro.tokyo.jp/	定	普通科 (30)	本校は東京の最西部に位置し、定時制課程は普通科のみの学校です。小規模であることを生かして、生徒一人一人に寄り添いながら全日制と同様、地域のお祭り「ヨルイチ」での活動をはじめとする、地域と連携した取組をこれまで以上に実践していきます。

普通教育を主とする学科 (単位制)

63	都立浅草高等学校 〒 111-0024 台東区今戸 1-8-13	定	普通科 (192)	平成 18 年 4 月開校。生徒のライフスタイルに応じた柔軟な教育課程を持つ、昼夜間三部制、普通科の単位制高校である。9 階建ての校舎と地下に年間フル稼働の温水プールを持つ。学び直しから大学受験まで対応するカリキュラムと地域の伝統工芸や稲作体験のできる「体験学習」などを特色とする。
----	--	---	-----------	---

国立高等学校会員名簿 (1)

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和 5 年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
1	東京工業大学附属科学技術 高等学校 〒 108-0023 東京都港区芝浦 3-3-6 https://www.g.hst.titech.ac.jp	全	科学・技術科 (推薦 60、一般 140)	科学技術における基礎学力の充実に重点を置き、高大連携の強化により、先端的な科学技術を注視しながら、より高度な教育に対応できる多面的素養を身に付けることが出来る授業を展開している。2 年次から、応用化学、情報システム、機械システム、電気電子、建築デザインの 5 分野に分かれる。

高等専門学校会員名簿 (1)

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和 5 年度募集学科 及び募集人数	学校の概要・特色
1	都立産業技術高等専門学校 品川キャンパス 〒 140-0011 品川区東大井 1-10-40 荒川キャンパス 〒 116-8523 荒川区南千住 8-17-1 https://www.metro-cit.ac.jp	全	ものづくり工学科 (320) 創造工学専攻 (32)	首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成を使命とし、本科 5 年一貫教育による実践的技術者、本科と専攻科 7 年一貫教育による総合的実践的技術者の育成を担う高等教育機関です。本科ものづくり工学科では品川キャンパスに機械システム、AI スマート、電気電子、情報システムの 4 工学コースが、荒川キャンパスに情報通信、ロボット、航空宇宙、医療福祉の 4 工学コースがあり、1 年時には混合クラスとし、2 年時より各コースに分かれます。また、専攻科創造工学専攻修了時には学士 (機械工学、電気電子工学、情報工学) の学位が得られます。

専修学校会員名簿（37）

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和5年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
1	愛国学園保育専門学校 〒133-8585 江戸川区西小岩 5-7-1 http://www.aikokuhosen.ac.jp	昼	幼児教育科（50） 介護福祉士専攻科（募集停止中）	本校は、昭和44年に設立された伝統のある専門学校です。幼児教育科は、卒業と同時に保育士資格、幼稚園教諭2種免許状が取得できます。学生は、完備された学園において、少人数制の中、現代社会のニーズに合った専門的な学びを楽しく熱心に修得しています。就職においても幼児教育科は毎年100%の就職率となっており、幼稚園や保育所などに就職しています。勤務先からは専門に精通して明るく元気で、礼儀正しいと評価を得ています。今後も職業に直結した知識やスキルを学び保育者としての資質能力を深められる教育を展開して行きます。
2	青山製図専門学校 〒150-0032 渋谷区鶯谷町 7-9	昼 夜	建築工学科（30）、建築設計デザイン科（72）、住宅設計デザイン科（30）、建築インテリア工学科（35）、商空間デザイン科（35）、建築インテリアデザイン科（40）、建築設計研究科（130） 建築科（70） インテリア工学科（30）	昭和52年に設立以来、設計・製図・デザイン・CADの技術者を輩出している。現在、建築・インテリア系の9学科を設置。実践的な授業を展開し、産業界のニーズに沿った即戦力となる技術者、国際性豊かな幅広い知識を持った常識ある社会人の育成を目指している。
3	御茶の水美術専門学校 〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-3 https://senmon.ochabi.ac.jp	昼	デザイン・アート科 3年制（100） 高度デザイン・アート科 4年制（15）	ゼロからはじめてプロになる [®] 「産学連携」課題にプロジェクトベースドラーニングで挑む、実学中心の美術専門学校。 御茶の水美術専門学校（OCHABI）は、全学科が文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認定を受けており、必修科目である「産学連携授業」では、ゼロから「SDGs」に貢献する商品やサービスを考え、実際に企業へプレゼンテーションしていきます。こうして入学から卒業まで繰り返しクリエイティブを軸としたプロジェクトベースドラーニングを行うことで、効果的に自分のクリエイティブビィーを実社会で活かせるビジネススキルへと変換していきます。
4	香川調理製菓専門学校 〒170-8481 豊島区駒込 3-24-3	昼	調理マイスター科（40） 調理師科（120） 製菓科（120）	女子栄養大学・女子栄養大学短期大学部を併設する香川調理製菓専門学校は1959年、調理師学校として東京都で最初に認可を受けた伝統校です。校内には、一般のお客様を対象とした営業店を設置し実際の現場で実際のお客様を対象に仕事を学ぶという独自のカリキュラムに取り入れている。調理マイスター科は職業実践専門課程の認定を受けました。
5	窪田理容美容専門学校 〒164-8585 中野区中野 4-11-1 https://www.kubota.ac.jp/	昼 夜 昼 通	美容学科（200） 美容学科トライチェンジコース（40） 理容学科（40） テクニカルスタイリスト科ビューティーコース（40） テクニカルスタイリスト科アーティストコース（40） 美容学科（160）理容学科（40）	昭和25年開校以来、「忍耐・創造・独立」を校訓に、理容師・美容師となるための専門知識、技術を習得させる事を縦軸、人としてマナーや接客方法などのサービス業従事者としての心構えを習得させる事を横軸とし教育を行なっています。 新たに理容師と美容師、両方の国家資格を取得できるダブルライセンスコースが開講し、「まつ毛エクステンション」のできる理容師、「シェービング」のできる美容師を養成しています。
6	国際共立学園高等専修学校 〒116-0013 荒川区西日暮里 2-33-23 https://www.koutousensyu.kokusai-kyouritsu.ac.jp/	昼	美容師科（3年制・40） 製菓衛生師・調理師科（3年制・32）	「学校法人 国際共立学園」は、理容・美容の専門学校として68年の歴史を重ね、令和2年4月に「美容師科」と「製菓衛生師・調理師科」の2つの学科をもつ「国際共立学園高等専修学校」を開校いたしました。本校は、“夢をかなえる人づくり”を教育テーマに掲げ、生徒一人一人の夢を実現させることを目指しています。「製菓衛生師・調理師科」は1つの学科で製菓衛生師と調理師の2つの資格を取得することができます。また、本校は大学入学資格も取得できます。
7	国際理容美容専門学校 〒116-0014 荒川区東日暮里 5-17-12 http://www.kokusai-kyouritsu.ac.jp/	昼 通	理容科（2年・60） 美容科（2年・160） ビジネス美容科（2年・40） ビューティアーティスト科（2年・40） 理容科（3年・30） 理容科 美容修得者コース（1.5年・10） 美容科（3年・100） 美容科 理容修得者コース（1.5年・20）	国際共立学園は創立68年の伝統ある学園です。この歴史の中で実践し続けている教育の柱は「人間教育」です。職人の技術偏重主義に決して偏ることなく、あらゆる職業を通して、豊かな人間性を併せ持った職業人育成を目指して参りました。また、2020年には「美容師科」、「製菓衛生師・調理師科」の2つの学科を持つ国際共立学園高等専修学校を新たに開校いたしました。本学園は「夢をかなえる人づくり」を教育のテーマに、これまでの教育実績をさらに進化させ、社会に貢献できる人間性豊かな職業人を育成して参ります。
8	新東京歯科技工士学校 〒143-0016 大田区大森北 1-18-2 https://www.dt.ntdent.ac.jp/	昼	歯科技工士科I部（90） 歯科技術予備教育科（35） 歯科技工士科午後部（35）	新東京歯科技工士学校は、1980年開校以来、厚生労働省指定養成所として歯科医療の国家資格「歯科技工士」を取得した専門職を養成してきました。また、企業や医療関連団体と連携した教育が特長であることから、文部科学省から職業実践専門課程として認定され、職業人教育を通じて社会に貢献することをミッションとしています。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和 5 年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
9	中央工学校 〒 114-8543 北区王子本町 1-26-17 http://chuoko.ac.jp	昼	建築学科 (60)、建築工学科 (60)、建築設計科 (180)、木造建築科 (60)、建築設備設計科 (40)、建築室内設計科 (60)、インテリアデザイン科 (40)、エンターテインメント設営科 (20) 土木建設科 (80)、造園デザイン科 (20)、測量科 (80)、地理空間情報科 (40)、3D CAD 設計科 (30)、夜間 建築科 (80)、夜間 土木測量科 (40)	中央工学校は 1909 年 (明治 42 年) に創立され、校歴 114 年を数えます。卒業生総数は 11 万人を超え、それぞれの分野で活躍しています。教育理念を『厳しい実務教育』と『人間涵養教育』とし、正しい職業観の育成に努めています。資格についても、建築関連学科では建築士の受験資格、土木・測量関連学科では無試験で測量士補が取得できるなどカリキュラムを備えています。就職指導においては、クラス担任と就職指導課担当職員が、希望職種に就職できるようサポートしています。『就職に強い学校』の評判は広く社会に認められています。
10	東京 IT プログラミング & 会計専門学校 〒 130-8565 墨田区錦糸 1-2-1	昼	会計士学科 (2 年・51) 税理士学科 (2 年・40) 情報処理科 (2 年・40) IT ビジネス学科 (2 年・60) 情報メディア学科 (2 年・60)	本校の最大の特色は、大学生でも現役合格がむずかしい公認会計士試験・税理士試験や高度情報処理試験に高校卒業生対象の専門課程から毎年多くの現役合格者を輩出していることです。その理由は、開学からずっと実施している楽しく学んで実力が身につく「ゼミ学習」にあります。
11	東京エアトラベル・ホテル専門学校 〒 184-8543 小金井市前原町 5-1-29 https://technosac.jp/air/	昼	エアラインサービス科 (80)、英語キャリア科 (40)、ホテル科 (60)、ブライダル科 (60)、総合ビジネス科 (20)、観光・ツーリズム科 (30)、鉄道交通科 (40)、研究科 (20)、大学併修学科 (20)	1973 年に創立し、エアライン・語学・ホテル・ブライダル・観光分野などを学ぶ 9 学科を展開。オックスフォード大学をはじめ海外姉妹提携 10 大学と交流、専門力と幅広い教養を身につける大学コースを全学科に設置。授業や実習では、企業や地域などとの連携を通して多様な人々と協同しながら「専門性」「人間力」「総合力」、社会人や接客業に必要な「ホスピタリティ精神」を養っている。
12	専門学校東京工科自動車大学校 〒 164-0001 中野区中野 6-21-16 https://car.ttc.ac.jp/	昼	1 級自動車整備科 (4 年・50) 自動車整備科 (2 年・100) エンジンメンテナンス科 (2 年・50)	日本の基幹産業である自動車業界のメーカー・ディーラー・モータースポーツ等様々な職種に対応した特徴ある学科を設置するクルマとバイクの自動車大学校です。一級・二級自動車整備士資格をはじめ多種資格取得にも対応できるカリキュラムと安心して学べる独自の授業システムにより「解る・出来る・取れる」教育をしております。二級課程は短大卒と同等の専門士、一級課程は四大卒と同等の高度専門士の称号が付与され、大学院入学資格も与えられます。企業からの信頼も厚く、就職は毎年ほぼ 100% を達成。平成 26 年度より「職業実践専門課程」の文部科学省大臣認定を受けている学校です。
13	東京工学院専門学校 〒 184-8543 小金井市前原町 5-1-29 https://technosac.jp/eng/	昼	コンサート・イベント科 (60)、音響芸術科 (40)、ミュージック科 (30)、映像メディア学科 (30)、声優・演劇科 (40)、ゲームクリエイター科 (40)、CG クリエイター科 (30)、デザイン科 (50)、アニメ・マンガ科 (70)、スポーツビジネス科 (60)、幼児保育学科 (40)、こども学科 (40)、教育専攻科 (40)、公務員科 (20)、建築学科 (40)、インテリアデザイン科 (20)、情報システム科 (40)、電気電子学科 (40)、航空学科 (20)、法律情報科 (30)、経営情報科 (30)、大学併修学科 (40)、研究科 (20)	1959 年、文部省認定唯一のテレビ専門学校「名城大学付属東京テレビ高等技術学校」として創立。「社会の縮図で学ぶ」「未来を見据えて学ぶ」「教室を飛び出して学ぶ」をモットーに海外大学との提携や企業でのインターンシップ体験、各業界で活躍する講師陣による指導を展開。また、専門学科での学修に加え大学の通信教育課程の学びを併修する 4 年制の大学コースは全学科に設置。
14	東京誠心調理師専門学校 〒 144-0052 大田区蒲田 3-21-4 https://www.seishingakuen.ac.jp/tokyo/		調理師科 2 年制 (80) 調理師科 1 年制 (40) 調理師科夜間部 2 年制 (40)	1970 年創立。2007 年 8 月京急蒲田駅西口すぐそばに HACCP や ISO22000 に適用した、全く新しいコンセプトの基、新校舎が完成。調理師科 2 年制には、校内レストランにて、一般の方々を対象に専門学校生レストランを運営。メニュー開発から運営までをトータルに学ぶことができます。この他、毎年 2 月に開催されている全国調理技術コンクールでは、数々の大臣賞を受賞しており、技術教育についてもその質の高さを誇っています。2012 年からは、週 3 日制の夜間部 2 年制を開校。社会人や大学生の方々にも入学し易い学科を設立。
15	専門学校東京テクニカルカレッジ 〒 164-8787 中野区東中野 4-2-3 https://tec.ttc.ac.jp/	昼 夜	建築監督科 (40) 建築科 (80) インテリア科 (40) IoT+AI 科 (40) データサイエンス+ AI 科 (40) ゲームプログラミング科 (40) 情報処理科 (40) Web 動画クリエイター科 (30) 環境テクノロジー科 (30) バイオテクノロジー科 (30) 建築科 (40)	本校は 1987 年に国立市に開校し、2009 年に現在の東中野校舎へ移転しました。学園理念に「技術者を目指す全ての人の夢を受けとめ、高い技術力と豊かな人間性を備えたプロフェッショナルを育成し、社会に貢献します。」を掲げ、2014 年には全学科が職業実践専門課程に認定され、企業や地域の皆様とともに専門人材の育成に尽力してまいりました。授業シートとカルテを使い学習成果を確認しながら専門性を高める「ステップクリア授業」と仲間と仕事を進める力を養う問題解決型授業「リアルジョブプロジェクト」が大きな特長です。
16	東京デザインテクノロジーセンター専門学校 〒 169-0075 新宿区高田馬場 2-11-10 https://www.tech.ac.jp/	昼	スーパー IT 科 (120) IT・デザイン科 (120)	本校は、業界が必要とする人材育成を産学協同教育によって行っています。学科は、IT を核としたエンジニア、クリエイター、デザイナーの育成カリキュラムで構成されています。資格取得にも力を入れ国家資格、ベンダー資格、業界資格の取得に取り組んでいます。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和5年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
17	東京美容専門学校 〒161-8557 新宿区下落合1-2-4 http://www.tahb.ac.jp	昼 美容総合科ヘアスタイリストコース (40) (専門課程) 美容総合科トータルビューティーコース (40) (専門課程) 美容総合科ヘアメイクコース (40) (専門課程) 通 美容通信科 (通信課程) (80)		本校は1947年の創立以来、「堅実な学風、先進の技術」という建学の精神を大切に70年の歴史を重ねてまいりました。現理事長、田中みさ子は、約80店舗のヘア＆ブライダルサロングループを率い、国内外の美容業界において活躍しています。また、海外のコスメティックスメーカーとも提携し、教育システムにおいても多くのサポートを受けてきました。こうした伝統を踏まえ、常に「時代と共にある美のスペシャリスト、時代を超える美しさ」を模索しながら、ハートフルな美容師育成に専心し、そのために必要な施設、カリキュラムを充実させております。
18	東京法律公務員専門学校 〒130-8565 墨田区錦糸1-2-1	昼	法律学科 (4年・40)、法律学科 (2年・40)、法律ビジネス学科 (2年・40)、法律社会学科 (2年・40)、不動産ビジネス学科 (2年・37)、行政学科 (1年・72)	1983年日本の専門学校で最初の公務員学科をつくった伝統が今も充分に発揮されています。最大の特徴である「ゼミ学習」は、学生同士がお互いに教えあうことにより、楽しい雰囲気の中で理解がすすみます。さらにはコミュニケーション能力、表現力、リーダーシップ能力も身につきます。
19	東京 YMCA 医療福祉専門学校 〒186-0003 国立市富士見台2-35-11 https://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/	昼	社会福祉専門課程 介護福祉科 (2年) (80) 医療専門課程 作業療法学科 (3年) (30)	世界119の国と地域に広がるYMCAネットワークに連なる学校法人東京YMCA学院によって1996年に設立されました。「互いに愛し合いなさい」という聖書の一節をカレッジスピリットとして、豊かな人間性を持つ介護福祉士、作業療法士を養成し業界に送り出し続けています。
20	日本ウェルネススポーツ専門学校 〒179-0071 練馬区旭町3-23-22 https://www.nihonwellness-sport.jp/	昼	スポーツトレーナー科 (40) 健康スポーツ科 (40) 健康福祉科 (37) ウェルネスIT科A (4月入学) (30) ウェルネスIT科B (10月入学) (30)	1998年 (平成10年) 4月に開校した、社会体育及び、情報技術に関する知識・技能を修得する専門教育を行い、その分野のスペシャリストを養成する学校です。 競技スポーツ、トレーナー養成そして幼児体育指導者養成で顕著な実績を挙げ、また卒業後は内部推薦で系列大学の3年次に進級することもできます。
21	日本工学院専門学校 〒144-8655 大田区西蒲田5-23-22 https://www.neec.ac.jp/kamata/	昼	放送芸術科 (160)、声優・演劇科 (120)、演劇スタッフ科 (80)、マンガ・アニメーション科四年制 (80)、マンガ・アニメーション科 (160)、ゲームクリエイター科四年制 (120)、ゲームクリエイター科 (120)、CG映像科 (120)、デザイン科 (80)、ミュージックアーティスト科 (80)、コンサート・イベント科 (360)、音響芸術科 (120)、ダンスパフォーマンス科 (80)、ITスペシャリスト科 (80)、AIシステム科 (80)、情報処理科 (160)、ネットワークセキュリティ科 (40)、情報ビジネス科 (80)、電子・電気科 (120)、建築学科 (40)、建築設計科 (80)、機械設計科 (40)	1947年の創立以来、「理想的教育は理想的環境にあり」という教育理念のもと、最先端の学習環境と各分野の第一線で活躍するプロの講師陣が、実践的で質の高い専門教育を行っております。これまでに多くの卒業生を社会に送り出し、各分野の第一線で活躍していることが本校の教育の何よりもの実績と自負しております。多彩なスペシャリストを育てるカレッジ制長い歴史のなかで培ってきた総合専門学校としてのノウハウとグレードの高い専門教育の実現のため、「総合性」+「専門性」のカレッジ制専門学校として生まれ変わり、より専門性を追求する学習環境を実現しました。「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」の5つのカレッジは、専門領域を深く掘り下げながら相互に関わりあい、連携することで新たなスペシャリスト教育の創造に貢献しています。
22	日本工学院八王子専門学校 〒192-0983 八王子市片倉町1404-1 https://www.neec.ac.jp/hachioji/	昼	放送芸術科 (120)、声優・演劇科 (80)、マンガ・アニメーション科四年制 (80)、マンガ・アニメーション科 (120)、ゲームクリエイター科四年制 (80)、ゲームクリエイター科 (80)、CG映像科 (80)、デザイン科 (80)、ミュージックアーティスト科 (40)、コンサート・イベント科 (160)、音響芸術科 (40)、ITスペシャリスト科 (80)、AIシステム科 (80)、情報処理科 (160)、ネットワークセキュリティ科 (40)、情報ビジネス科 (40)、ロボット科 (40)、電子・電気科 (120)、一般自動車整備科 (25)、自動車整備科 (75)、応用生物学科 (40)、建築学科 (80)、建築設計科 (120)、土木・造園科 (40)、機械設計科 (40)、スポーツトレーナー科三年制 (40)、スポーツトレーナー科 (40)、スポーツ健康学科三年制 (40)、スポーツ健康学科 (40)、鍼灸科 (30)、柔道整復科 (30)、医療事務科 (40)	1947年に大田区蒲田に創立した創美学園を母体とし、1987年に八王子市に開校。「理想的学びは理想的環境にあり」という教育理念のもと、約38万㎡の広大な敷地に最先端の学習・研究施設を整備しています。 充実した学習環境と各分野の第一線で活躍するプロの講師陣が、質の高い専門教育を実践。現在では、「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」「スポーツ・医療」の6つのカレッジに計32学科を設置し、専門力と人間力を併せ持った、社会に役立つ人材を育成しています。
23	専門学校日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ 〒166-8567 杉並区高円寺南5-32-10	昼	鉄道・トラベル学科 (2年・68) スポーツ学科 (2年・40)	本学の特色である「ゼミ学習」では、学生同士がお互いにおしえあうことにより学習意欲がわき、楽しい雰囲気の中で理解がすすみ、さらにはコミュニケーション能力、表現力、リーダーシップ能力も身につきます。資格を取って知識と技術、実習をとおして実践力を養っていきます。
24	日本電子専門学校 〒169-8522 新宿区百人町1-25-4 https://www.jec.ac.jp/	昼 夜	コンピュータグラフィックス科 (160)、CG映像制作科 (80)、コンピュータグラフィックス研究科 (40)、ゲーム制作研究科 (100)、ゲーム制作科 (160)、ゲーム企画科 (40)、アニメーション科 (50)、アニメーション研究科 (30)、グラフィックデザイン科 (30)、AIシステム科 (70)、Webデザイン科 (30)、モバイルアプリケーション開発科 (40)、DXスペシャリスト科 (40)、情報処理科 (140)、情報システム開発科 (80)、高度情報処理科 (40)、ネットワークセキュリティ科 (80)、電気工学科 (50)、電気工事技術科 (50)、電子応用工学科 (40) 電気工学科 (50)、電気工事士科 (50)、情報処理科 (40)、ネットワークセキュリティ科 (40)	1951年創立。CG・映像、ゲーム、アニメ、デザイン、AI、Web・モバイル、情報処理、ネットワーク・セキュリティ、電気・電子の9分野に昼夜24学科を設置。創立時から続く『コンピュータ・電気・電子』教育を通して、産業界での知名度が非常に高く「伝統」「信頼」「実績」のある専門学校です。情報処理・CG・ゲーム・モバイルアプリ開発など、日本初の学科を多数開設。「職業教育」と「キャリア教育」を教育方針の2本柱として、世界で活躍できるスペシャリストを育成しています。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和 5 年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
25	日本動物専門学校 〒166-8567 杉並区高円寺南 4-6-8	昼	動物看護学科 (3 年・40) 動物管理学科 (2 年・120)	動物に関する知識と就職に役立つ幅広いビジネス知識を習得し、動物たちとふれあいながら、実践力を身につけます。インターンシップでは、実際の現場で実践することにより、より一層成長することができます。「ゼミ学習」により楽しく学びながら実力をアップしていきます。 動物看護学科は、愛玩動物看護師法第 31 条第 2 号に基づく愛玩動物看護師養成所の指定を東京都知事から受けています。これにより卒業、必要な知識・技術の修得により国家試験の受験資格を得ることができます。
26	専門学校 日本ホテルスクール 〒164-0003 中野区東中野 3-15-14 https://www.jhs.ac.jp/	昼間部 夜間部 夜間部	昼間部 国際ホテル学科 (300) ホテル科・英語専攻科・ブライダル科 夜間部 国際ホテル学科 (160) ホテル科・ブライダル科 ※すべての科にカナダ・オーストラリア留学制度あり (希望者全員)	1972 年、本校はホテリエの育成を目的として開校した「プリンスホテルスクール」から始まりました。これまでにホテル・ブライダル分野における人材育成において日本を代表する教育機関として 1 万 4 千人の卒業生を輩出してきました。そして 2021 年に創立 50 周年を迎えました。 「理論と実技の一体化によるサービスの創造」を具体化し、理論教育と実務教育、そして企業実習を行い、サービスから経営まで一貫した教育内容を備えています。 職業実践専門課程認定校、高等教育の修学支援新制度「高等教育無償化」対象機関として承認されています。
27	日本美容専門学校 〒169-0075 新宿区高田馬場 1-21-12	昼 夜 昼 通	専門科 (400) 専門科 (120) 総合美容科 (30) 春生 (4 月入学)・秋生 (10 月入学) 計 200	本校は昭和 29 年、美容師の全国組織である「日本美容師会」を母体として優秀な美容師を世に送り出し美容業の安定・質的充実と美容師の地位向上をめざし、全国会員の協力により設立されました。以来、「美容を通じて近代の叡智を築く」という建学の精神に基づき豊かな教養と自由な発想を持った理想的な「美の実践者」を育成しています。
28	ハリウッド美容専門学校 〒106-8541 港区六本木 6-4-1 https://www.hollywood.ac.jp	昼 通	美容総合科 ・高度ビューティーコース (高度専門課程 4 年) ・ヘアメイクビューティーコース (専門課程 2 年) ・トータルビューティコース (専門課程 2 年) ・コスメビューティコース (専門課程 2 年) ・ベーシックビューティコース (専門課程 1 年) ・美容師通信教育コース (通信課程 3 年)	96 年前、日本の女性をハリウッドスターのように美しくすることをめざして美容学校・美容室・化粧品会社のハリウッドビューティグループを創立したトータルビューティのバイオニア校です。ビューティの最先端をリードする六本木ヒルズで、美容のすべてを学びます。90 年以上の歴史と伝統の成果を結集した充実のカリキュラムと最新の設備で、夢を実現するための美容のプロフェッショナルを育成します。国内はもちろん海外でも活躍できる実践力をめざします。
29	吉祥寺二葉栄養調理専門学校 〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 2-11-2 https://futaba-sogo.ac.jp/nutrition/	昼	管理栄養士科 (4 年・40) 栄養士科 (2 年・120) 調理師科 (1 年・76) 調理実践科 (2 年・38)	本学園は 1937 年の開校以来、ファッション、調理、栄養、製菓分野に数多くの人材を輩出してまいりました。2002 年に専門学校では東日本初の管理栄養士学科を設置。2015 年には管理栄養士学科と栄養士科、2017 年には調理実践科が『職業実践専門課程』として文部科学省より認可を受けました。今後も、社会のニーズに対応した専門知識と技量、幅広い教養・意思疎通能力を身につけた実践的かつ人間性豊かな管理栄養士・栄養士・調理師を養成いたします。尚、2022 年度より法人名を二葉総合学園に、学校名を吉祥寺二葉栄養調理専門学校に改変いたしました。
30	二葉ファッションアカデミー 〒180-0003 武蔵野市吉祥寺南町 1-3-2 http://www.furuya.ac.jp	昼・夜	新入生の募集は行いません。	1937 年の創立以来、ファッションデザイナーの森英恵先生をはじめとする、多くのファッションスペシャリストを産業界に送り出してきました。「涵養の精神と職業人としての自立」という建学の精神のもと、学内ショップ及びブランドを有し、専門学校で唯一「東京コレクション」に参加する等、常にファッション界と連携した教育活動を展開しています。少人数制のきめ細やかな教育と産業界と直結した最先端教育が特徴です。
31	マリールイズ美容専門学校 〒160-0018 新宿区須賀町 3 番地 http://www.marie-louise.ac.jp	昼 通	美容本科 (40) 美容通信科 (40)	「日本の美容の歴史は、常にマリールイズと共にありました。」110 年を迎える本校は、歴史を踏まえ「一に人格・二に技術」を教育の根幹に捉え「1 学年 40 人」の少人数による指導の下で一人ひとりの学生と向き合い「美容のプロ」を育てたいと日々授業に取り組んでいます。美容師免許合格率 6 年平均 95%、就職では約 800 社からの求人があり就職指導も手厚くサポートしております。授業内容は、入学後の 6 か月間はカットやメイクの美容基礎を学びその後は、自らの個性を重視し学生の「将来像」に合わせたセレクトできる授業を行っています。※高等教育の修学支援制度の対象校
32	町田デザイン&建築専門学校 〒194-0022 町田市森野 1-26-8 http://www.mdc.ac.jp	昼 通	建築設計科 (2 年・40) インテリア設計科 (2 年・40) グラフィックデザイン科 (3 年・40) イラストレーション科 (2 年・40) Web・CG アニメーション科 (3 年・40) まんが科 (2 年・40) コミックイラスト科 (2 年・40) 二級建築士受験科 (2 年・80) 一級建築士受験科 (3 年・35)	都心や横浜へのアクセスが良い町田市に拠点を置き、1978 年 (昭和 53 年) 創立の本校は、これまで優れたクリエイターを輩出しています。ピア・カウンセリング教育による教育力アップ×人間力の指導、ステップアップ方式による目に見える成果の習得など、本校独自の教育システムを開発しました。これら独自の教育システムは、学生一人ひとりの顔がしっかり見える本学だからこそ実現できる教育システムです。デザインを初めて学ぶことへの不安を安心に変えるために、基礎から応用まで無理なく進めていくステップアップ方式で入学から就職・プロデビューまで、丁寧にサポートしています。また、ピア・カウンセリング教育により、学生同士がふれあい、学びあう『仲間教育』を積極的に進めています。お互いの個性を認めながら、共同して物を創る。このお互いに育ちあう教育で、「思考力」と「人間力」を育み、社会を必要としている人材を育成します。

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和5年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
33	武蔵野栄養専門学校 〒171-0022 豊島区南池袋 3-12-5 http://www.musashino-eiyou.ac.jp	昼	栄養科 (200)	本学は、昭和45年4月武蔵野栄養専門学校を設立、食と栄養に関する技術と知識の両面から「真のプロ」を育成。平成26年度文部科学省より「職業実践専門課程」に認定され、実践的な職業教育にも取り組んでいる。また教育の理念として実社会での即戦力を養成する為、体感・体験・体得を重視「身体で覚えた技術は一生を貫く」「優れたプロは優れた人格を有する」を踏まえ、「1. 努力 2. 誠実 3. 奉仕」を校訓に専門教育に加え徳育面も重視している。令和元年10月「高等教育の修学支援制度」無償化の対象校に認定された。
34	武蔵野東高等専修学校 〒180-0013 武蔵野市西久保 3-25-3 https://www.musashino-higashi.org/koto.php	昼	総合キャリア学科 (75)	「理想」～世のために役立ち、人々に必要とされる社会人となる～を校訓に、将来の職業生活に直接役立つ専門的な知識・技術を学ぶとともに人間的成長を図る。また、一般教養科目も強化し、スポーツ大会、林間学習、学園祭などの体験学習を重視している。
35	専門学校読売自動車大学校 〒136-0071 江東区亀戸 2-28-5 https://www.yccm.ac.jp	昼	1級整備学科 (4年・30) 自動車整備学科 (2年・120)	読売新聞社が1969年に設立。読売グループ各企業がバックアップ。読売新聞社独自の奨学金制度が充実。「高等教育修学支援制度」の文科省認定校でもあり、安心して学べる体制です。国家試験も就職も、毎年ほぼ100%の実績を残しています。自動車エンジニアとしての技術力だけでなく「人間力」の育成にも力を注いでいます。両学科とも「職業実践専門課程」認定校であり、企業連携を重視した実践的な教育体制です。さらに、1級整備学科は大学院入学資格も与えられる「高度専門士」が付与され、大学院進学者も輩出しています。
36	読売理工医療福祉専門学校 〒112-0002 文京区小石川 1-1-1 https://www.yomiuririkou.ac.jp	昼 夜	【工業専門課程】放送映像学科 (2年制:80)、TVディレクター学科 (2年制:40)、建築学科 (2年制:40)、電気電子学科 (2年制:40)、クロスメディア情報学科 (2年制:40) 【医療専門課程】臨床工学科 (3年制:40) 【社会福祉専門課程】介護福祉学科 (2年制:40) 【工業専門課程】 建築科 (2年制:40)	読売新聞社により1970年に創設、開校53年を迎え27,000名を超える卒業生を社会に送り出しています。工業・医療・福祉の3分野に昼間部と夜間部を併せ8学科を設置しており、すべての学科で卒業時に文部科学大臣から専門士の称号が付与されます。さらに6学科については職業実践専門課程の認定を受けております。また、高等教育の修学支援新制度の確認校になっております。2020年4月、文京区小石川一丁目へ移転しました。最新工法による再開発ビル、実習機器と教育施設を一新し、次の50年に向けて新たなスタートを切りました。
37	早稲田速記医療福祉専門学校 〒171-8543 豊島区高田 3-11-17 https://www.wasedasokki.jp/	昼	医療秘書科 (120)、医療事務IT科 (40)、診療情報管理科 (80) 医療事務科 (40)、くすり・調剤事務科 (40)、介護福祉科 (30)、看護科 (35)	1935年に創立し、1972年に日本で初めて医療秘書科をスタートさせました。医療秘書教育の伝統校として、確かな教育力を誇ります。現場で必要とされる「専門性」と「社会性」を身につけた「社会に貢献できる人材の育成」に取り組んでおり、卒業後も、卒業生支援講座や再就職の支援を行い、学び、働き続ける卒業生を応援しています。また、正職員就職率が高いこともSOKKIの特徴の一つです。

短期大学会員名簿 (2)

	学校名 / 所在地 / URL	課程	令和5年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
1	愛国学園短期大学 〒133-8585 江戸川区西小岩 5-7-1 https://www.aikoku-jc.ac.jp	全	家政科： 生活デザイン専攻 (50) 食物栄養専攻 (50)	経済的に独立し、一家幸福の源泉となる女性の育成を目的とし、思考力、判断力、表現力を培い、主体性、多様性、協働性を養う教育を行っています。生活デザイン専攻では、家政学の幅広い知識と技能を身につけ、生活を自ら企画・創造する力を養います。レストランサービス技能検定や医療事務管理士など、衣食住・福祉などに係る様々な資格が取得可能です。食物栄養専攻では、栄養士としての食の専門知識と技能に加え、フードスペシャリストなどの資格も取得できます。他に、介護職員初任者研修終了資格などの取得を支援する講座なども設けています。
2	東京家政大学短期大学部 〒173-8602 板橋区加賀 1-18-1 https://www.tokyo-kasei.ac.jp/	全	保育科 (120) 栄養科 (80)	本学の学びには、社会で活躍するための即戦力となる専門知識と技術の習得、資格取得に加えて人間性を高め、視野を広める教養教育が備わっている。保育科は保育士、幼稚園教諭二種の資格・免許が取得でき、約77%が専門職に進路を決定。公立の保育士合格者多数。栄養科は栄養士、中学校教諭二種(家庭)、栄養教諭二種の免許、フードスペシャリスト(受験資格)が取得でき、栄養士には約29%、その他食品関連企業を中心に一般企業に進路を決定。

中 学 校 等 会 員 名 簿 (4 3 9)

公立中学校

千代田区	2校	麹町中学校	神田一橋中学校		
中央区	4校	晴海中学校	日本橋中学校	銀座中学校	佃中学校
港区	10校	御成門中学校 赤坂中学校	白金の丘中学校 青山中学校	高松中学校 港陽中学校	港南中学校 六本木中学校 高陵中学校 三田中学校
新宿区	10校	牛込第一中学校 西新宿中学校	牛込第二中学校 四谷中学校	牛込第三中学校 西早稲田中学校	落合中学校 新宿中学校 落合第二中学校 新宿西戸山中学校
文京区	10校	第一中学校 第十中学校	第三中学校 文林中学校	第六中学校 茗台中学校	第八中学校 本郷台中学校 第九中学校 音羽中学校
台東区	7校	上野中学校 柏葉中学校	忍岡中学校 桜橋中学校	駒形中学校	浅草中学校 御徒町台東中学校
墨田区	10校	墨田中学校 吾嬬第二中学校	本所中学校 寺島中学校	両国中学校 文花中学校	豎川中学校 桜堤中学校 錦糸中学校 吾嬬立花中学校
江東区	23校	深川第一中学校 深川第六中学校 第三亀戸中学校 第三砂町中学校 東陽中学校	深川第二中学校 深川第七中学校 大島中学校 第四砂町中学校 大島西中学校	深川第三中学校 深川第八中学校 第二大島中学校 辰巳中学校 有明中学校	深川第四中学校 亀戸中学校 砂町中学校 南砂中学校 深川第五中学校 第二亀戸中学校 第二砂町中学校 第二南砂中学校
品川区	9校	東海中学校 荏原第一中学校	大崎中学校 荏原第五中学校	浜川中学校 荏原第六中学校	鈴ヶ森中学校 戸越台中学校 富士見台中学校
目黒区	9校	第一中学校 第十一中学校	第七中学校 東山中学校	第八中学校 目黒中央中学校	第九中学校 大鳥中学校 第十中学校
大田区	28校	大森第一中学校 貝塚中学校 大森第七中学校 羽田中学校 南六郷中学校 東蒲中学校	大森第二中学校 大森第四中学校 雪谷中学校 糎谷中学校 矢口中学校 蒲田中学校	大森第八中学校 大森第三中学校 大森第十中学校 出雲中学校 御園中学校 大森東中学校	馬込中学校 東調布中学校 大森第六中学校 六郷中学校 蓮沼中学校 馬込東中学校 田園調布中学校 石川台中学校 志茂田中学校 安方中学校
世田谷区	29校	太子堂中学校 緑丘中学校 弦巻中学校 深沢中学校 烏山中学校 喜多見中学校	桜丘中学校 駒留中学校 奥沢中学校 尾山台中学校 千歳中学校 三宿中学校	松沢中学校 梅丘中学校 八幡中学校 用賀中学校 芦花中学校 世田谷中学校	駒沢中学校 桜木中学校 玉川中学校 東深沢中学校 上祖師谷中学校 船橋希望中学校 北沢中学校 富士中学校 瀬田中学校 砧中学校 砧南中学校
渋谷区	8校	広尾中学校 松濤中学校	鉢山中学校 渋谷本町学園中学校	上原中学校 原宿外苑中学校	代々木中学校 笹塚中学校
中野区	9校	第二中学校 南中野中学校	第五中学校 中野中学校	第七中学校 中野東中学校	北中野中学校 明和中学校 緑野中学校
杉並区	23校	高円寺中学校 松溪中学校 井草中学校 高井戸中学校 和田中学校	高南中学校 天沼中学校 荻窪中学校 向陽中学校 西宮中学校	杉森中学校 東原中学校 神明中学校 松ノ木中学校 和泉中学校	阿佐ヶ谷中学校 中瀬中学校 宮前中学校 大宮中学校 東田中学校 井荻中学校 富士見丘中学校 泉南中学校
豊島区	8校	駒込中学校 巢鴨北中学校	西巢鴨中学校 明豊中学校	池袋中学校 西池袋中学校	千川中学校 千登世橋中学校
北区	12校	堀船中学校 王子桜中学校 滝野川紅葉中学校	稲付中学校 桐ヶ丘中学校 赤羽岩淵中学校	神谷中学校 明桜中学校	浮間中学校 十条富士見中学校 飛鳥中学校 田端中学校
荒川区	10校	第一中学校 第九中学校	第三中学校 尾久八幡中学校	第四中学校 南千住第二中学校	第五中学校 原中学校 第七中学校 諏訪台中学校
板橋区	1校	桜川中学校			
練馬区	33校	旭丘中学校 開進第二中学校 貫井中学校 石神井東中学校 大泉第二中学校 谷原中学校 光が丘第一中学校	豊玉中学校 開進第三中学校 田柄中学校 石神井西中学校 八坂中学校 三原台中学校 光が丘第二中学校	豊玉第二中学校 開進第四中学校 豊溪中学校 上石神井中学校 練馬東中学校 大泉北中学校 光が丘第三中学校	中村中学校 北町中学校 石神井中学校 大泉中学校 大泉西中学校 南が丘中学校 開進第一中学校 練馬中学校 石神井南中学校 大泉学園中学校 関中学校 大泉学園桜中学校
足立区	35校	第一中学校 第九中学校 第十四中学校 竹の塚中学校 西新井中学校 谷中中学校 入谷南中学校	第四中学校 第十中学校 江南中学校 東綾瀬中学校 入谷中学校 花保中学校 六月中学校	第五中学校 第十一中学校 新田中学校 花畑中学校 江北桜中学校 栗島中学校 千寿青葉中学校	第六中学校 第十二中学校 東島根中学校 蒲原中学校 伊興中学校 扇中学校 千寿桜堤中学校 第七中学校 第十三中学校 洲江中学校 青井中学校 花畑北中学校 加賀中学校 鹿浜菜の花中学校

葛飾区	24校	本田中学校 綾瀬中学校 双葉中学校 立石中学校 高砂中学校	金町中学校 上平井中学校 大道中学校 常盤中学校 東金町中学校	水元中学校 中川中学校 四ツ木中学校 一之台中学校 葛美中学校	新宿中学校 桜道中学校 小松中学校 青戸中学校 新小岩中学校	奥戸中学校 堀切中学校 亀有中学校 青葉中学校
江戸川区	33校	小松川第一中学校 松江第三中学校 瑞江中学校 小岩第二中学校 瑞江第三中学校 二之江中学校 清新第一中学校	小松川第二中学校 松江第四中学校 瑞江第二中学校 小岩第三中学校 葛西第三中学校 鹿骨中学校 南葛西第二中学校	小松川第三中学校 松江第五中学校 鹿本中学校 小岩第四中学校 松江第六中学校 南葛西中学校 清新第二中学校	松江第一中学校 葛西中学校 篠崎中学校 小岩第五中学校 篠崎第二中学校 西葛西中学校	松江第二中学校 葛西第二中学校 小岩第一中学校 上一色中学校 春江中学校 東葛西中学校
武蔵野市	6校	第一中学校 第六中学校	第二中学校	第三中学校	第四中学校	第五中学校
青梅市	10校	第一中学校 第七中学校	第二中学校 霞台中学校	第三中学校 吹上中学校	西中学校 新町中学校	第六中学校 泉中学校
府中市	11校	府中第一中学校 府中第六中学校 浅間中学校	府中第二中学校 府中第七中学校	府中第三中学校 府中第八中学校	府中第四中学校 府中第九中学校	府中第五中学校 府中第十中学校
調布市	8校	調布中学校 第六中学校	神代中学校 第七中学校	第三中学校 第八中学校	第四中学校	第五中学校
町田市	1校	真光寺中学校				
国分寺市	5校	第一中学校	第二中学校	第三中学校	第四中学校	第五中学校
狛江市	4校	狛江第一中学校	狛江第二中学校	狛江第三中学校	狛江第四中学校	
東大和市	5校	第一中学校	第二中学校	第三中学校	第四中学校	第五中学校
多摩市	9校	多摩中学校 鶴牧中学校	東愛宕中学校 多摩永山中学校	和田中学校 落合中学校	諏訪中学校 青陵中学校	聖ヶ丘中学校
羽村市	3校	羽村第一中学校	羽村第二中学校	羽村第三中学校		
大島町	1校	第一中学校				
三宅村	1校	三宅中学校				
新島村	2校	新島中学校	式根島中学校			
神津島村	1校	神津中学校				
青ヶ島村	1校	青ヶ島中学校				

区立中等教育学校

千代田区	1校	九段中等教育学校
------	----	----------

区立義務教育学校

品川区	6校	日野学園 豊葉の杜学園	伊藤学園	八潮学園	荏原平塚学園	品川学園
江東区	1校	有明西学園				

都立中学校

5校	白鷗高等学校附属中学校	両国高等学校附属中学校	武蔵高等学校附属中学校	富士高等学校附属中学校	大泉高等学校附属中学校
----	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

都立中等教育学校

5校	小石川中等教育学校	桜修館中等教育学校	立川国際中等教育学校	南多摩中等教育学校	三鷹中等教育学校
----	-----------	-----------	------------	-----------	----------

私立中学校

4校	愛国中学校	鷗友学園女子中学校	恵泉女学園中学校	武蔵野東中学校
----	-------	-----------	----------	---------

国立大学法人

2校	筑波大学附属中学校	東京学芸大学附属小金井中学校
----	-----------	----------------

個人会員名簿（13）

1. 堀居 英治	2. 倉持 俊義	3. 梶谷 正義	4. 内川 武雄	5. 松井 章朗
6. 花野 耕一	7. 富岡 逸郎	8. 森 健	9. 福島 正幸	10. 佐々木 健一
11. 手打 和明	12. 大塚 健一	13. 高石 公一	14. 関藤 緑	

入会の御案内

本会は、「産業界、教育界および教育行政当局が連携し相互に連絡協調して、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善をはかり、産業経済の発展に寄与すること」を目的としています。

産業教育に関心のある企業・学校・個人で入会希望の方または新会員を御紹介いただける方は、本会事務局まで御連絡ください。

(連絡先) 〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1 都庁第二本庁舎 15 階北側
東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内
東京都産業教育振興会事務局
TEL 03(5320)6729

編集後記

令和 3 年 4 月から、中学校では新しい中学校学習指導要領が全面実施となり、令和 4 年 4 月から、高等学校では新しい高等学校学習指導要領が年次進行で実施されています。

新学習指導要領は、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善等を通して、子供たちが未来の創り手となるために必要な資質・能力を育むことを求めており、各会員校はコロナ禍にあっても創意工夫して授業改善に取り組んでいます。そこで、本年度の特集テーマは、「主体的・対話的で深い学びを目指した産業教育の推進—各学校・学科の取組—」とし、会員校の実践を報告していただきました。

コロナ禍において、産業界と教育界、教育行政が連携して産業を担う人材を育成していくことは、今後ますます重要となります。産業教育の充実・発展のために本誌が幾許かの参考になればと願っております。

ホームページアドレス <https://www.tosanshin.org/>

表紙デザイン（平成 24 年度本誌第 50 号記念表紙デザインコンクール最優秀作品）
製作者 川口彩花さん（東京都立工芸高等学校 グラフィックアーツ科 3 年：当時）

ロゴマークデザイン（令和元年度東京都産業振興会ロゴマークコンクール最優秀作品）
製作者 黒岩風花さん（東京都立葛飾商業高等学校 3 年：当時）

東京の産業教育 第60号

発行 令和 5 年（2023 年）3 月 1 日 発行

東京都産業教育振興会

〒163-8001

東京都新宿区西新宿2-8-1 都庁第二本庁舎15階北

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内

TEL 03(5320)6729

印刷 株式会社小葉印刷所

再生紙を使用しています